◉非常特別税法（抜抄）（明治三十七年四月一日法律第三號）
改正（三八年第一號、三九年第七號、第一九號、四一年第三七號）

第二條　左ニ掲クル租税ニ付テハ關係法規ノ定メタル税額ノ外左ノ割合ノ税額ヲ増徴ス

十　鑛區税

試掘　鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢
採掘　鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢

第二條　第二條ニ依ル（地租、營業税、所得税及）鑛區税ノ増徴額ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス（三項）

◉鑛業税及砂金採取地税賦課徴收方（抜抄）
（明治四十年十二月十一日大藏省訓令第四十四號）
税務監督局　税務署

鑛業税及砂金採取地税賦課徴收方左ノ通相定ム

一　税務署長ハ毎納期開始前所轄鑛山監督署長ヨリ左ノ事項ノ通知ヲ受ケ課税ノ手續ヲ爲スヘシ

一　鑛業權者ノ住所氏名
二　鑛業製産物ノ價格及鑛區坪數
三　鑛業權ノ設定若ハ變更其ノ他ノ事項

三　税務署長ハ鑛業税又ハ砂金採取地税ヲ滯納シタル者アルトキハ滯納者ノ住所氏名及税目、滯納金額ヲ直ニ所轄鑛山監督署長ニ通知スヘシ

◉鑛夫及直接鑛業用物件ニ縣税ヲ課スルコトヲ得サル件（明治三十九年五月十七日兵庫縣飾磨郡庶第七三號第一部長ヨリ郡長姫路市長ニ通牒）

縣税營業税中職工税ハ鑛夫ニ對シ又雜種税中船、車水車、蒸汽機械等ノ諸税ハ直接鑛業用ニ使用スルモノニ對シテハ鑛業法第八十八條ニ依リ何レモ課税スルコトヲ得サル筈ニ付爲念此段及通牒候也

◉縣税ヲ課スルコトヲ得サル鑛業用工作物ノ區分（明治三十九年六月一日地發第一四五號地方局長通牒）

鑛業法第八十八條ニ規定セル鑛業用ノ工作物ニ關スル課税ノ件別紙熊本縣照會ニ對シ左記ノ通リ及回答候條爲念此段及通牒候也

（左記）

前段見込ノ通

追テ照會ノ納屋ハ鑛夫收容所或ハ鑛業用物品等ノ藏置場ヲ指シタルモノト認メ回答ス

熊本縣照會　三十九年三月七日

本縣ニ於テハ營利ヲ目的トスル私法人ノ使用建物ニ縣税ヲ賦課致來リ而シテ其課税ノ標準ハ之ヲ事務所、倉庫、納屋等ニ區別致候處右ハ鑛業法第八十八條ノ直接鑛業用ノ工作物ト云ヘルニ該當シ縣税ヲ賦課スルコトヲ得サル義ニ候哉又ハ前記ノ建物ハ鑛業上直接必用ノ工作物ニアラサルヘク要スルニ間接必要ノ工作物ニ過キサル義ト認メラレ候間依然縣税ヲ賦課スルモ差支ナキ義ニ有之候哉御意見承知致度此段及照會候也

◉皇族所有ノ車馬ニ地方税ヲ課セサル件（明治十六年六月九日内務省達乙第三十號（輪廓附））
府縣（函館札幌根室沖縄四縣ヲ除ク）

皇族所有ノ車馬ヘハ明治十六年度以降（地方税）賦課不相成候條此旨相達候事

◉酒造税法（抜抄）（明治二十九年三月二十八日法律第二十八號）
改正（三一年第二三號、三三年第四二號、三四年第七號、三八年第三號、四一年第一八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル酒造税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造税法

第三十五條　府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石税ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石税ヲ標準トシテ府縣税若ハ地方税及市町村税其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課税スルコトヲ得ス

◉相續税法（抜抄）（明治三十八年一月一日法律第十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル相續税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續税法

第二十六條　府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第二章　賦金

◉貸座敷娼妓賦金徴收規則
（明治三十二年十月三十一日兵庫縣令第六十四號）
改正（三三年第七七號、四一年第七三號）

貸座敷娼妓賦金徴收規則左ノ通相定ム

第一條　貸座敷娼妓賦金徴收規則

賦課ス

一等地　神戸市ノ内福原町
二等地　神戸市ノ内新川武庫郡西ノ宮町ノ内東ノ町石在町鞍掛町久保町中ノ町釘貫町馬場町明石郡明石町ノ内本町字新地姫路市飾磨郡水上村ノ内梅ケ坪
三等地　加古郡高砂町ノ内南渡海町北渡海町治郎助町飾磨郡飾磨町ノ内須加町津名郡洲本町ノ内漁師町多紀郡八上村ノ内池上村字藏之坪、ソフラ之坪
四等地　揖保郡室津村室津

第二條　貸座敷賦金ハ貸席家屋ノ總坪數ヲ標準トシ別表ノ區別ニ依リ毎月之ヲ賦課ス

第三條　前條坪數ノ計算方ハ二階三階共總テ併算スヘシ但客座敷ノ坪數ヲ除キタル他ノ坪數（板椽、廊下、階段、場、店、調理場、土間等）ハ總テ二坪ヲ以テ一坪ニ計算ス（押入、床ノ間、幅）計算ノ結果一坪未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ト

ス

第四條　娼妓賦金ハ左ノ區別ニ依リ毎月之ヲ賦課ス

一等地　金貳圓七拾五錢
二等地　金貳圓五拾錢
三等地　金貳圓貳拾五錢
四等地　金貳圓

第五條　（削除）

第六條　賦金ハ其月分ヲ毎月五日限リ郡市役所ニ納付スヘシ但納付ノ當日ニ於テ第十條第十一條ニ該當スルモノアルトキハ其免除ノ期間ヲ經過シタル日ノ翌日ヨリ五日以内ニ納付スヘシ

納期前若クハ納期後新規開業ノモノハ其時々納付スヘシ

第七條　貸座敷及娼妓ノ開業其月十五日以前ナルトキハ全月分十六日以後ナルトキハ半月分ヲ徵收ス

貸座敷及娼妓ニシテ前月ヨリ引續キ營業ノモノ廢業スルモ其當月分ノ賦金ヲ還付セス貸座敷營業ノ免許ヲ取消サレ又ハ娼妓稼業ヲ禁止セラレタル場合亦同シ

第八條　左ノ事故ニ依リ賦金ニ變更ヲ生シタルトキハ其翌月分ヨリ相當賦金ヲ徵收ス

一　家屋坪數ニ增減ヲ生シタルトキ
一　娼妓他ノ認許地ニ轉籍シタルトキ

娼妓轉籍ノ場合ニ於テ郡市役所ノ所轄ヲ異ニスルトキハ其月ノ賦金ハ舊所轄ノ郡市役所ニ納付スヘシ

第九條　貸座敷營業者及娼妓稼業者其月分賦金ヲ納メタル後廢業シ同月内再ヒ同營業ヲ爲スモノハ引續キ營業者ト見做ス

第十條　左ノ場合ニ於テハ日割ヲ以テ賦金ヲ免除ス

一　傳染病流行ノ爲メ交通ヲ遮斷セラレ又ハ其他ノ事故ニ依リ貸座敷及娼妓ノ營業ヲ停止セラレタルトキハ其停止ノ當日ヨリ解停ノ前日迄
二　娼妓（驅徵院）ヘ入院セシトキハ入院ノ日ヨリ退院ノ前日迄

第十一條　娼妓左ノ各項ニ該當シ引續キ休業十六日以上ニ至ルトキハ日割ヲ以テ賦金ヲ免除ス

一　疾病ニ罹リシ爲警察官署ヘ届出休業シタルトキ
二　犯罪ニ依リ拘禁セラレタルトキ
三　失踪セシトキ

第十二條　納付期日ニ賦金ヲ納付セサルモノハ徵收ハ國稅滯納處分ノ例ニ依ル

附　則

第十三條　本則ハ明治三十二年十一月分所屬ノ徵收ヨリ之ヲ施行ス

從來樣續キノ貸座敷營業者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條第一項ノ納期ハ本則施行ノ月ニ限リ十五日間延期スルコトヲ得

明治十四年十二月達甲第二〇四號貸席娼妓賦金收納規則ハ明治三十二年十月分所屬ノ徵收限リ之ヲ廢止ス

（別表）

等地 ＼ 課率	家屋總坪數ノ内 三十坪迄ハ一坪ニ付	三十一坪以上九十坪迄ハ一坪ニ付	九十一坪以上百八十坪迄ハ一坪ニ付	百八十一坪以上ハ一坪ニ付
一等地	七錢	六錢	五錢	四錢
二等地	七錢	五錢	四錢	參錢
三等地	六錢	四錢	參錢	貳錢
四等地	四錢	參錢	貳錢	壹錢

◉貸座敷賦金賦課區分（明治三十年五月十七日一第二二五〇三號内務部長ヨリ神戸、姫路、武庫、明石、加古、揖保、津名ノ郡市長ニ通牒）

岡山縣間（略）ニ對スル縣治主稅兩局長通牒（其ノ一）三十年五月一日（電報）

客月十四日伺貸座敷業ハ營業稅法ノ範圍外ト存ス依命通牒ス

（其ノ二）

客月十四日議甲第四號ヲ以テ貸座敷賦金ノ義ニ付伺出ニ對シ電報ヲ以テ及通牒候處元來貸座敷ナルモノ、業體ハ客ノ需ニ應シ娼妓ヲ供スルヲ目的トスルモノナレハ娼妓カ客ヨリ受ケタル揚代金ノ幾分ヲ該業者ニ於テ收得スルモ營業稅法ノ席貸業ニアラサルハ勿論貸座敷業ニシテ娼妓ヲ供スル爲メ席料ヲ客ヨリ收得シ又ハ娼妓ヲ供スル場合客ノ需ニ應シ飲食物ヲ供スルコトアルモ其行爲ハ主タル目的ニ附隨シタルモノナルニ依リ營業稅法ノ席貸若クハ料理店業ト云フヲ得スト存候ニ付爲念此段及通牒候也

追伸普通集會等ノ爲メ客室ヲ貸シ飲食物ヲ供スル等別種ノ業務ヲ營ムハ本文ノ限リニ無之儀ト御承知相成度此段申添候也

◉引手茶屋課稅區分（明治三十年五月三十一日縣甲第七八號縣治主稅兩局長通牒）

貸座敷賦金ノ件ニ付本月七日岡甲第三七號ヲ以テ及通牒候處引手茶屋モ右ト同一旨趣ニシテ其業務ヲ營ムニ際シ席ヲ貸シ飲食物ヲ供スルコトアルモ營業稅法ニ依リ席貸業又ハ料理店業トシテ課稅スヘキ筋ニ無之尤モ集會等ノ爲メ席ヲ貸シ飲食物ヲ供スル等別種ノ業務ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ兼業ニ對シ國稅ノ賦課ヲ受クヘキハ勿論ノ義ニ有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

◉貸座敷引手茶屋娼妓營業停止方（明治三十二年七月十二日地甲第五八號地方局長通牒）

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金徵收ニ付テハ府縣制第百十六條二項ニ依リ滯納處分ヲ爲シ得ルコトニ相成候處右營業者ニ對シ營業停止ノ必要アル場合ニ於テハ尙ホ從來ノ通リ營業ノ停止ヲ爲スハ別ニ妨ケ無之候右ニ付テハ新制施行後營業停止ヲ爲スコトヲ得サルヤニ相考聞合ノ向モ有之候間爲念此段及通牒候也

◎貸座敷坪數算定方（明治三十二年十一月十四日一第四九八〇號ノ一　内務部長ヨリ姫路、武庫、明石、加古、飾磨、揖保、津名ノ郡市長ニ通牒）

客月三十一日縣令第六十四號ヲ以テ貸座敷娼妓賦金徴收規則改正相成候處該規則第三條但書客座敷ヲ除キタル坪數ニハ家族ノ部屋其他炊事場湯殿雪隠物置及客ノ通路等渾テ包含スル筈ニ有之往々問合越ノ向モ候條爲念此段及通牒候也

◎貸座敷賦金課額算定方（明治三十三年十月三十一日一甲第一五四八號　内務部長ヨリ神戸、姫路、武庫、明石、飾磨、揖保、加古、津名ノ郡市長ニ通牒）

客年十月貸座敷娼妓賦金徴收規則改正相成候處其第二條貸座敷賦金ハ規則別表記載ノ通坪數ヲ増ス毎ニ家屋總坪數ノ内ニ於テ課率ヲ遞減セラレタルモノニ付三十坪以上ノ家屋ニ在テハ二種乃至四種ノ課率ヲ乗スヘキモノニ有之（左記一例ノ通）而ルニ賦金額算出上往々誤解ノ向有之赴ニ付若シ賦課上錯誤アルモノハ改正當時ニ遡リ夫々更正ノ手續可相成此段及通牒候也

追テ曩ニ報告相成候三十四年度縣税外收入豫算調書中誤謬アル向ハ折返シ更正額報告相成度申添候也

（左記）

一百九十坪ノ家屋　一號地　一ケ月ノ賦金

内

三十坪迄　一坪七錢　此金額　二圓十錢

三十一坪以上九十坪迄　六十坪　同　六錢　同　三圓六十錢

六十一坪以上百八十坪迄　九十坪　同　五錢　同　四圓五十錢

百八十一坪以上百九十坪迄　十　坪　同　四錢　同　四十錢

計金　十圓六十錢

◎貸座敷引手茶屋娼妓賦金賦課並處分方（明治二十一年八月七日閣令第十二號　改正（二二年第二八號））

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ（地方税）雑收入ニ編入スヘシ

警察機密費（高等警察ニ關スルモノヲ除ク）ハ警察費中ノ一科目トシ檢徴費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方税ヨリ支辨スヘシ

◎明治二十一年閣令十二號施行期日（明治二十一年八月十日閣令第十三號）

本年閣令第十二號ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

◎貸座敷營業取締規則（抜抄）（明治三十九年九月十日兵庫縣令第二十六號）

第一條　貸座敷營業ハ本廳ニ於テ指定シタル地域内ニ限ルモノトス

第二條　貸座敷營業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヘ願出許可ヲ受クヘシ支店ヲ設クムトスルトキ亦同シ

一　樓名又ハ屋號

二　營業場所

三　營業用建物ノ間取及坪數等ヲ詳記シタル圖面及構造仕樣書

營業用家屋ノ改築增築修繕變更ヲ爲サムトスルトキハ前項第三號ノ書類圖面ヲ添付シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　營業用建物ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ其證ヲ受ルニアラサレハ營業ニ供用スルコトヲ得ス

第五條　營業用建物ニシテ危險豫防其ノ他衛生風俗上必要ト認ムルトキハ之カ改築又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ第一號ハ家族ヨリ其他ハ本人又ハ法定代理人一若ハ保佐人ヨリ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一　死亡又ハ所在不明ノトキ

二　改氏名又ハ樓名家號ヲ變更シタルトキ

三　廢業又ハ休業シタルトキ

四　寄寓娼妓ノ逃亡轉居又ハ死亡シタルトキ

五　法定代理人又ハ保佐人ノ改氏名シタルトキ

第八條　營業ニ關シ目立ツヘキ看板又ハ標燈ヲ掲ケ其ノ他外觀ヲ裝フヘキ裝置ヲ爲スヘカラス

第十九條　營業者ハ一區域毎ニ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ

營業者少數ニシテ一地域内ニ組合ヲ設ケ得サル事情アルトキハ所轄警察官署ニ届出其ノ命令ニ從フヘシ

第二十三條　營業者ニシテ十二年未滿ノ者及禁治産者ニ在テハ法定代理人又準禁治産者ニ在テハ保佐人ヲシテ其ノ責ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第二十五條　營業ノ許可ヲ得タル後正當ノ事由ナクシテ三ケ月以上開業セス又ハ六ケ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第二十六條　營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業許可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一　本則ニ違背シタルトキ

二　公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

三　營業者トシテ不適當ト認ムルトキ

他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルトキ

◎貸座敷營業取締規則執行心得（抜抄）（明治三十九年七月十二日保訓第七號警務長ヨリ警察署長同分署長ニ訓達）

第二條　規則第四條ニ依リ工事落成ヲ届出タルトキハ實地調査ヲ遂ケ其構造規則ニ適合スルモノト認メタルトキハ檢査證ヲ下付スヘシ

附則

第十二條　工事落成ノ檢査證及營業者並雇人名簿ハ從來ノ附錄樣式ニ依リ整理スヘシ（明治三十三年十月二十五日指第二四三號貸座敷營業取締規則執行心得第四條規定ノ樣式）（附錄第二號　用紙西ノ内十二枚切）

貸座敷構造檢査濟ノ證

（何）市郡（何）町村番地

營業者　何　某

契印

明治　年　月　日

兵庫縣（何）警察（何）分署

◉警察官署ニ於テ興行及營業ヲ許可シタル際郡市役所ニ通知取扱方（扱抄）
（明治二十五年十一月指第一五〇號警部長ヨリ警察署長同分署長ニ達）

警察署分署ニ於テ納税ニ關係アル諸興業及ヒ營業ヲ許可シタルトキハ自今左ノ手續ニ依リ所轄郡市役所ヘ通知セラルヘシ

一　諸興業及ヒ營業〔許可ノ指令書若クハ免許證鑑札ハ之レヲ封緘シ〕所轄郡市役所ヘ回送スヘシ但シ時宜ニ因リ簿冊ヲ以テ通知スルモ妨ケナシ

二　郡役所ト遠隔ノ警察分署ニ於テハ出願人ノ便宜ニ從ヒ前項ノ手續ニ因ラス別ニ書面ヲ發シテ通知スルコトヲ得

◉貸座敷營業免許地（明治十四年十二月二十七日兵庫縣甲第二百一號達貸席取締規則但シ同則（明治三十一年兵庫縣令第二十七號）ヲ以テ廢止）

〔第一條　貸席業ヲ營ム者ハ此警察取締規則ヲ遵守スヘシ〕

〔第二條　該營業ハ免許地（攝津國神戸區ノ内福原町、新川攝津國武庫郡西宮ノ内東ノ町、石在町、久保町、鞍掛町、中ノ町、釘貫町、馬場町、播磨國明石郡ノ内本町字新地、播磨國加古郡ノ内高砂町字南渡、海町、北渡海町、治郎助町、播磨國飾東郡ノ内梅ヶ坪、飾磨津、須加町、播磨國揖東郡ノ内室津、淡路國津名郡ノ内漁師町）ニ限リ他所ニ於テ營業相成ラス〕

◉貸座敷免許地ハ從來ノ儘据置（明治三十二年十月五日内務省訓令第三十二號）

廳府縣（東京府ヲ除ク）

貸座敷免許地ハ從來ノ儘之ヲ据置キ若シ將來新設移轉若クハ擴張ノ必要ヲ生シタルトキハ詳細事由ヲ具シ稟請スヘシ

◉姫路市梅ケ坪貸座敷免許地廢止（明治三十年七月二十六日兵庫縣令第四十四號）

〔明治十四年十二月甲第二百一號貸座敷取締規則第二條〕中姫路市梅ケ坪貸席免許地ハ明治三十二年五月三十一日限リ之ヲ廢止ス同市若クハ其附近ニ於テ同業ヲ繼續セントスルモノハ更ニ適當ノ位置區域ヲ選定シ所轄警察署ヲ經テ當廳ヘ願出免許ヲ受クヘシ

◉姫路市梅ケ坪貸座敷免許地廢止方延期（明治三十一年四月三十日兵庫縣告示第百十九號）

姫路市梅ケ坪貸席免許地來ル明治三十二年五月三十一日限廢止スヘキノ處尚明治三十五年五月三十一日迄同地ニ於テ繼續營業スルコトヲ得

◉姫路市梅ケ坪貸座敷免許地廢止方延期（明治三十五年四月二十一日兵庫縣令第三十二號）

姫路市梅ケ坪貸座敷免許地ノ廢止ハ明治三十八年五月三十一日迄延期ス

◉姫路市梅ケ坪貸座敷免許地廢止方當分延期（明治三十八年五月二十日兵庫縣令第二十號）

明治三十五年四月縣令第三十二號姫路市梅ケ坪貸座敷免許地ノ廢止ハ當分ノ内之ヲ延期ス

◉多紀郡八上村貸座敷營業免許地（明治四十一年一月十五日兵庫縣告示第二十七號）

多紀郡八上村ノ内池上村字藏之坪、ソフラ之坪ノ一部ヲ貸座敷營業免許地ニ指定ス

◉娼妓取締規則（扱抄）（明治三十三年十月二日内務省令第四十四號）

第一條　十八歳未滿ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

第二條　娼妓名簿ニ登錄セラレサル者ハ娼妓稼ヲ爲スコトヲ得ス（一項）

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス（二項）

第三條　娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓タラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ（一項）

一　娼妓ト爲ルノ事由

二　生年月

三　同一戸籍内ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實

四　未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト

五　娼妓稼ヲ爲スヘキ場所

六　娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居

七　現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實

八　娼妓タリシ事實ノ有無並ニ嘗テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシトキノ住居及稼業廢止ノ事由

九　前各號ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項

前項ノ申請ニハ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本、前項第三號第四號ノ承諾書及市區町村長ノ作リタル承諾者印鑑證明書ヲ添付スヘシ（二項）

第四條　娼妓稼ヲ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ヨリ削除セラルルモノトス

前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但シ未成年者ニ在テハ前條第一項第三號及第四號ニ掲クル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得

第五條　娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ

前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非サレハ受理セサルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ托シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハサル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ノ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

第七條　娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス（一項）

第八條　娼妓稼ハ官廳ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治癒ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十一條　警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得　廳府縣長官ハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

◉娼妓取締規則施行細則（明治三十三年十月二十五日兵庫縣令第七十四號）

改正（三四年第五〇號）

第一條　規則第三條ノ名簿登錄申請書ニハ妓名及稼業年限ヲ記載スヘシ

娼妓名簿ノ登錄ヲ受ケタルトキハ其證ヲ受クヘシ

第二條　娼妓ハ本廳ニ於テ指定シタル貸座敷營業地域內ニ非サレハ住居スルコトヲ得ス

第三條　娼妓名簿ノ登錄ヲ受ケタル後族籍氏名若ハ妓名ヲ改メ又ハ同一地域內ニ於テ住居及稼業ノ年限若ハ場所ヲ變更シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ出頭シ名簿登錄ノ訂正ヲ申請スヘシ但稼業年限ヲ延長セントスル場合ニ於テハ規則第三條第一項第三號第四號ニ規定シタル者ノ承諾書ヲ添付スヘシ若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其事實ヲ具スヘシ

第五條　娼妓健康診斷醫員ニ於テ左ノ疾患アリト診斷シタル娼妓ハ本廳ニ於テ指定シタル病院又ハ治療所ニ於テ入院治療ヲ受クヘシ娼妓自ラ覺知シタルトキ亦同シ但シ他ノ疾病ト併發シタルモノニシテ重症ニ係ル者ハ此限リニアラス（一項）（左記略）

第六條　娼妓稼業中ハ所轄警察官署ノ下附シタル名簿登錄證及娼妓健康診斷醫員ノ下付シタル健康證明書ヲ携帶スヘシ

第七條　娼妓名簿ノ登錄證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第八條　娼妓事故ノ爲メ一時休業セントスルトキハ其旨所轄警察官署ニ屆出ヘシ就業セントスルトキ亦同シ

第十條　娼妓ハ左記各號ニ該當スル行爲アルヘカラス

五　名簿登錄證又ハ外出許可證ヲ他人ニ交付シ又ハ交付ヲ受クルコト

◉娼妓取締規則及同則施行細則執行心得（抜抄）（明治三十三年十月二十五日指第二四二號警察部長ヨリ警察署長分署長ニ指示）

第二條　娼妓名簿ニ登錄シタルトキハ別紙第二號樣式ノ登錄證ヲ下附シ取締ノ便ニ供スヘシ

第三條　娼妓健康診斷醫員ニ於テ疾患其他健康上娼妓稼業ヲ爲スニ堪ヘスト診斷シタル者又ハ命令違反者等取締上娼妓稼業ヲ續行セシムヘカラスト認ムル者ニ對シテハ稼業ヲ禁止スルモノトス但疾病又ハ健康ノ快復難カラスト診斷シタル者ニ對シテハ此限リニアラス

前項但書ニ該當スル者又ハ取締上單ニ懲戒ヲ要スルト認ムルニ止マル者若ハ賦金ヲ怠納シタル者ハ其稼業ヲ停止スルモノトス

第四條　禁止ノ言渡ヲ爲シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除シ下附ノ名簿登錄證ヲ返納セシムヘシ（二項）

第五條　停止ノ言渡ヲ爲シタルトキ又ハ休業ノ屆出ヲ受ケタルトキハ名簿ニ其旨ヲ記入シ下付ノ名簿登錄證ヲ差出サシムヘシ

第七條　細則第三條ニ依リ名簿登錄ノ訂正ヲ申請スルモノアルトキハ其訂正ヲ爲スト同時ニ下付ノ登錄證ヲモ訂正スヘシ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ郡市役所ニ通知スヘシ

一　娼妓名簿ニ登錄シ又ハ其登錄ヲ削除シタルトキ

二　娼妓稼業ヲ停止シ及其停止ヲ解キタルトキ

三　十六日以上娼妓稼業ヲ休止シ及其就業シタルトキ

四　細則第五條ノ病院ニ入院ヲ命セラレタルトキ及退院シタルトキ

（附錄第二號用紙爲子）一備考　妓名ハ氏名ノ上部ニ朱書スヘシ

表

縱三寸五分　花紋　横五寸二分

兵庫縣

娼妓名簿登錄之證

番號	稼業場	稼期間	本籍	住所	妓名及氏名	生年月

◉娼妓賦金滯納者ヲ警察官署ニ通報方（明治三十一年三月三十一日第一五三二號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

今般貸席及娼妓取締規則改正同賦金收納規則中削除相成候ニ付テハ右取締規則第八條三號第二十三條五號（第二十三條五號賦金ヲ怠納シタルモノ（但爾後完納シタルモノハ此限ニ在ラス）ニ該當スルモノアルトキハ其時々所轄警察官署ヘ通報可有之依命此段及通達候也

裏

明治　年　月　日登錄ニ付下付

（何）警察（分）署　署印

◉第三章　縣税及賦金徵收

（賦金徵收ノ一部ハ本輯第二章ニ收ム）

◉府縣税徵收ニ關スル制（明治三十三年三月三十日勅令第八十一號）改正（三五年第一七三號）

第一條　朕府縣税徵收ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村ハ其ノ市町村內ノ府縣税ヲ徵收シ之ヲ

府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

前項府縣税ノ徴收ニ關シテハ地租ノ附加税ヲ除クノ外徴收金額百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第二條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條　府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アルモノハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四條　府縣税ヲ徴收セムトスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徴税令書ヲ發シ市町村長ハ徴税令書ニ依リ徴税傳令書ヲ調製シ之ヲ納税人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納税人ニ對シ徴税令書ヲ發スルコトヲ得

第五條　徴税傳令書ヲ受ケタル納税人ハ其ノ税金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納税ノ義務ヲ了ス

徴税令書ヲ受ケタル納税人ハ其ノ税金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納税ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徴收シタル府縣税ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金納入ノ義務ヲ了ス

第六條　徴税傳令書ヲ受ケタル納税人納期内ニ税金ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ其ノ滯納ノ税目、金額及滯納人ノ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徴税令書ヲ發シタル官吏吏員ニ報告スヘシ

徴税令書ヲ發シタル官吏吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徴税令書ヲ受ケタル納税人納期内ニ税金ヲ完納セサルトキ亦同シ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ

第七條　督促狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徴收ス

手數料ノ額ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

市町村長ヲシテ督促狀ヲ發セシメタルトキハ手數料ハ之ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第八條　納税人左ノ場合ニ該當スルトキハ徴税令書又ハ徴税傳令書ヲ交付シタル府縣税ニ限リ納期前ト雖之ヲ徴收スルコトヲ得

一　國税徴收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ

二　强制執行ヲ受クルトキ

三　破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　競賣ノ開始アリタルトキ

五　法人カ解散ヲ爲シタルトキ

六　納税人脫税又ハ逋税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第九條　相續開始ノ場合ニ於テハ府縣税、督促手數料及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徴收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徴收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ府縣税、督促手數料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第十條　共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル府縣税、督促手數料及滯納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第十一條　同一年度ノ府縣税ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徴收スヘキ同一税目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第十二條　納税義務者納税地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ郡長又ハ市長ニ申告スヘシ其ノ納税管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條　徴税令書、徴税傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納税管理人アルトキハ納税ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第十四條　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第十五條　府縣税ノ徴收期ハ府縣知事之ヲ定ム

第十六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル府縣税ノ徴收ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第十七條　本令ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉兵庫縣郡部縣税徴收細則

（明治三十三年四月二十六日兵庫縣令第二十九號　改正（三五年第一九號、第五〇號、四〇年第四五號、四一年第四九號））

明治三十三年三月勅令第八十一號第十條ニ依リ縣税徴收ニ關スル細則左ノ通相定ム

縣税徴收細則

第一條　縣税徴收ニ關スル徴税令書ハ郡市長（神戸市長ヲ除ク以下同シ）ヲシテ之ヲ發セシム

第二條　日税及新ニ納税義務ノ發生シタル月ノ月税ニシテ町村ニ屬スル縣税ハ郡長ニ於テ直チニ納税人ニ對シ徴税令書ヲ發スヘシ

第三條　郡長ニ於テ發スル徴税令書ハ左ノ區分ニ依ル

一　年税（附税税ヲ除ク）及季税トシテ賦課スル徴税令書ハ納期前十五日限リ發スヘシ

新ニ納税義務ノ發生シタルモノ、徴税令書ハ納税義務ノ發生シタル翌月十日限リ發スヘシ

二　月税トシテ賦課スル徴税令書ハ一月ハ十日限リ其他ハ毎月五日限リ發スヘシ但新ニ納税義務ノ發生シタル月ノ月税ニ係ル徴税令書ハ此ノ限リニアラス

三　其他ノモノニ係ル徴税令書ハ其時々之ヲ發スヘシ

市長ニ於テ發スル徴税令書及市町村長ニ於テ發スル徴税傳令書ハ其納期以前ニ於テ之ヲ發スヘシ

第四條　郡市長ニ於テ發スル徴税令書ハ第一號式ニ市町村長ニ於テ發スル徴税傳令書ハ第二號式ニ依リ調製スヘシ

第五條　徴税令書又ハ徴税傳令書ヲ發シタル後納付ノ前税額ニ異動ヲ生シタル場合ハ其増加ニ付テハ令書ヲ追發シ減額ニ付テハ更正令書ヲ發スヘシ但減額ヲ要スヘキ場合ニ於テ市町村ニ係ルモノハ更正令書ヲ發セス單ニ徴税令書中更正スヘキ廉ノミニ付キ令達スルコトヲ得

前項税額ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ市町村長ハ其都度第三號式ニ依リ其金額及事由ヲ郡市長ニ報告スヘシ

徴收上ノ結束税額ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ヲ要セス市町村長ハ前項ノ例ニ準シ報告スヘシ

第六條　（削除）

第七條　徴税令書ヲ受ケタル納税人ハ該令書ニ税金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ

徴税傳令書ヲ受ケタル納税人ハ該令書ニ税金ヲ添ヘ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ

第八條　市町村長ニ於テ徴收シタル税金ハ期限後三日限リ第四號式ニ依リ納付書ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ但期限ノ末日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

第九條　縣税ノ徴收期ハ左ノ各項ニ依ル

一　年税

地租割
營業税
雑種税ノ内
料理屋税　待合茶屋税
芝居茶屋税　飲食店税　遊船宿税
理髪人税　遊藝師匠税　湯屋税
相撲税　俳優税　遊藝稼人税
船車税　定場市場税
乘馬税　自轉車税　水車税
日本形船税　西洋形船税　蒸氣器械税
第一種漁業税（郡部漁業税規則第四條）
戸數割
家屋税

以上前半期五月十六日ヨリ同月三十一日限リ後半期十一月十六日ヨリ同月三十日限リ

雑種税ノ内
第一種漁業税（郡部漁業税規則第五條後段）　第二種漁業税
第四種漁業税中網漁税
以上五月十六日ヨリ同月三十一日限リ
雑種税ノ内
狩猟税
以上狩猟法ニ依リ免許ヲ受ケタル時々
營業税附加税　第一種、第三種所得税附加税
以上營業税又ハ第一種、第三種所得税ノ納期ニ依ル
第二種所得税附加税
以上第二種所得税納税ノ時々

一　季税

雑種税ノ内
鱒堰罩税　鱒瀬張網税　鱒地曳網税
鮎筌税
以上五月十六日ヨリ同月三十一日限リ
雑種税ノ内
鮎瀬張網税　鮎掛漁税　鰻漁税
以上七月十五日ヨリ同月三十一日限リ
雑種税ノ内
簗税　堰筌税　鮭堰罩税
鮭瀬張網税　鮭地曳網税
以上十一月十六日ヨリ同月三十日限リ

一　月税

雑種税ノ内
相撲税　俳優税　幇間税
藝妓税　定場遊技場税　人寄席税
以上毎月十六日ヨリ二十日限リ

一　日税

雑種税ノ内
臨時市場税　演劇税　興業税
遊覽所税　臨時遊技場税
以上開場又ハ興行開始前
雑種税ノ内
屠畜税
以上豫納又ハ屠畜ノ時々

一　郡部縣税賦課規則第一條第二項及第三項（新ニ納税義務ノ發生シタル月ノ月税ヲ除ク）第二十四條第三十七條第四十四條及郡部漁業税規則第三條第二項ニ該當スルモノ以上納税義務ノ發生シタル翌月ノ十六日ヨリ二十日限リ

前項ノ納期末日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

第十條　前條ノ外隨時ノ賦課ニ係ル縣税ノ徴收期ハ郡市長ニ於テ其時々定ムル所ニ依ル

追加縣税ノ徴收期ニ關シ本則ノ規定ニ依リ難キ場合ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條ノ一　納期ヲ過キ税金ヲ完納セサルモノアルトキハ市町村長ハ直ニ第五號式ニ依リ滞納報告書ヲ郡市長ニ送付スヘシ

督促狀ハ第九號式ニ依リ七日以内ニ於テ期限ヲ指定スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金八錢ヲ徴收

ス

第十一條ノ二　徴税傳令書ヲ交付シタル縣税ニシテ納期前ニ於テ徴收スルノ必要アルトキハ市町村長ハ其事由ヲ詳記シ速ニ郡市長ニ報告スヘシ

郡市長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ納期日ノ變更ヲ納税人ニ告知シ之カ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ徴税令書ヲ交付シタル縣税ニシテ納期前徴收ノ必要アルトキ亦同シ

第九條ノ納期内納期終了前ニ於テ徴收スルノ必要アルトキ亦前二項ノ例ニ依ル

第十一條ノ三　町村ノ納税管理人ニ關スル申告ハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十一條ノ四　使丁ヲ以テ督促狀ノ送達ヲ爲ストキハ第十號式ノ送達證ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ

第十一條ノ五　書類ノ送達ニ關スル公告ハ其書類ヲ發シタル行政廳ノ掲示場ニ之ヲ爲スヘシ

第十二條　納期後ニ於テ滯納税金ヲ拂込マントスルトキハ第六號式ノ納付書ニ主任官吏若クハ吏員ノ認印ヲ受ケ之レニ現金ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ムヘシ

滯納處分ニ依リ取得シタル滯納税金ハ縣出納吏ニ於テ第七號式ニ依リ納付書ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第十三條　市町村長若クハ納税人ニ於テ税金ノ過誤納ヲ發見シタルトキハ第八號式ニ依リ其金額及事由ヲ詳記シ徴税令書若クハ徴税傳令書ノ發付者ニ下戻ヲ請求スヘシ

郡市長ニ於テハ本廳ニ下戻ヲ請求スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ納税人過納ノ税金ヲ以テ同一年度爾後ノ納期ニ徴收スヘキ同一税目ノ税金ニ充テントスルトキハ徴税令書若クハ徴税傳令書ノ發付者ニ申告スヘシ

市町村長前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ第八號式ニ準シ郡市長ニ其旨報告スヘシ

第十四條　本則ハ明治三十三年四月ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年三月兵庫縣令第十八號兵庫縣縣税徴收期限ハ之ヲ廢止ス

附則

第十五條　營業税附加税ヲ除キタル他ノ年税ニ對スル明治三十五年度前半期縣税徴收期（漁業採藻税共）ニ限リ六月五日ヨリ二十日迄ニ延期ス

附則（四十一年兵庫縣令第四十九號ノ附則）

本令ハ明治四十一年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

縣税ノ徴收期中本年度ニ限リ鰶堰罩税、鰶瀨張網税、鰶地曳網税、鮎筌税、郡部漁業税規則第五條後段ニ該當スル第一種漁業税、第二種漁業税及網漁税ハ十一月十六日ヨリ同月三十日限リトシ鮎瀨張網税、鮎掛漁税、鰻漁税及郡部漁業税規則第四條ニ該當スル第一種漁業税前半期分ニ付テハ郡市長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第一號式（丙）徴税令書、第四號式第六號式第七號式納付書及第十號式送達書ノ書式ハ第一號式（丙）徴税令書中但書ノ追加ニ係ルモノヲ除クノ外當分ノ間舊書式ニ依ルコトヲ得

第一號式（甲）　用紙適宜　輪廓縦四寸五分　横三寸三分

徴税令書

第何號		何市町（村）納
明治何年度	縣税（欵）	何期分

一金若干
内
金若干
内
金　何々（項）
金　何々（目）

右何年何月何日限何地縣本（支）金庫ヘ拂込ムヘシ

年月日　何郡市長氏　名印

備考

一　項ハ之ヲ省クモ妨ケナシ以下各號式之ニ倣フ

二　節アルモノハ目ニ其内譯ヲ記載スヘシ但節ノ數一ナルトキハ目ノ下ニ節名ノミヲ記載シ其金額ノ内譯ヲ省クモ妨ケナシ以下各號式之ニ倣フ

三　目又ハ節ヲ列記シ難キ場合ハ仕譯書ヲ添フヘシ以下各號式之ニ倣フ

四　追加又ハ更正令書ハ番號ノ肩欄外ニ其旨ヲ摘記スヘシ

五　本書ハ項又ハ目毎ニ調製スルモ妨ケナシ乙式亦之ニ倣フ

第一號式（乙）　用紙適宜　輪廓縦四寸五分　横三寸三分

徴税令書

第何號		何市町（村）納
明治何年度	縣税（欵）	何期分

一金若干　何々（項目）
一金若干　何々（項目）　何某
一金若干　何々（項目）　何某

第二輯　縣税及賦金　第三章　縣税及賦金徴收

令書

一金若干　何々（項目）　何某

合計若干

右何年何月何日限何地縣本（支）金庫ヘ拂込ムヘシ

年月日　何郡市長氏　名印

備考

一　隨時徴收ニ係ルモノニシテ郡市長ヨリ市町村長ニ發スヘキモノ、樣式ナリ

二　市ニ屬スル隨時徴收ノモノハ第一號式（甲）ニ依ルモ妨ケナシ

第一號式（丙）　用紙適宜　輪廓縦四寸五分　横三寸三分ノモノ一枚　縦四寸五分　横二寸五分ノモノ二枚接續

徴税令書

第何號		何郡何町（村）納
明治何年度	縣税（欵）	何期分

一金若干　（項目）
但何月何日開業何月何日開場又ハ何々
右何年何月何日限何地縣本（支）金庫ヘ拂込ムヘシ

年月日　何郡長氏　名印

何々郡長印　金庫

通知

第何號		何郡何町（村）納
明治何年度	縣税（欵）	何期分

一金若干　（項目）　金庫取扱主任

書

明治何年何月何日領收
何郡長　氏　名殿
何地縣本(支)金庫印

（金庫）

領收證書

第何號　何郡何町(村)　氏　名納
明治何年度　縣稅　(欵)　何期分
一金若干　(項目)
（金庫取扱主任）
右領收候也
年月日
何地縣本(支)金庫印

備考
一　隨時徵收ニ係ルモノニシテ郡長ヨリ納税人ニ發スヘキモノヽ樣式ナリ
二　過年度徵收ノモノハ之レニ準ス
三　納稅者ノ住所ハ同一ノ郡内ナルトキハ郡名ヲ省クモ妨ケナシ
以下各號式之ニ倣フ

第二號式（甲）　用紙適宜

徵稅傳令

第何號　何郡(市)何町(村)　氏　名納
明治何年度　縣稅　營業稅　何期分
一金若干　商業稅
何年何月何日領收
（收入役檢印）

書

右何年何月何日限收入役ニ拂込ムヘシ
年月日
何市町(村)長　氏　名印

（何々市町(村)長印）（收入役檢印）

領收證書

第何號　何郡(市)何町(村)　氏　名納
明治何年度　縣稅　營業稅　何期分
一金若干　商業稅
（收入役檢印）
右領收候也
年月日
何市町(村)收入役　氏　名印

備考
一　傳令書第二號式甲ヲ正則トスレトモ市町村ノ便宜ニ依リ項目ヲ列記シ乙式ノ如クスルモ妨ナシ
二　傳令書中市町村長ノ割印ニ限リ之ヲ省クコトヲ得
三　納稅者ノ住所ハ同一ノ市町村ナルトキハ郡名ノ外尙市町村名ヲ省クモ妨ケナシ

第二號式（乙）　用紙適宜

徵稅傳

第何號　何郡(市)何町(村)　氏　名納
明治何年度　縣稅　何期分
一金若干　地租割
一金若干　營業稅　工業稅
一金若干　雜種稅　料理屋稅

令書

一金若干　戶數割
合計金若干
何年何月何日領收
（收入役檢印）
右何年何月何日限收入役ニ拂込ムヘシ
年月日
何市町(村)長　氏　名印

（何々市町(村)長印）（收入役檢印）

領收證書

第何號　何郡(市)何町(村)　氏　名納
明治何年度　縣稅　何期分
一金若干　地租割
一金若干　營業稅　工業稅
一金若干　雜種稅　料理屋稅
一金若干　戶數割
合計金若干
（收入役檢印）
右領收候也
年月日
何市町(村)收入役　氏　名印

第三號式

明治何年度縣稅徵稅令書更正ニ付報告
地租割前(後)半期分
徵稅令書何月何日付ノ分
高金千圓
內金拾圓　何々ニ付減額
外金五圓　何々ニ付增額
一金九百九拾五圓　更正地租割額
高金、、、
、、、、
、、、、

右ノ通增(減)額相生シ候條徵稅令書御更正相成度此段及報告候也
年月日
何郡市長宛
何市町(村)長　氏　名印

第四號式　用紙適宜　輪廓縱四寸五分横三寸三分ノモノ一枚縱四寸五分横二寸五分ノモノ二枚接續

納付書

第何號
明治何年度　縣稅　(欵)　何期分
徵稅令書第何號(ノ分)又ハ(金何程ノ内)
一金若干
內
金若干　(項)
內
金若干　(目)
右拂込候也
年月日
何市町(村)長　氏　名印

（何々市町(村)長印）（金庫）

通知

第何號　何郡(市)町(村)分
明治何年度　縣稅　(欵)　何期分
徵稅令書第何號(ノ分)又ハ(金何程)
一金若干
（金庫取扱主任）

書

内
金若干
内
金若干　（項）
（目）
明治何年何月何日領收
何郡長　氏　名殿
何地縣本（支）金庫印
金庫

領収證書

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
何郡（市）何町（村）分
徴税令書第何號（ノ分）又ハ（金何程ノ内）
一金若干
内
金若干　（項）
内
金若干　（目）
右領收候也
年月日
何地縣本（支）金庫印
金庫取扱主任

備考
一　項目ヲ列記シ難キモノハ仕譯書ヲ添付スヘシ

第五號式

縣税滯納報告　明治何年何月何日納期滿限ノ分

地租割	營業税	雜種税	營業税附加税	戸數割	計	住所氏名

第六號式　用紙適宜　輪廓縦四寸五分横三寸三分ノモノ一枚縦四寸五分横三寸五分ノモノ二枚接續

納付

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
一金若干
（項目）

計譯内

円	円	円	円	円	円	
一〇〇〇	三五〇	一三五〇	五〇〇	五〇〇	四一五〇	何村何番屋敷何某
	商業工業	料理屋飲食店				

右及報告候也
年月日
何市町（村）長　氏　名印
何郡何市長　氏　名宛

備考
一　本表ノ外必要ノ事項アルトキハ別欄ヲ加フヘシ

書

右拂込候也
年月日
何郡（市）町村何番屋敷
氏　名印
金庫

通知書

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
何郡（市）町村　氏　名分
一金若干
（項目）
明治何年何月何日領收
郡市長　氏　名殿
何地縣本（支）金庫印
金庫取扱主任

領収證書

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
何郡（市）町村　氏　名納
一金若干
（項目）
右領收候也
年月日
何地縣本（支）金庫印
金庫取扱主任

第七號式　用紙適宜　輪廓縦四寸五分横三寸三分ノモノ一枚縦四寸五分横三寸五分ノモノ二枚接續

納付

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
一金若干
内
金若干　（項）
内
金若干　（目）
右拂込候也
年月日
縣出納吏
官吏吏員　氏　名印
縣納出吏印
金庫

通知書

第何號
明治何年度　縣税　（款）　何期分
何郡（市）役所
一金若干
内
金若干　（項）
内
金若干　（目）
明治何年何月何日領收
郡市長　氏　名殿
何地縣本（支）金庫印
金庫

第八號式

縣税過(誤)納還付請求書

一金若干　縣税

内　金若干　(項)

内　金若干　(目)

但何年何月何日收入内譯書ノ内(又ハ何月何日收入未報告)何某分(又ハ何某外何名分別紙仕譯書ノ通)何々ノ事由ニヨリ過(誤)納

右請求候也

年　月　日　　市町(村)長　氏　名印

郡市長宛

備考　第十三條第二項ノ場合モ之ニ準ス

第九號式

第何號	何郡何市町村大字何々 氏名
何年度	縣税 / 何 又ハ 期分 何々

督促狀

一金若干　滯納税金

内　金若干　何々

金若干　何々

一金八錢　督促手數料

右何月何日限何金庫ヘ納付スヘシ若シ其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ

明治何年何月何日　　官職　氏　名印

第十號式

送達書

送達シタル書名通數	
名宛人ノ住所又ハ居所及氏名	
受取人ノ署名捺印	
送達シタル日時	
受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ事由	

右ノ通取扱候也

使丁　何　某印

第何號

明治何年度　縣税　(欵)　何　期分

一金若干　金庫取扱主任

内

金若干　(項)

内

金若干　(目)

右領收候也

年　月　日　　何地縣本(支)金庫印

◉縣税徴收ニ關スル市町村交付金支出手續

(明治四十年九月二日兵庫縣訓令甲第四十四號)

郡役所　姫路市役所　町村役場

縣税徴收ニ關スル市町村交付金支出手續左ノ通定ム

但明治二十五年三月本縣訓令第二十五號ハ廢止ス

第一條　郡市長ハ一ケ年度ヲ二期ニ區分シ左ノ期限ニ依リ市町村交付金概算額ヲ知事ニ報告スヘシ

前半期　九月十日限

但其年四月一日ヨリ九月三十日迄ニ縣金庫ヘ拂込ムヘキ徴收金ニ對スル分

後半期　三月十日限

但前年十月一日ヨリ其年三月三十一日迄ニ縣金庫ヘ拂込ムヘキ徴收金ニ對スル分

第二條　郡長ハ毎年十月及四月ニ於テ其前六ケ月中町村長ヨリ縣金庫ヘ拂込タル縣税(地租ノ附加税ヲ除ク)ヲ調査シ其百分ノ四ヲ當月十日限リ町村ニ交付スヘシ

第三條　市長ハ前條ニ準シ調査ノ上其金額ヲ當月五日限リ知事ニ報告スヘシ

第四條　市町村交付金交付後過誤納税金ヲ還付シタルトキハ之ニ對スル市町村交付金ヲ追徴スヘシ

◉市町村ニ對シ領收スル地方税金請求書書式

(明治二十六年四月三十日兵庫縣訓令第四十九號)

郡長　市長　町村長

市町村ニ對シ領收スル〔地方税〕金ノ請求書ハ自今左ノ書式ニ依ルヘシ

(書式)

一金何程　請求書

但(請求金員ノ理由及算出ノ基ク所ヲ示スヘシ)

右ノ金員收入役何某ヘ御交付有之度此段及請求候也

年　月　日　　市町村長　署　名印

兵庫縣知事宛

備考

〔地方税〕徴收費用請求書ノ金員及内譯ノ書式ハ〔二十五年三月訓令第二十五號〕ニ依ルヘシ

◉督促手數料徴收細則

(明治三十五年四月十八日兵庫縣令第三十一號)　改正(三五年第五二號第六八號)

督促手數料ニ關スル徴收細則府縣制第六十八條ノ一ニ依リ縣參事會ノ議決ヲ經テ左ノ通定ム

督促手數料徴收細則

第一條　使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他縣ノ收入ヲ定期内ニ完納セサル者アルトキハ縣知事又ハ其ノ收入命令ノ委任ヲ受ケタル官吏及吏員ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促ス

第二條　前條ニ依リ督促ヲ爲ストキハ別紙書式ノ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金八錢ヲ徴收スヘシ

第三條　本則ハ明治三十五年法律第三十六號國税徴收

法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙書式(用紙寸法適宜)

督促狀			
第何號			何郡何市町村大字何々氏名
度	欵	項	何期分
一金若干		滯納金	
内金若干		何々	
金若干		何々	
一金入錢		督促手數料	

右何月何日限何金庫(又ハ何支金庫)ヘ納付スヘシ若シ其期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ

明治何年何月何日　官職氏名印

◉租税其ノ他ノ收入徴收處分囑託ニ關スル制(第一輯第十六章ニ收ム)

◉收入ノ徴收處分囑託事務取扱ニ要スル費用負擔及督促手數料收入區分

(明治四十年六月十七日兵庫縣廳郡庶第五八號第一部長ヨリ郡市長ニ移牒)

本年法律第三十四號ヲ以テ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノヽ租税其ノ他ノ收入徴收處分囑託ニ關スル件發布相成候ニ付テハ右事務取扱ニ要スル費用及送金費用ハ總テ囑託ヲ受ケタル廳ノ負擔トシ督促手數料ハ直チニ其廳ノ收入ニ充テ可然コトニ決定相成候旨其筋ヨリ通

牒有之候條爲念此段及移牒候也

追テ縣税ニ在テハ本文囑託廳其縣内ナルトキハ從前通リ可取扱筈ニ候條申添候

◉統監府管内ニ於ケル收入ノ徴收處分囑託事務取扱廳(明治四十年七月十日兵庫縣廳郡庶第六九號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒)

統監府總務長官照會(内務次官宛)四十年六月二十一日統發第三五二八號

本年四月法律第三十四號ニ依リ租税其ノ他ノ收入徴收處分ノ囑託ヲ受ケタルトキハ滯納者又ハ財産所在地ノ居留民團民長、居留民團ノ設立ナキ地ハ其ノ地管轄ノ理事廳理事官ヲシテ取扱ハシムヘク候條該事件發生ノ際ハ直接民長又ハ理事官ヘ囑託相成度尚貴省所屬官公署ヘ可然御示達相成候樣致度此段及照會候也

追テ現在居留民團ノ設立アル地ハ左記ノ通リニシテ今後設立ノ場合ハ其ノ都度官報ニ掲載可致ニ付爲念申添候也

京城、仁川、釜山、馬山、木浦、群山、鎮南浦、平壤、元山、大邱

◉收入ノ徴收處分ニ關シ囑託廳ニ於テ督促狀ヲ發シタルトキ取扱方

(明治四十年七月二十五日兵庫縣廳郡庶第七三號内務郡長ヨリ郡市長ニ通牒)

本年法律第三十四號徴收處分囑託ノ件ニ關シ去ル六月十七日郡庶第五八號ヲ以テ及通牒置候處右督促手數料ハ囑託廳ニ於テ既ニ督促狀ヲ發シタルモノニアリテハ

被囑託廳ニ於テ其督促手數料ヲ徴收シ税金ト共ニ囑託廳ヘ回送スヘキ筈ニ有之其事務取扱及送金ニ要スル費用ハ郡役所ニアリテハ消耗品費通信運搬費雜費等各其廳相當科目ヨリ支出シ督促手數料及滯納處分費辨納金等ノ收入アル場合ハ郡部雜收入(欵)中報酬及手數料(項)督促手數料(目)辨償金(項)滯納處分費辨納金(目)ニ收入整理可相成往々問合ノ向有之爲念此段及通牒候也

追而客月十二日郡庶第五八號通牒追書ノ縣内ニハ神戸市ヲ包含不致候條申添候也

◉收入ノ徴收處分囑託事務取扱者

(明治四十年九月十一日兵郡庶第八六號兵庫縣知事ヨリ北海道及樺太廳長官府縣知事ニ照會)

本年法律第三十四號第二條ニ依リ本縣内ニ於テ徴收ヲ要スル貴廳所屬收入ノ受託徴收事務ハ納人若クハ其ノ財産所在地ノ郡市長ヲシテ取扱ハシメ候ニ付直接當該郡市長ヘ囑託相成度尚本縣所屬收入ノ徴收ニ關シテハ郡市長若クハ徴收事務主管者ヨリ直接御管内當該支廳長島司郡市區長ヘ囑託可致候條右御了知置相成度此段豫メ及照會候也

追テ本文同樣ノ件ニ付已ニ御照會ノ向モ有之候處右ニ對シテハ別段御回答不致候ニ付本文ニテ御了知相成度此段申添候

◉收入ノ徴收處分囑託方

(明治四十年九月十一日兵郡庶第八六號内務部長ヨリ郡長ニ通牒)

本年法律第三十四號第二條ニ依リ本縣内ニ於テ徴收ヲ要スル北海道樺太兩廳及他府縣所屬ノ租税其他收入ノ受託徴收事務ハ右關係ノ支廳長島司郡市區長又ハ徴收事務主管者ヨリ納人若ハ其ノ財産所在地ノ郡長宛直接囑託越シ候筈ニ付其ノ際ハ受託ニ應シ相當御處理相成度尚又本縣税其ノ他收入ノ徴收事務ニ關シテハ貴官ヨリ納人若ハ其ノ財産所在地ノ左記各廳ヘ直接囑託ノ上收入方御取計相成度依命此段及通牒候也

追テ囑託書ニハ納人若ハ其ノ財産所在地ヲ明記セラレ度尤モ關東都督府管掌ニ係ル關東洲外南滿洲ニハ郵便電信支局警務署等ノ官衙アルモ一般租税其他收入ノ機關無之ニ付右ニ係ル分ハ囑託ヲ爲サス其旨御報告相成度又臺灣總督府管内ニ囑託ヲ要スルモノハ追テ何分通報可致候

尚郡町村所屬收入ノ徴收囑託ヲ樺太廳、關東都督府又ハ臺灣總督府管内ニ爲ス場合ニ於テモ前顯同樣囑託ノ途ナキモノハ徴收ノ中止若クハ終結ノ處分ヲナスヘキモノトス ノ義ト御承知相成度

右申添候也

記

北海道廳管内	支廳長	區長	
他府縣管内	島司	郡市區長	
但盛岡市ニ係ルモノハ同縣廳			
樺太廳管内	支廳長		
關東都督府管内	民政署		
統監府管内			

本年七月十日兵庫縣廳郡庶第六九號第一部長通牒之通リ

◉收入ノ徵收處分囑託方（明治四十年九月十一日兵郡庶第八六號內務部長ヨリ市長ニ通牒）

本年法律第三十四號第二條ニ依リ本縣管外ニ於テ本縣所屬收入ノ徵收ヲ要スルトキハ貴職ヨリ納人若ハ其ノ財產所在地ノ左記各廳ヘ直接囑託ノ上收入方御取計相成度依命此段及通牒候也

追テ囑託書ニハ納人若クハ其ノ財產所在地ヲ明記セラレ度尤モ關東都督府管掌ニ係ル關東洲外南滿洲ニハ郵便電信支局警務署等ノ官衙アルモ一般租稅其ノ他收入ノ機關無之ニ付右ニ係ル分ハ囑託ヲ爲サス其旨御報告相成度尙臺灣總督府管內ニ囑託ヲ要スルモノハ追テ何分通報可致候

尙貴市內ニ於テ徵收ヲ要スル他ノ地方廳所屬ノ租稅其ノ他收入ノ受托徵收事務ハ本文法律ニ依リ貴職ニ於テ相當御處理可相成筈ニ有之又貴市所屬收入ノ徵收囑託ヲ樺太廳關東都督府又ハ臺灣總督府管內（統監府管內ヘ前回通牒ノ通ニ爲ス場合ニ於テモ追書前顯同樣囑託ノ途ナキ中止若ハ終結ノ處分ヲ爲スヘキモノトス）ノ義ト御承知相成度

右申添候也

左記

北海道廳管內　支廳長　區長
他府縣管內　島司　郡市區長

但盛岡市ニ係ルモノハ同縣廳

樺太廳管內　支廳長
關東都督府管內　民政署
統監府管內

本年七月十日兵庫縣廳郡庶第六九號第一部長通牒ノ通

◉臺灣總督府管內ニ於テ收入ノ徵收處分囑託方（明治四十年十月七日兵郡庶第一〇六號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年法律第三十四號第二條ニ依ル他管所屬收入受托徵收事務取扱方幷ニ本縣所屬收入ノ徵收事務囑託方ニ關シテハ客月十一日付郡庶第八六號ヲ以及通牒置候次第モ有之候處右ハ臺灣總督府管內ニ對シテモ同樣直接當該支廳長ヘ囑託ノ上收入方御取計相成度依命此段及通牒候也

追テ町村所屬收入ニ關シテモ本文同樣ノ義ト御承知相成度申添候（追書市長ニハ省ク）

◉在外帝國領事官ニ對シ收入ノ徵收處分ヲ囑託スヘカラサル件（明治四十年十一月十二日兵郡庶第一二一號內務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

內務次官通牒（四十年十月三十一日內務省外甲第七八號）

明治四十年法律第三十四號發布以來在外帝國領事官ニ對シ府縣稅市町村稅其他ノ收入ノ徵收方ヲ依賴セル向有之趣ニ候處右法律ノ趣旨ハ韓國關東洲臺灣樺太及內地間ニ於テ相互ニ當該官公署ニ囑託スヘキ規則ニシテ在外ノ帝國領事官ニ囑託スヘキモノニ無之候條爲念依命此段及通牒候也

◉韓國居留民團ノ收入徵收處分囑託方（明治四十年十一月二十二日兵郡發第一二一五號內務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

內務次官通牒（四十年十一月十六日內務省統甲第一號ノ內）

本年法律第三十四號ニ依リ韓國居留民團ノ收入徵收ハ居留民團長ヨリ直接納人若クハ財產所在地ヲ管轄スル島司、郡市長等ニ囑託致スヘキ旨統監府ヨリ照會有之候間此旨御示達相成度此段及通牒候也

◉臺灣總督府管內ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託注意方（明治四十一年一月十四日兵郡庶第三號內務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

內務次官通牒（四十年十二月二十六日內務省臺甲第一〇四號）

臺灣總督府管內ニ於テ四十年法律第三十四號ニ依リ租稅其他收入ノ徵收事務ヲ受託取扱フヘキ官吏ハ滯納者又ハ財產所在地ノ廳長ニ有之候處從來該事件發生ノ際內地郡市町村長等ヨリ總督府又ハ總督府民政長官ニ宛テ囑託候向モ有之趣斯クテハ更ニ總督府又ハ民政長官ヨリ所轄廳長ヘ移牒シ處理セシムルコトヽナリ書類往復ノ爲メ時日ヲ遷延セシムル而已ナラス整理敏活ヲ缺クノ虞モ有之候條爾後本件囑託ノ場合ハ必ス直接當該廳長ニ宛テ囑託候樣御管內官公署ヘ可然注意ヲ與ヘラレ度此段及通牒候也

◉國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制（第一編第六章ニ收ム）

◉縣稅及市町村稅ニ對シ明治四十年法律第三十一號準用方（明治四十年五月七日兵庫縣廳郡庶第四八號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年法律第三十一號準用ニ關シ各郡市照會ニ對シ左記ノ通決定相成候條此段及通牒候也

記

(一) 縣稅地租割市町村稅地價割ハ法第三條ヲ準用シ一錢未滿ノ端數ヲ徵收スヘキモノトス但課稅標準タル地價地租ハ一人分全額一錢未滿ノ場合ヲ除ク外第一條ヲ準用スヘキハ勿論トス

(二) 分納稅假令ハ縣稅戶數割ノ如キ年稅全額二錢五厘ナルトキハ法第一條ヲ準用シ錢位未滿ノ端數ヲ切捨テ前後兩期ニ於テ各一錢ヲ徵收シ年稅全額三錢ナルトキハ法第二條ヲ準用シ前期ニ二錢後期ニ一錢ヲ徵收スヘキモノトス

(三) 本年度縣稅戶數割ノ如キ課率ニ厘位アリテ其市町村ノ負擔總額ニ適合セシムル爲等級賦課額ニ厘位ヲ付スル場合各人ノ賦課額總計ト符合セサルモノアルモ右ハ法ノ結果止ムヲ得サル義トス

(四) 縣稅地租割市町村稅地價割以外ノ租稅公課ニシテ全額一錢未滿ノモノハ法第四條前段ヲ準用シ端數ノ儘徵收スヘキモノトス

(五) 同上租稅公課ニシテ一厘未滿ノ端數アルトキハ猶法第三條ノ旨趣ニヨリ之ヲ切捨ツヘキモノトス

(六)法第三十一號ハ四十年度分ヨリ適用スヘキニ付三十九年度ニ屬スルモノハ出納閉鎖マテ從前通取扱フヘキモノトス

◉明治三十五年法律第二十二號準用方(抜抄)

(明治三十五年三月二十九日號外內務部長ヨリ郡長姫路市長ニ通牒)　改正(三十五年六月二十四日內一丙第七一號內務部長通牒)

〔本年三月法律第二十二號ヲ以テ課稅標準額及稅額計算ニ關スル件〕公布相成候處縣稅ニ於テモ〔同法〕ヲ準用スヘキニ付右適用ニ關シ左記ノ廉々廳議決定相成候條此段及通牒候也

〔第一條〕ノ適用

一　地租割戶數割等ノ課率ハ〔第一條〕ノ適用ヲ受ケサルモノトス

二　地租割ノ課稅標準タル地租ハ各筆ヲ集計シタル地租額〔ノ四捨五入シタルモノ〕ニ依ルヘキモノトス

三　營業稅雜種稅ニ在テハ〔四捨五入スヘキ〕課稅標準額ノ適用ナキモノトス

五　市町村會ニ於テ各戶ノ戶數割賦課額ヲ議定スルニ當リ負擔ニ堪ヘスト認メ戶數割ヲ賦課セサルモノノ外ハ〔四厘〕以下ノ賦課額ヲ議定スヘカラサルモノトス營業稅雜種稅ニシテ各營業者ノ賦課額ヲ議定スヘキモノモ之ニ準ス

〔第二條〕ノ適用

一　地租割ハ前後二期ニ徵收スルモ賦課規則第四條ニ依リ稅金ノ分納ト認メス

〔第三條〕ノ適用

一　縣稅營業稅雜種稅家屋稅戶數割ノ如キ分納ヲ規定シタルモノハ〔第三條〕ヲ準用スヘキモノトス

〔第七條〕ノ適用

一　土地臺帳ニ登錄シタル地價地租ノ更正セラレサル限リハ土地臺帳面ノ地價地租ニ依リ徵收スヘキモノトス

◉明治三十五年法律第二十二號準用方(抜抄)

(明治三十五年四月九日一丙第四十一號內務部長通牒)

〔課稅標準及稅額計算ニ關スル法律〕適用ニ關スル件曩ニ及通牒置候次第モ有之候處市町村會ニ於ケル各人ノ賦課額議定等ニ關シテハ尙左記之通リニ取扱相成リ可然此段及通牒候也

六　營業稅附加稅ハ賦課規則〔第三十一條〕ニ依リ稅金ノ分納ト認メス

七　〔法律第二十二號第四條〕ノ公課中ニハ賦金ヲ包含ス

◉明治三十五年法律第二十二號第四條ノ公課中ニ賦金包含方

(明治三十五年四月九日內一乙第一九八八號內務部長ヨリ神戶市長ニ通牒)

〔本年三月法律第二十二號第四條〕ノ公課中ニハ賦金ヲ包含候條御了知相成度此段及通牒候也

◉國稅徵收法第三(第一輯第六章ニ收ム)

◉縣稅其ノ他ノ收入滯納處分執行方(明治三十四年七月十五日兵庫縣令第六十號)

本縣々稅使用料手數料其ノ他縣ノ收入ニ係ル滯納處分ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ執行スヘシ

但所轄郡市外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ郡市長ニ囑託スヘシ

◉囑託ニ係ル滯納處分金送付費用支出區分

(明治二十六年四月十三日一甲第六三九號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

明治二十五年五月二十四日一甲第三三三四號ヲ以テ〔地方稅〕滯納處分ニ付〔國稅滯納處分法第十一條〕ニ依リ囑託ノ際爲換料等ハ囑託廳ニ於テ各其所屬經費ヨリ支出スヘキ樣通牒候處本縣管內ニ係ル分ハ金庫ノ設アルニ依リ縣金庫ヲシテ送金セシメ〔神戶市〕姫路市〔及他管〕ニ係ル分ハ〔地方稅取扱費〕ニ屬スルヲ以テ別ニ請求相成ヘク筋ニ候條爲念此段及通牒候也

◉明治三十四年兵庫縣令第六十號但書ニ依リ囑託ヲ受ケタル滯納處分金送付手續

(明治三十四年七月十六日兵庫縣內一甲第一六七五號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

本月十五日付縣令第六十號但書ニ依リ囑託ヲ受ケ滯納處分ノ末料金送付ニ係ル手續ハ明治二十六年四月十三日一甲第六三九號通牒ニ準シ御取扱相成度此段及通牒候也

◉地方稅及町村稅滯納處分執行者

大分縣伺　二十三年十月七日

〔本年四月訓第二八三號ヲ以テ地方稅及町村稅滯納處分ノ義ニ付御訓令ノ次第有之候處〕財產差押等實地ノ處分ハ〔該訓令第二條ニ據リ地方稅〕ニ在テハ郡長町村稅ニ在テハ町村長ヨリ命令書ヲ發シ郡書記又ハ町村書記等ヲシテ執行セシメ而シテ〔差押調書〕其他債主負債主ニ通知及登記所ヘ照會ノ件等總テ處分結了ニ至ル迄ハ郡長又ハ町村長代理ノ名義ニテ取扱ハセ可然哉

內務大臣指令　同年十月三十一日

郡長又ハ町村長ノ名義ニテ取扱フヘシ

◉地方稅及市町村稅滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ處分着手前納付取扱方

(明治二十七年十二月三日一第四一七一號內務部長ヨリ郡長ニ通牒)

〔地方稅〕滯納處分方囑托ヲ受ケタル場合ニ於テ處分實行前本人若クハ第三者ヨリ納付方申出タルトキハ納人ヨリ直接囑託郡ヘ納付セシムル筈ニ有之候就テハ爾今特ニ受托廳ヨリ送付方ヲ納人ヨリ申出ツルトキハ遞送費共差出サシメ便宜ヲ圖リ御取扱相成候義ハ差支無之候此段及通牒候也

追テ市町村稅ニ於テモ右樣ノ場合アル時ハ同樣御取扱相成度候也

◉地方公共團體ノ徵收金ニシテ滯納處分ノ末剩餘金アルモ滯納者ニ還付スルコトヲ得サルトキ取扱方(明治三十二年十月四日一第四三三五三號內務部長ヨリ郡市長ニ移牒)

地方局長通牒　三十二年九月二十一日地甲第八七號

府縣郡市町村其他公共團體ニ於ケル徴收金ニシテ國税滞納處分ノ例ニ依リ處分シタル場合ニ於テ滞納者ヘ還付スヘキ剰餘金アルトキ滞納者所在不分明等ノ爲メ還附シ得サルモノハ國税ノ例ニ依リ民法第四百九十四條ニ依リ供託スルコトニ決定相成候條此段及通牒候也

追テ本文ニ牴觸スル從前ノ指令通牒等ハ取消サレ候條此段申添候也

◉府縣税滞納處分上不動産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録税取扱方

（明三十八年四月二十七日部庶第七號第一部長ヨリ郡長姫路市長ニ通牒）

地方主税兩局長照會　三十八年一月六日地甲第二二一號

明治三十三年一月十一日司法省民刑第七號ヲ以テ府縣税滞納ノ爲メニスル不動産差押ニ付テハ登録税法第二條第一項第十四號ニ依リ登録税ヲ徴收スヘキ趣御回答ノ次第モ有之候處今般大阪府ヨリ別紙ノ通リ照會有之依テ熟考スルニ競賣及强制管理ノ申立ハ民事訴訟法ニ於ケル强制執行ノ方法ニシテ府縣税滞納處分差押ノ如キハ之カ範圍外ニ屬シ且ツ他ニ何等適用スヘキ規定ナキヲ以テ府縣税滞納ノ爲ニスル不動産差押ニ付テハ登録税ヲ要セサル義ト被存候就テハ更ニ御審議ノ上右解釋ニ御同意ニ候ハヽ夫々其向ヘ御通牒相煩シ度

大阪府照會　三十七年十一月二十九日第四四七四號

府税滞納處分ノ爲メ國税徴收法ニ依リ爲ス不動産ノ差押ニ關シテハ登録税法ノ範圍外ニ屬シ登録税ヲ要セサルモノト解釋シ來リ候處府下區裁判所ニ在テハ之ニ關シ登録税ヲ要スルモノトシテ是レカ取扱ヲ爲セリ然ルニ登録税法第二條ハ不動産差押ニ關シ其第十四ニ規定シテ「競賣、强制管理ノ申立」云々トアリ元來競賣及强制管理ノ申立ハ民事訴訟法ニ於ケル不動産對强制執行方法ニシテ之ニ依ラサル府税滞納處分差押ノ如キハ所謂競賣若ハ强制管理ノ申立ニ該當セサルヲ以テ假令其實質上稍〻酷似スヘキ點アリトスルモ列擧法ナル同法ニシテ他ニ何等規定ノ存セサル限リハ全ク該法ノ範圍外ニ屬シ登録税ヲ要セサルモノト解釋スルハ尤モ正鵠ヲ得タルモノト信居候就テハ國税徴收法施行後數年ノ今日ニ於テ各廳間尚ホ解釋ノ統一ヲ缺クカ如キハ取扱上支障ノ點尠ナカラサルヲ以テ至急關係主務省ト御交渉ノ上右等不便無之樣御取計相成度樣致度

民刑局長回答　三十八年四月十二日司法省民刑第七號

木年一月六日三地甲第二二一號ヲ以テ府縣税滞納ノ爲メニスル不動産ノ差押登記ノ登録税ノ件ニ付キ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通解釋スルヲ相當ト思考候ニ付別紙ノ通各裁判所ヘ通牒致置候

民刑局長通牒　三十八年四月十二日司法省民刑第七號

府縣税等滞納處分ニ因ル差押登記ノ登録税ニ付テハ從來登録税法中競賣申立ノ登録税ヲ徴收スヘキ例ニ有之候處今般内務、大藏兩省ト協議ノ上登録税ヲ徴收セサルコトニ省議決定相成候

控訴院
地方裁判所
區裁判所
區裁判所出張所　宛

◉府縣税及市町村税等滞納處分差押抹消登記ノ場合ニ登録税免除方

（明治三十八年八月二十三日兵庫縣訓令第二號庶第八三號第一部長ヨリ郡市長ニ達）

地方局長通牒　三十八年八月五日地發第二三二號

國税徴收法第二十三條ノ四ハ府縣税等ノ滞納處分差押抹消登記ノ場合ニ適用無之モノトシテ取扱ハル、裁判所往々有之趣ニテ司法省ニ交渉ノ義申出ノ向有之候ニ付同省ニ照會ノ處右ハ當省意見ノ通該規定ヲ府縣税及市町村税等ノ滞納處分差押抹消登記ノ場合ニ適用シ登録ヲ免除スヘキモノト解釋スルヲ相當ト認メ其旨各裁判所ニ通牒セシ旨回答有之候ニ付爲念此段及通牒候也

◉兵庫縣報告例（抜抄）（明治三十二年三月六日兵庫縣訓令第三十號）

改正（略）

年報　郡長

（第三十三表）

何年度縣税滞納處分報告表　（毎年七月十日）　郡市名

税目	税額	督促狀ヲ發シタルモノ	財産ノ差押ヲ爲シタルモノ	處分決行ノ徴收セシモノ	税金缺損ノモノ	翌年度ニ繰越ノモノ	地組割
人員							

營業税	何々	何々	合計

（備考）

一　會計年度ニ依リ翌年度六月末日マテニ處分セシ結果ヲ掲クルモノトス但七月中處分セシモノハ其時々報告スルモノトス

二　一人ニシテ二税以上ノ税金ヲ滞納セシモノアルトキハ其一方ノ人員ヲ朱書シ他ハ朱書スヘキモノトス

三　第一項ノ期限迄ニ處分完結ニ至ラスシテ翌年度ニ繰越シタルモノハ翌年度報告ノトキ別表ニ調製シ追報スヘシ但其第三欄ハ前年度ヨリ繰越ト記載スルモノトス

四　滞納處分ノ囑托ヲ爲シテ徴收シタルモノアルトキハ相當欄ニ合記シ尚ホ其税額人員ヲ備考ニ附記スヘシ

◉縣税滞納處分表調製方

（明治四十年十二月十七日兵郡會第一六八號内務部長ヨリ郡長姫路市長ニ通牒）

縣税滞納處分表調製ニ當リ同一滞納者ニシテ其滞納税金ノ一部ハ之ヲ徴收シ一部ハ缺損又ハ翌年度ヘ繰越トナリタルモノ、人員ハ税目毎ニ各一人トシ計算整理相成度此段及通牒候也

◉兵庫縣本金庫及支金庫ノ名稱位置、區域

（明治二十五年三月十一日兵庫縣告示第三十五號）改正（二六年第五三號七三號、二九年第二〇三號、三三年第一〇〇號第二一九九號、三六年第一五四號、四〇年第五四號、四一年第五六一號）（第二二〇號第二

兵庫縣本金庫及支金庫ノ名稱位置區域左ノ通相定メ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

金庫名稱	位置	區域
兵庫縣本金庫	神戸市榮町三丁目	攝津國神戸市
同西宮支金庫	武庫郡西宮町	同國武庫郡
同伊丹支金庫	川邊郡伊丹町	同國川邊郡
同三田支金庫	有馬郡三田町	同國有馬郡
同明石支金庫	明石郡明石町	播磨國明石郡
同三木支金庫	美嚫郡三木町	同國美嚫郡
同社支金庫	加東郡社村	同國加東郡
同中村支金庫	多可郡中村町	同國多可郡
同北條支金庫	加西郡北條町	同國加西郡
同加古川支金庫	加古郡加古川町	同國加古郡
同阿彌陀支金庫	印南郡阿彌陀村ノ内魚橋村	同國印南郡
同姫路支金庫	姫路市袋町	同國飾磨郡
同田原支金庫	神崎郡田原村	同國姫路市
同龍野支金庫	揖保郡龍野町	同國神崎郡
同佐用支金庫	佐用郡佐用村	同國揖保郡
同赤穗支金庫	赤穗郡赤穗町	同國佐用郡
同山崎支金庫	宍粟郡山崎町	同國赤穗郡
同柏原支金庫	氷上郡柏原町	同國宍粟郡
同篠山支金庫	多紀郡篠山町	丹波國氷上郡
同豐岡支金庫	城崎郡豐岡町	同國多紀郡
同出石支金庫	出石郡出石町	但馬國城崎郡
同和田山支金庫	朝來郡牧田村ノ内和田山	同國出石郡
同入鹿支金庫	養父郡入鹿村	同國朝來郡
同村岡支金庫	美方郡村岡町	同國養父郡
同洲本支金庫	津名郡洲本町	同國美方郡
同市村支金庫	三原郡市村	淡路國津名郡
		同國三原郡

◉兵庫縣金庫開庫時間

（明治二十五年三月十一日兵庫縣告示第三十四號）改正（三七年第一四一號）

兵庫縣金庫開庫時間左ノ通相定メ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

一　毎年四月一日ヨリ七月十日迄及九月十一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ本廳ハ午前九時ヨリ午後三時三十分迄各廨ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス但土曜日ハ正午十二時迄トス

一　毎年七月十一日ヨリ九月十日迄ハ午前九時ヨリ正午十二時迄トス

◉府縣郡ノ費目流用並財務ニ關スル規定（明治三十三年三月十三日内務省令第七號）

明治三十二年法律第六十四號府縣制第百二十五條明治三十二年法律第六十五號郡制第百三條ニ依リ費目流用並財務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　府縣税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條　各年度ニ於テ決定シタ歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四條　歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ仕拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額現金前渡前金拂概算拂繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

第四條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六條　繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條　毎年度歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス

第八條　府縣ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後五箇月以内ニ完整スヘシ

第九條　歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十條　歳入歳出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十二條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但機密費ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條　會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生シ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條　府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ檢査員ヲ命シ少クトモ毎年一回之ヲ檢査セシムヘシ

府縣出納吏解職セラレタルトキハ府縣知事ハ檢査員ヲシテ現金及帳簿ヲ檢査セシムヘシ

第十八條　府縣ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲府縣金庫ヲ置ク

第十九條　府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス

第二十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十二條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ府縣知事ニ提出スヘシ其ノ擔保ニ關シテハ内務大臣ノ認可ヲ經府縣知事之ヲ定ム

第二十三條　府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ檢査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ檢査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十五條　本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス但シ本令ノ規定ニシテ適用シ難キモノハ内務大臣ノ認可ヲ得テ當分其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條　郡ノ財務ニ關スル規定ハ本令ニ準シ府縣知事之ヲ定ム

◉府縣郡豫算調製式竝費目流用ニ關スル從前ノ規定適用方（明治三十二年四月十三日内務省令第六號）

本年法律第六十四號府縣制第百二十五條及同第六十五號郡制第百三條ニ依リ定ムヘキ豫算調製ノ式〔竝費目流用ニ關スル規定〕ハ當分ノ内總テ從前ノ例ニ依ル

◉府縣歳入歳出豫算調製式（抜抄）（明治二十四年八月一日内務省令第十二號）

府縣制〔第七十五條第三項〕ニ依リ府縣歳入歳出豫算調製ノ式ヲ定メ〔竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク〕

第一條　府縣歳入歳出豫算ハ〔經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區別シ〕第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歳入歳出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　夫役現品ヲ增課〔府縣制第七十三條〕スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ（二項）

第四條　歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

（第一號）明治何年度某府縣歳入歳出豫算書

歳入　經常部

第一款　地租割金　但本年地租豫算高金若干地租壹圓ニ付若干
　第一項　地租割金

第二款　營業税金
　第一項　商業税金
　第二項　工業税金

第三款　雜種税金
　第一項　料理屋税金
　第二項　待合茶屋税金
　第三項　遊船宿税金
　第四項　芝居茶屋税金
　第五項　飲食店税金
　第六項　湯屋税金
　第七項　理髮人税金
　第八項　傭人請宿税金
　第九項　遊藝師匠税金
　第十項　遊藝稼人税金
　第十一項　相撲税金
　第十二項　俳優税金
　第十三項　幇間税金
　第十四項　藝妓税金
　第十五項　市場税金
　第十六項　演劇税金
　第十七項　興行税金
　第十八項　遊覽所税金
　第十九項　遊技場税金
　第二十項　人寄席税金
　第二十一項　船税金
　第二十二項　車税金
　第二十三項　水車税金
　第二十四項　乘馬税金
　第二十五項　屠畜税金
　第二十六項　漁業税金
　第二十七項　採藻税金
　第二十八項　某税金（特別ニ許可ヲ得タルモノ）

第四款　戸數割金
　第一項　戸數割金　但何年何月調總戸數若干一戸ニ付若干

第五款　家屋税金（許可ヲ得タル縣ニ限ル）
　第一項　家屋税金　但云々

第六款　雜收入金
　第十一項　賦金
　第十二項　某收入金

（第三號）明治何年度某府縣夫役現品增課方法

一土木費中某費夫役　若干人
此見積金

内譯
　若干人　某郡某町
　此見積金
　若干人　某郡某村
　此見積金
一同現品　若干
此見積金
　内譯
　若干　某郡某村
　此見積金
　若干　某郡某村
　此見積金
明治何年何月何日提出

某府縣知事　氏　名印

◉兵庫縣會計規則（明治三十四年三月三十一日兵庫縣令第三十五號）改正（三六年第六一號、三七年第一九號、三八年第一九號、三九年第一四號、四〇年第二九號、四一年第一五號）

明治三十三年三月内務省令第七號費目流用竝財務ニ關スル規程第二十四條ニ依リ兵庫縣會計規則別冊ノ通相定ム

（別冊）

兵庫縣會計規則

第一章　總則

第一條　縣ノ會計ハ法令其他別ニ規定アルモノヽ外總テ此規則ニ依ル

第二條　歳入歳出ノ豫算調理順序及科目區分ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條　各廨ニ屬スル收縣税ヲ除ク支豫算及其增減ノ場合ハ欵、項、目、節ニ區分各廨長ニ令達スヘシ
他ノ費目ニシテ各廨ニ於テ收支ヲ爲スヲ要スルモノアルトキ亦同シ

第四條　各廨ニ屬スル歲出豫算中項、目ノ金額ヲ流用セントスルトキハ其金額及事由ヲ詳記シタル計算書ヲ調製シ認可ヲ請クヘシ

第五條　豫算確定額及翌年度繰越豫算額ハ各欵ノ金額及主管ノ廳廨ヲ區分シ縣本金庫ニ令達スヘシ流用增減ノ場合亦同シ

第六條　年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
歲入所屬年度
一　納期ノ一定シタルモノハ其納期末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ徴税令書若クハ納額告知書ヲ發スルモノハ其令書、告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　前各號ノ區分ニ入ラサルモノハ領收ヲナシタル日ノ屬スル年度但國庫下渡金、國庫補助金、寄附金ノ類ハ其經費ノ屬スル年度ニ收入スルコトヲ得
歲出所屬年度
一　縣債ノ元利、給助年金ノ類ハ其仕拂期日ノ屬スル年度
二　俸給、旅費、手當、手數料ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度
三　工事費、廳中雜費其他物件代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但年度開始前契約ヲ爲サヽルヲ得サルモノ又ハ契約ノ履行カ次年若クハ數年ニ涉ルモノハ契約書ニヨリ定メタル仕拂期日ノ屬スル年度
四　補助金、一時給與金、教育費、缺損補塡金ノ類ハ其支出又ハ補塡ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度
五　（削除）
六　前各號ノ區分ニ入ラサルモノハ仕拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第七條　一會計年度ニ屬スル歲入歲出金ノ收支命令ハ翌年度六月三十日限リ各廨ハ四月三十日限リトス
各廨ニ於テ歲入歲出金ヲ出納スルハ翌年度五月十日限リトス
第三條第二項ニ係ルモノハ前二項ノ期限ヲ延期スルコトヲ得

第八條　會計ニ關スル定期檢査ハ毎年一回、臨時檢査ハ必要ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

第九條　前條及縣出納吏ノ事務ニ屬スル檢査手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十條　本則ニ於テ各廨ト稱スルハ警察署、郡市役所、縣立學校、縣立病院、縣立農事試驗場、縣立測候所トス

第二章　歲入

第十一條　縣税外ノ收入ハ納人ニ對シ納額告知書ヲ發スヘシ
前項納人ハ現金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第十二條　縣金庫所在地外ノ收入金及病院診察料、藥價ノ類ニシテ納額告知書ヲ發シ難キモノハ納付書ヲ用ユルコトヲ得
前項納人ハ現金若クハ金庫ノ預リ證書ヲ添ヘ縣出納吏ニ納付スヘシ

第十三條　過誤納金ノ還附ヲ要スルモノハ所屬廨長ニ請求書ヲ差出スヘシ
各廨ニ於テ前項請求書ヲ受ケタルトキハ知事ノ訓令ヲ俟テ還付スヘシ

第十四條　過誤納還付金ノ仕拂手續ハ第三章ヲ適用ス

第十五條　過年度ニ屬スル收入金ハ雜入トシテ整理スヘシ

第三章　歲出

第十六條　縣ノ支出ハ縣金庫ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第十七條　仕拂命令ハ正當債權者若クハ其代理人ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但左ノ經費ニ限リ縣出納吏又ハ銀行ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得
一　縣債ノ元利
二　場所ノ一定セサル事務所ノ經費
三　罹災救助基金救助費
四　縣外ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
五　運輸通信ノ不便ナル地ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第十八條　左ノ種類ノ經費ニ限リ概算拂、繰替拂、前金拂ヲナスコトヲ得
一　概算拂
旅費、工事費、機密費、警察署及分署ノ備金拾圓以內
二　繰替拂
囚人護送費、軍人患者費
三　前金拂
官報其他前金ニ非サレハ購入シ能ハサル物件代、訴訟費、歸鄉旅費、保險料、保護預手數料

第十九條　仕拂命令ハ之ヲ發スル前左ノ事項ヲ調査スヘシ
一　正當ニシテ必要ノ支出ナルヤ
二　金額ニ違算ナキヤ
三　豫算額ニ超過スルコトナキヤ
四　費目及年度ヲ誤ルコトナキヤ
五　豫算ニ定メタル目的ニ違フコトナキヤ

第二十條　仕拂命令ハ左ノ事項ヲ記載シ欵毎ニ之ヲ發スヘシ
一　正當債權者若クハ其代理人又ハ前渡ヲ受クルモノヽ資格（銀行ナレハ名稱）氏名

二　支出科目、年度、番號、金額

欵ノ同一ナルモノハ數人ノ債權者ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債權者ノ金額氏名表ヲ添付スルコトヲ得

第二十一條　仕拂命令ハ之ヲ正當債權者ニ交付シ其領收證ヲ徵スヘシ但數人ノ正當債權者ニ對スル集合仕拂命令又ハ送金ヲ要スル仕拂命令ハ直チニ縣金庫ニ交付スヘシ

前項但書ニ依リ仕拂命令ヲ縣金庫ニ交付シタルトキハ仕拂通知書ヲ各正當債權者ニ送付スヘシ

仕拂命令ヲ正當債權者ニ交付セントスルトキハ前以テ案內仕拂命令ヲ縣金庫ニ交付スヘシ

第二十二條　仕拂命令若クハ仕拂通知書ヲ紛失シタルトキハ縣金庫ニ於テ未渡ナルコトヲ證明シタル債權者ノ屆書ヲ徵シ再發シテ正當債權者ニ交付スヘシ

第二十三條　經費ノ定額戻入ヲ要スルモノハ返納人ニ返納告知書ヲ發スヘシ其手續ハ第十一條第二項ニ依ル

第二十四條　各廨ニ於テ過年度ニ屬スル支出ヲ要スルトキハ其金額、年度、科目及事由ヲ詳記シタル計算書ヲ差出スヘシ

前項仕拂金ハ雜出トシテ整理スヘシ

第二十五條　豫備費ノ支出ニ關スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四章　罹災救助基金、縣儲蓄金、歲入歲出外現金

第二十六條　罹災救助基金、縣儲蓄金、歲入歲出外現金ノ出納順序ハ本則各條項ヲ適用ス

第二十七條　縣儲蓄金トハ罹災救助基金ヲ除キタル他ノ特別會計ニ屬スルモノヲ云フ

第二十八條　歲入歲出外現金トハ各種保證金、一時取扱ニ係ル滯納處分囑托徵收金ノ類ニシテ縣ノ歲入歲出ニ屬セサルモノヲ云フ

第二十九條　前條納人ハ總テ納付書ニ依リ縣出納吏ニ納付スヘシ

入札保證金ノ如キ一時預金ニシテ直ニ還付スヘキモノハ前項納付書ヲ省略スルコトヲ得此場合ニ於テハ縣金庫ノ預リ證書ヲ其儘提供セシメ之カ還付ヲ要スルトキハ該證書ノ裏面ニ仕拂フヘキ旨ヲ記載シ捺印ノ上領收證書ト引換ヘニ還付スヘシ

第五章　物品

第三十條　物品トハ備品、消耗品其他動物ノ類ヲ云フ

第三十一條　物品ノ購入、修繕及拂渡ノ命令ハ請求書其他ノ證憑書類ニ據リ之ヲ發スヘシ

第三十二條　物品ハ消耗、賣却、亡失、毀損、生產ノ爲メ拂出及其他縣出納吏ノ保管ヲ離ルヽヲ出トシ買入、生產及其他縣出納吏ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第三十三條　各廨ニ屬スル重要物品ノ增減アリタルトキハ其種類、數量、價格及事由ヲ詳記シ翌月五日限リ報告スヘシ

第三十四條　重要物品ノ明細表ハ每年十月一日現在ニ

依リ調製スヘシ

第三十五條　同一經濟ニ屬スル物品ニシテ交換若クハ讓與ヲ爲シタルトキハ保管ノ轉管トシテ出納スヘシ

第三十六條　物品ノ共用ニ係ルモノハ縣出納吏、專用ニ係ルモノハ各自之ヲ保管スヘシ

各自保管ノ物品ヲ故意若クハ怠慢ニ因リ亡失毀損シタルトキハ相當代價ヲ賠償セシム但避クヘカラサル事故ニ原因スルモノハ所屬縣出納吏ニ向テ其事實ヲ證明スヘシ

第三十七條　各廨ニ屬スル不用物品ノ賣却ヲ要スルモノアルトキハ其種類、數量、評價格及事由ヲ詳具シ認可ヲ請クヘシ

第六章　物件賣買貸借

第三十八條　物件ノ賣買貸借其他各種ノ供給請負ハ公告シテ競爭入札ニ付スヘシ但競爭者ノ資格又ハ品數ヲ限定シテ競爭ニ付スルコトヲ得

競爭入札ハ少クトモ入札執行五日前一回若クハ數回掲示場又ハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ必要事項ヲ公示シ一定ノ場所ニ入札方法、契約書案等ヲ備ヘ縱覽ニ供スヘシ

左ノ場合ニ於テハ同業者三名以上ニ指命シテ入札セシムルカ若クハ隨意ノ契約ヲ爲スコトヲ得

一　非常若ハ急遽ノ際物件ノ買入借入ヲ爲スニ當リ競爭入札ニ付スル暇ナキトキ

二　己人又ハ會社等ニテ專有スル物件ヲ直接ニ買入又ハ借入ルヽトキ

三　試驗ノ爲メ工作製造ヲ命シ又ハ物件ヲ買入ルヽトキ

四　特種ノ物質若ハ特別使用ノ目的アル物件ヲ其生產製造ノ場所又ハ生產者、製造者ヨリ直接ニ買入、借入ヲ要スルトキ

五　特種ノ物件ニシテ性質上競爭入札ヲ不得策ト認ムルトキ

六　特別ノ技術家ニ命スルニアラサレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ノ買入ヲ要スルトキ

七　不動產ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限リアルトキ

八　官署又ハ公共團體ヨリ直接ニ物件ヲ買入、借入ルヽトキ

九　國債證書其他有價證券ノ賣買ヲ國庫若ハ日本銀行ニ委托スルノ必要アルトキ

十　直接外國ヨリ物件ノ買入ヲ要スルトキ

十一　慈善ノ目的ヲ以テ設立セル救育所貧民若ハ囚徒ノ生產又ハ製造品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

十二　直接公用又ハ公共ノ利益若ハ慈善ノ用ニ供スル爲メ物件ヲ當該者ニ貸渡シ又ハ賣拂フトキ

十三　豫定價格一口貳百圓以內ノ物品又ハ額面五千圓以內ノ國債證書ヲ賣買貸借ヲ爲ストキ

十四　勞務ノ供給ヲ目的トスル請負又ハ職工人夫等ヲ直接ニ傭役スルトキ

十五　材料ヲ交付シテ作業ノ請負ヲ爲サシムルトキ
十六　競爭入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度以上入札ニ付スルモ豫定價格ニ達セサルトキ但豫定價格其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十九條　競爭入札ヲ行フニ當リ不正又ハ競爭ノ實ナシト認ムルトキハ入札執行ヲ取消スコトヲ得

第四十條　入札ニ加ハラントスルモノ若クハ契約ヲ締結セントスルモノハ左ノ保證金ヲ納付スヘシ但國債證書ノ賣買ニ限リ特ニ此額ヲ減スルコトヲ得

一　入札保證金ハ各自見積金額ノ二十分ノ一以上
二　契約保證金ハ契約金額ノ十分ノ一以上

指名入札又ハ隨意契約ノ場合ハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第四十一條　保證金ハ公債證書又ハ日本勸業銀行債券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得其種類及價格ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十二條　左ニ揭クル入札ハ無効トス

一　入札者一名ナルトキ
二　入札人又ハ其代理人開札場所ニ立會ハサルトキ
三　入札保證金ノ不足セルトキ
四　入札書ノ金額、氏名、印影又ハ緊要ナル文字ノ誤脫若クハ不明ナルトキ

第四十三條　豫定價格ハ封書ト爲シ開札場所ニ備ヘ置クヘシ

開札ハ入書人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

得トス

一　一旦入札書ヲ差出シタル後取消ヲ爲シタルトキ
二　入札人又ハ其代理人開札場所ニ立會ハサルトキ
三　落札人落札ノ取消ヲ乞フトキ
四　落札人請書ヲ差出サス又ハ契約ヲ締結セス若クハ保證金ヲ納付セサルトキ

第四十八條　第四十六條ノ場合ニ於ケル契約保證金ハ本縣ノ所得トシ尙損害アレハ之ヲ追徵ス

第四十九條　前二條ノ場合ニ於テ其保證金ノ公債證書ナルトキハ保證金收得ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ七日以內ニ限リ保證金ト同額ノ現金ヲ當該廳廨ニ納付シ公債證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　不可抗力又ハ不得止事故ノ爲メ約定ノ日時內ニ物件ノ納付又ハ引拂ヲ了シ得サルトキハ延期ヲ乞フコトヲ得此場合ニ於テハ當該廳廨ハ事實ヲ調査シ許可スルコトアルヘシ

前項事由以外ニ於テ期限內納付又ハ引拂ヲ爲サヽルモノハ延引日數一日ニ付代價總額ノ二百分ノ一ニ當該スル金額ヲ違約金トシテ納付セシム

第五十一條　法令ノ結果又ハ當該廳廨ノ都合ニ依リ賣買契約ヲ解除スルコトアルモ相手方ハ之ヲ抗拒スルヲ得サルモノトス但本項ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ之ヲ還付シ尙損害アリタルトキハ當該廳廨ノ認定ヲ以テ相當ノ補償ヲ爲スコトアルヘシ

第五十二條　左ノ場合ニ於テハ買受人ハ其引拂ヲ了セサル物件ヲ拋棄セシモノト看做シ本縣之ヲ收得ス

一　買受人引拂期間經過ノ後五日以內ニ延期ノ申請ヲ爲サヽルトキ
二　延期々間內ニ物件ノ引拂ヲ了ラサルトキ

第五十三條　賣却物件ハ落札後假令數量若クハ品質ニ多少ノ差違アリ又ハ物件ニ隱レタル瑕瑾アルヲ發見スルモ當該廳廨ハ其責ニ任セス

第五十四條　買受人物件ヲ現場引拂前ニ於テ他人ニ轉賣又ハ讓與シタルトキハ双方連署其旨當該廳廨ヘ屆出ツヘシ但此場合ニ於テハ當初買受人ノ締結シタル契約ハ當然轉買人又ハ讓受人ニ於テ承繼スルモノトス

前項ノ規定ハ其以後ニ於ケル所有權移轉ノ場合ニモ之ヲ適用ス

第五十五條　前各條ノ外違約金賠償金ノ收納其他ノ細則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七章　縣出納吏

第五十六條　本廳及各廨ニ縣出納吏ヲ置ク

第五十七條　縣出納吏ハ內務部會計課長、各廨會計主任ヲ以テ之ニ充ツ但止ムヲ得サル場合ニ限リ其責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ補助セシムルコトヲ得

廳廨所在地外ニ於テ縣出納吏ヲ置クノ必要アルトキハ特ニ其主任ノ官吏々員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五十八條　縣出納吏ハ命令ヲ受ケタル歲入ノ現金、歲出ノ現金前渡、歲入歲出外現金、證券及物品ノ出入札後ハ更正ヲ許サス

開札ノ結果豫定價格ニ達スルモノナキトキハ其入札人ヲシテ直ニ再入札ヲ爲サシムルコトヲ得

落札トナルヘキ同價ノ入札者數名アルトキハ其者ヲシテ前入札金額ヲ目的トシ直ニ再入札ヲ爲サシムヘシ尙同價ノ場合ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

競爭落札者契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競爭入札ヲ行フヘシ

第四十四條　契約ニヨリ物件ノ既納部分ニ對シ完納前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ檢査ヲ行ヒタル官吏々員ニ於テ事實ヲ調定シ其調書ヲ作ルヘシ

前項ノ調書ニヨルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第四十四條ノ一　前條第一項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ其既納部分ニ對スル代價ノ十分ノ八ヲ超ユヘカラス

第四十五條　入札保證金ハ落札人定マリタルトキ又ハ競爭入札ヲ取消シタルトキ直ニ之ヲ還付ス但落札人ニ係ルモノハ賣買契約ヲ締結シ若クハ請書ヲ差出シ保證金納付濟ノ上之ヲ還付ス

第四十六條　契約ニ違反シ又ハ契約事項ヲ遂行スルノ見込ナシト認メタルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ假令損害アルモ當該廳廨ハ之カ責ニ任セス

第四十七條　左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ本縣ノ所

納ヲ掌ルモノトス

第五十九條　歳入歳出外現金、證劵及物品ノ出納ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ一箇年度トシ現ニ其取扱ヲ爲シタル日ヲ以テ區分スヘシ

第六十條　歳入又ハ歳入歳出外ノ現金ヲ領收シタルトキハ翌日限リ縣金庫ニ納付又ハ寄托スヘシ

第六十一條　歳入歳出外現金ノ支出ヲ要スルトキハ引出切符ヲ用ユヘシ其手續ハ第三章ヲ適用ス

第六十二條　金庫所在地外ニ於テ現金保管ノ塲合ハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行ニ委托シテ出納スルコトヲ得

第六十三條　證劵及物品等ノ納付ヲ受ケタルトキハ調査ヲ了シ堅牢ナル金櫃又ハ倉庫ニ藏置シ其鎖鑰ハ自カラ之ヲ保管スヘシ

前項拂出ヲ爲シタルトキハ正當領收證書ヲ徴スヘシ

第六十四條　縣出納吏ハ各自專用ノ物品ト雖トモ監督ノ責任ヲ有ス

縣出納吏ハ第三十六條第二項ノ塲合ニ於テハ調査ノ上意見ヲ具申スヘシ

第六十五條　現金前渡ヲ受ケタル縣出納吏ハ翌月五日限リ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令ヲ發シタル官吏々員ニ報告スヘシ

第六十六條　歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ縣出納吏ハ前條ノ手續ニ依リ提出（所屬廨長經由）スヘシ

第六十七條　縣出納吏交替ノトキハ在職中取扱ヒタル現金出納計算書ヲ調製シ交替後五日以内ニ提出（所屬廨長經由）スヘシ

前任縣出納吏ハ引繼クヘキ現金、證劵、物品ノ目錄二通ヲ作リ授受ノ手續ヲ了シ前後縣出納吏署名捺印ノ上各一通ヲ領置スヘシ

死亡其他ノ事故ニ因リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏々員ニ於テ調製スヘシ

第六十八條　縣出納吏事故ニ因リ自身ニ檢査ヲ受クル能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏々員ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第六十九條　縣出納吏ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ作リ各自署名捺印ノ上一通ハ知事ニ提出シ一通ハ縣出納吏又ハ立會人ニ交付スヘシ

第七十條　縣出納吏ハ毎年度現金、證劵、物品ノ出納計算書ヲ調製シ出納期限後五日限リ提出（所屬廨長經由）スヘシ但現金前渡金ニシテ年度央ニ於テ事務ノ完了シタルトキハ完了後五日限リトス

第七十一條　前條ノ計算書ハ檢査ノ上正確ト認メタルトキハ縣出納吏ニ對シ認可狀ヲ附與スヘシ

前項附與ノ後ト雖計算書ニ誤謬脫漏若クハ不正ノ所爲ヲ發見シタルトキハ再査ヲ爲スコトアルヘシ

第八章　縣金庫

第七十二條　縣本金庫支金庫ノ名稱、位置及出納區域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七十三條　出納ハ知事ノ指定スル開庫時間内ニ於テスヘシ但特ニ出納ヲ命シタル塲合ハ此限ニアラス

第七十四條　金庫ニ於テ領收シタル現金ハ其金庫ノ仕拂基金ニ充ツヘシ

第七十五條　徴税令書、納額告知書、返納告知書若クハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收濟年月日及金庫名ヲ記入捺印ノ上領收證書ハ納人ニ交付シ通知ヲ要スルモノハ直ニ當該官吏々員ニ通知スヘシ

第七十六條　領收スル現金ハ貨幣持參人ノ面前ニ於テ鑑定スヘシ

仕拂ニ用ユル現金ハ其金庫在合ハセノ通貨ヲ以テスヘシ

第七十七條　仕拂定額豫算若クハ更訂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第七十八條　縣金庫ハ其印鑑及事務取扱主任者ノ印鑑ヲ仕拂命令官及縣出納吏ニ提出スヘシ

仕拂命令官及縣出納吏ノ印鑑ハ所屬金庫ヘ交付スヘシ

第七十九條　第二十一條第三項ノ命令ヲ受ケタルトキハ豫算令達額ニ對査ノ上正確ト認ムルトキハ仕拂準備ヲ爲スヘシ

左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ仕拂ノ執行ヲ中止シ當該官吏々員ニ報告スヘシ

一　案内仕拂命令若クハ仕拂命令ノ不正當ト認ムルトキ

二　仕拂豫算ノ金額ニ超過スルトキ

三　案内仕拂命令ト仕拂命令ノ符合セサルカ又ハ汚損シテ對査シ難キトキ

四　集合仕拂命令ト金額氏名表ト符合セサルトキ

五　案内仕拂命令ノ到達セサルトキ

第八十條　送金仕拂命令ニシテ其送金ノ金庫所在地ナルトキハ該金庫ニテ受取人ニ交付セシメ所在地外ナルトキハ送金手形若クハ現金ヲ受取人ニ送付シ總テ領收證書ヲ徴スヘシ

前項送金ノ手續ハ即日又ハ翌日限リ之ヲ行フヘシ

第八十一條　仕拂命令ヲ持參シ現金仕拂ヲ請フモノアルトキハ案内仕拂命令ト照合ノ上正確ト認メタルトキハ現金ヲ交付スヘシ

仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請フモノアルトキハ該通知書ヘ領收ノ證印ヲ爲サシメ現金ヲ交付スヘシ

第八十一條ノ一　第八十條及第八十一條ニヨリ徴シタル領收證書ハ直ニ仕拂命令ヲ發シタル官吏々員ニ提出スヘシ

第八十二條　出納期限内ニ現金仕拂ノ請求ナキ案内仕拂命令ハ翌日限リ當該官吏々員ニ返付スヘシ

第八十三條　第二十二條ニ據リ未渡ノ證明ヲ請フモノアルトキハ嚴密ノ調査ヲ遂ケ正當ト認ムルトキハ之ヲ交付スヘシ

第八十四條　罹災救助基金、縣儲蓄金ノ出納ハ歳入歳

出ノ例ニ依ル

第八十五條　歳入歳出外現金ハ縣出納吏ノ引出切符ニ據リ仕拂フヘシ其手續ハ歳入歳出ノ例ニ依ル

第八十六條　第二十九條第二項ニ據リ一時預金ノ納付ヲ受ケタルトキハ預リ證書ヲ交付シ仕拂ヲ要スルトキハ當該官吏々員ノ裏書及捺印ヲ認メ現金ヲ拂戻スヘシ

第八十七條　計算報告及回送振替金受拂ノ順序ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第九章　帳簿及計算報告

第八十八條　金錢、證劵及物品ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ但補助簿ヲ設クルコトヲ得

本廳備付

一　日記簿、原簿、歳入簿、歳出簿、收入簿、支出簿

各廨備付

一　收入簿、支出簿

縣出納吏備付

一　現金出納簿、罹災救助基金縣儲蓄金資産簿、物品出納簿、證劵出納簿

縣金庫備付

一　現金出納簿、歳入簿、歳出簿、收入簿、支出簿

第八十九條　縣税其他諸收入金ノ徴收及滯納金整理ノ爲メ徴收簿、滯納整理簿ヲ設クヘシ

第九十條　記簿ハ凡テ憑書ニ依リ記入シ收支ノ即日必ス完了スルモノトス若シ完了シ能ハサルモ翌日ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十一條　各廨長ハ毎月收入及支出計算書ヲ調製シ翌月五日（年度經過後ニ係ルモノハ出納期限後五日）迄ニ提出スヘシ但支出ハ證憑書類ヲ添付スヘシ

毎年度ノ收支ヲ完了シタルトキハ收入及支出總括計算書ヲ調製シ翌年度五月十五日迄ニ提出スヘシ

附則

第九十二條　縣ニ對シテ土地、建物、證劵類ヲ擔保ニ提供セントスルトキハ本則各條項ヲ準用ス

第九十三條　諸帳簿、諸計算書其他ノ樣式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第九十四條　本則ハ明治三十四年度所屬ノ收支ヨリ施行ス

明治二十四年三月兵庫縣訓令第十八號同第十九號同第二十一號同二十七年三月同第十八號同三十年三月同第二十八號同第三十六號其他本則ニ牴觸ノモノハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◉兵庫縣會計規則第九十三條ニ依ル樣式

（抜抄）（明治三十四年三月三十一日兵庫縣訓令第二十九號改正（三六年第八號、三七年第一八號第六三號、四一年訓令甲第五號））

都役所　市長　警察署　縣立學校　縣立病院
縣立農事試驗場　縣立測候所　町村長　縣金庫

明治三十四年三月兵庫縣令第三十五號兵庫縣會計規則第九十三條ニ依リ樣式別冊ノ通相定ム

但明治三十五年三月兵庫縣訓令第二十三號同三十年三月同第二十九號ハ明治三十三年度限リ廢止ス

（別冊）

樣式

第一號　豫算令達書
第三號　納額（返納）告知書
第四號　納付書
第五號　過（誤）納還付請求書
第四十四號　徴收簿
第四十五號　縣税滯納額整理簿
第一號（用紙美濃罫紙）

訓第何號

明治何年度何々收入（仕拂）豫算令達書　各廨長

一金　何　圓　（增額、減額）

但別紙内譯ノ通

右收入（仕拂）命令ヲ委任ス

明治何年何月何日

兵庫縣知事　氏　名印

備考

一　會計規則第三條ノ豫算令達書ハ此式ニ據ル

二　項以下多數ノ場合ハ其内譯ヲ別紙ニ記載スヘシ

第三號甲（用紙西洋紙）寸法輪廓内縱四寸五分横三寸三分ノモノ三枚續（輪廓花紋ヲ附ス）

納額告知書

第　何　號　住所　氏名　納

明治何年度　廳衙　名

何々（欵）　何々（項）　何々（目）　何々（節）

一金　何　圓　（廳廨主任印）

但　何々

右何年何月何日限兵庫縣本（何地支）金庫ヘ納付スヘシ

明治何年何月何日　兵庫縣知事（各廨長官職）氏名印

「知事又ハ各廨長割印」　「金庫割印」

印　印

領收證書

第　號　納

一金　　（金庫主任印）

但

右領收候也

領収証

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主金任廳

但

右　年　月　日限兵庫縣本(何支)金庫ヘ納付スヘシ

明治　年　月　日　兵庫縣知事(各解長)官職氏名㊞

「知事又ハ各解長割印　「金庫割印

印　印

納付書

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主任印

但

右納付候也

明治　年　月　日　兵庫縣本(何支)金庫㊞

「金庫割印

印

通知書

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主金任廳

但

明治　年　月　日領收　兵庫縣本(何支)金庫㊞

兵庫縣知事(各解長)官職氏名宛

印　印

「知事又ハ各解長割印　「金庫割印

明治　年　月　日　兵庫縣本(何支)金庫㊞

備考

一　會計規則第十一條ノ納額告知書ハ此式ニ據ル

第三號乙(用洋紙)寸法輪廓內縱四寸五分ノモノ二枚(輪廓ハ洋紙花紋ヲ附ス)

第三號　寸法輪廓內縱四寸五分告知書以下ハ縱二寸五分

納付書

第　　號	納
明治　年度	(款)
納人	

一金

領収証

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主金任廳

但

右領收候也

明治　年　月　日　兵庫縣本(何支)金庫㊞

「金庫割印

印

納付書

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主任印

但

右　年　月　日限兵庫縣本(何支)金庫ヘ納付スヘシ

明治　年　月　日　兵庫縣知事(各解長)官職氏名㊞

「知事又ハ各解長割印　「金庫割印

印　印

備考	年　年　年　月　月　月　日納期　日納期　日發布

領収証

第何號	住所　氏名　納
一金何圓	主任印
但何々	

右領收候也

明治何年何月何日　縣出納吏官職氏名㊞

「出納吏割印

印

納付書

但何々

右納付候也

明治何年何月何日　納人住所氏名㊞

「出納吏割印

印

通知書

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主金任廳

但

明治　年　月　日領收　兵庫縣本(何支)金庫㊞

兵庫縣知事(各解長)官職氏名宛

印

「金庫割印

明治　年　月　日　兵庫縣本(何支)金庫㊞

備考

一　會計規則第十二條第二十九條ノ納付書ハ此式ニ據ル

二　知事(又ハ各解長)ノ捺印ヲ以テ縣出納吏ニ對スル受入ノ命令トス

三　此ノ納付書ニ現金ヲ添ヘ納付ヲ受ケタルトキハ命令印ヲ認メ領收證書ヲ交付スルモノトス

第四號乙(用洋紙)寸法輪廓內縱四寸三分ノモノ二枚(輪廓花紋)縱二寸五分ノモノ二枚

納

明治何年度	縣(市)(郡)縣税外收入	(款)	(項)
第何號			
	(知事)	(部長)	(課長)	(主)	(副)

一金何圓

第二編　縣税及賦金　第三章　縣税及賦金徴收

納付書

第　　號	納
明治　年度	廳　解　名
(款)	(項) (目) (節)

一金　　主金任廳

但

右領收候也

明治　年　月　日　兵庫縣本(何支)金庫㊞

「金庫割印

印

備考

一　會計規則第二十三條ノ返納告知書ハ此式ニ據ル

第四號甲(用洋紙)寸法輪廓內縱三寸五分ノモノ二枚(輪廓花紋)

納

第何號	
一金何圓	
	(知事)	(部長)	(課長)	(主)	(副)

付書

一金何圓　廳解主任印　（目節）

但

右納付候也

明治何年何月何日　縣出納吏官職氏名印

縣出納吏割印　金庫割印

領収証書

第何號　縣出納吏官職氏名納

明治何年度　縣（市）（郡）縣税外收入　（欵）　（項）

一金何圓　金庫主任印　（目節）

但

右領收候也

明治何年何月何日　兵庫縣本（何地支）金庫印

縣出納吏割印　金庫割印

通

第何號　縣出納吏官職氏名納

明治何年度　縣（市）（郡）縣税外收入　（欵）　（項）

知書

一金何圓　金庫主任印　（目節）

但

明治何年何月何日領收　兵庫縣本（何地支）金庫印

兵庫縣知事（各廨長官職）氏名宛

備考

一　會計規則第六十條ノ納付書ハ此式ニ據ル

二　此納付書ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ納付セントスルトキハ知事（又ハ各廨長）ノ命令印ヲ受クルモノトス

三　督促狀手數料納付書モ此式ニ據ル尤モ此場合ニハ初郵ノ命令印ヲ單ニ主任官吏々員ノ認印、縣出納吏云々ヲ總テ納人住所氏名トス

第五號　（用紙半紙罫紙）

明治何年度縣（市）（郡）縣税外收入過（誤）納還付請求書

一金何圓　（欵）

内　金何圓　（項）

内　金何圓　（目）

内　金何圓　（節）

但何年何月分收入内譯書ノ内（又ハ何月何日收入未報告）何某分（又ハ何某外何人分別紙仕譯書ノ通）何々ノ事由ニ依リ過（誤）納

右請求候也

明治何年何月何日　各廨長官職氏名印

兵庫縣知事宛

備考

一　會計規則第十三條ノ過（誤）納還付請求書ハ此式ニ據ル

二　過（誤）納ノ事由ハ細密ニ記載スヘシ

三　納入ヨリ徴スル請求書モ本式ニ準ス

第四十四號甲　（用紙美濃紙）

明治何年度

縣税（地租割）徴收簿

廨解名

備考

一　會計規則第八十九條ノ徴收簿ハ此式ニ據ル

二　營業税、雜種税、營業税附加税、家屋税、戸數割ハ之ニ倣ヒ各別ニ調製スルモノトス但便宜合冊シテ別座ヲ設クルモ妨ケナシ

三　式ノ如ク歳入科目各欵毎ニ統括ヲ設ケ調定及收入命令ヲ發スルモノトス

四　營業税、雜種税ノ如キハ欵ノ外各税目毎ニ統括ヲ設クルモノトス其樣式ハ町村別ノ分ニ同シ

五　此帳簿ニハ定期徴收ノモノト隨時徴收ノモノトヲ問ハス總テ之ヲ掲ケ月計累計ヲ付スルモノトス但定期徴收ノモノト隨時徴收ノモノトハ便宜別冊ト爲スコトヲ得

六　縣税外收入及縣儲蓄金收入ハ本式ニ準シ各別ニ調製スルモノトス但町村別ヲ省ク

地租割統括　△印ハ朱書トス

廨長係　月日　番號　摘要　納人名　調定額　收入額　不納缺損額　收入未濟額

自一至三　前半期分　何町外十四ケ村長　八、五〇〇、〇〇〇

一六寄過　何村長　一三〇

一七寄不足令書更正　何町長　△八〇

自八月割何ケ月分至…月分　何町外何ケ村長　一〇五〇

納付高　何町外何ケ村長　八、一三〇、〇〇〇

誤納ニ付還付　何村收入役渡　△一三〇〇

何月分計　八、五一〇、一五〇　八、一三〇、〇〇〇　△一三〇〇

純計　八、五一〇、一五〇　八、一三〇、〇〇〇　八、五〇一、〇九〇　二七三、五九〇

地租割　何町（村）　△印ハ朱書トス

月日番號　摘要　納人名　調定額　收入額　不納缺損額　收入未濟額　備考

一　前半期分　町（村）長　二三〇〇〇〇

一七寄不足　△八〇　三九九、九二〇

一八月割何ケ月分　町（村）長　二〇　二〇三、一九〇　何月何日納付濟

納付高　二八、五〇〇　二四九〇

誤納ニ付還付	何月分計	純計
	二三〇三七〇 △九八〇	二三〇一九〇
△一〇〇	二八七〇〇 △一一〇〇	二七六〇〇
一三五九〇		

又ハ何月何日缺損處分濟		

第四十五號（用紙美濃紙）

明治何年度

縣稅滯納額整理簿

廳府名

督促令狀發付月日 督促期限 督促書號	地租割	營業稅		雜種稅		營業稅附加稅	戶數割（家屋稅）	計	顚末		住所	氏名
		商業	工業	料理屋	飲食店							
何月何日 何月何日 一	二〇〇〇	三五〇	一五〇	三五〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	四一五〇	何月何日差押何月何日完納	又ハ何月何日處分決行徵收（囑託）	何村何番屋敷	何某

備考

一　會計規則第八十九條ノ滯納額整理簿ハ此式ニ據ル

二　顚末欄ニハ處分ノ結果及完了月日ヲ記入スルモノトス

三　縣稅外收入ノ滯納額整理簿ハ本式ニ準シ別ニ調製スルモノトス

◉收入支出證明規程（抜抄）

（明治三十七年三月二十二日 兵庫縣訓令第十七號）改正（四一年訓令 甲第六號）

郡役所　警察署　縣立學校　縣立病院
縣立農事試驗場　縣立測候所　市長

第一條　縣會計規則第九十一條ニヨリ本廳及各廨長ノ調製スヘキ收入、支出、計算書ハ第一號乃至第四號書式ニ據ルヘシ

第三條　收入總括計算書ニハ第七號書式ノ收入精算報告書支出總括計算書ニハ第八號書式ノ支出增減理由書ヲ添付スヘシ（一項）

第四條　左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ說明書ヲ添付スヘシ

一　科目更正若クハ過誤納下戾、定額戾入ヲ爲シタルトキハ其金額事由

二　缺損補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

前月末收入未濟額	本月迄收入濟額	備考 事由	收入未濟額
圓 錢 厘	圓 錢 厘		圓 錢 厘

明治　年度　月分收入計算書面之通相違無之候也

年　月　日

各廳長官職氏名印

知事宛

第一號

明治何年度

經常部（臨時部）

縣　稅（縣稅外）

明治何年何月分收入計算書

廳府名

科目 款	項	目	調定濟額	收入濟額	不納缺損額
			圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘

備考

第一　收入支出證明規程第一條ノ收入計算書ハ此式ニ據ル

第二　本計算書ハ（款）、（項）、（目）ニ依リ記入スルモノトス

第三　經常、臨時部及縣稅、縣稅外竝ニ市、郡、縣各別冊ニ調製スルモノトス

第四　本計算書ハ收入簿ニ依リ調製スルモノトス

第五　縣儲蓄金、罹災救助基金モ此式ニ據ルモノトス

明治　年度(收入)歳入歳入總括計算書面之通相違無之候也

明治　年　月　日

各廨長官職氏名㊞

知　事　宛

備考	未收入額	納期不損	缺額	入額	定額	調濟
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘

第二號

明治何年度

經常部(臨時部)

縣　税(縣税外)

收入總括計算書

歳入總括計算書

廨　名

摘要	備考
	第一　收入支出證明規程第一條ノ收入及歳入總括計算書ハ此式ニ據ル 第二　本計算書ハ(款)、(項)、(目)、(節)ニ依リ記入スルモノトス 第三　經常、臨時部、縣税、縣税外、市、郡、縣各別冊ニ調製スルモノトス 第四　收入總括計算書ハ收入簿、歳入總括計算書ハ歳入簿ニ依リ調製スルモノトス 第五　縣儲蓄金、罹災救助基金モ此式ニ準據スルモノトス

第七號式　(用紙美濃罫式)

明治何年度縣税收入精算書

一金　地租　何郡(市)役所割

金　郡收入

金　市・郡收入

内　郡收入

金　四月一日現在地租金若干圓地租壹圓ニ付通常半年分金何程

内(外)金　寄過(不足)

外金　滯納處分ノ未缺損

外金　免除

金　未收入

内(外)金　十月一日現在地租金若干圓地租壹圓ニ付通常半年分金何程

金　何々

内(外)金　地租金若干圓ニ對スル通常臨時月割徴收ノ分

金　何々

内(外)金　何月何日現在地租金若干圓地租壹圓ニ付第一回追加分金何程

金　何々

内(外)金　地租金若干圓ニ對スル追加臨時月割徴收ノ分

金　何々

内　郡收入

一金　家屋税　(郡收入ノ例ニヨリ列記ヲ要ス)

金　四月一日現在家屋總坪數何坪一坪ニ付通常全年分金何程

内(外)金

外金

外金

外金

内(外)金

金

内(外)金

外金

外金

外金

内(外)金

金

内(外)金

一金

内

金

内(外)金

外金

外金

外金

内(外)金

金

内(外)金

金

寄過(不足)

滯納處分ノ未缺損

免除

前半期中燒失、崩潰ノ爲メ後半期分賦課セサルモノ此家屋坪數何坪

未收入

家屋坪數何坪ニ對スル通常臨時月割徴收ノ分

何々

何月何日現在家屋總坪數何坪一坪ニ付第一回追加分金何程

何々

家屋坪數何坪ニ對スル追加臨時月割徴收ノ分

何々

戸數割

四月一日現在戸數何戸一戸ニ付通常全年分金何程

寄過(不足)

滯納處分ノ未缺損

免除

前半期中廢戸、轉出ノ爲後半期分賦課セサルモノ此戸數何戸

未收入

戸數何戸ニ對スル通常臨時月割徴收ノ分

何々

何月何日現在戸數何戸一戸ニ付第一回追加分金何程

何々

戸數何戸ニ對スル追加臨時月割徴收ノ分

内(外)金　　何々

右明治何年度縣税收入精算書面ノ通相違無之候也

明治　年　月　日　　廨長官職　氏　　名印

知事宛

備考

一　收入支出證明規程第三條ノ縣税收入精算書ハ此式ニヨル

二　此精算書ハ縣税ノ内地租割、家屋税、戸數割ニ限リ調製スルモノトス

三　追加徴收數回アルモ其賦課及徴收期日ノ同一ナルモノハ合率調製スルモノトス

四　過年度縣税地租割モ本式ニ準シ別ニ調製スルモノトス

五　縣税外納入ニ限リ收入增減理由書ヲ製ス其書式ハ第八號式支出增減理由書ニ倣フ

◉會計檢査規程(抜抄)(明治二十五年四月二十五日兵庫縣訓令第四十八號)

改正(三六年第三一號)

郡役所　市長　警察署　〔監獄署〕　〔監獄支署〕

縣立學校　縣立病院　〔縣立樣毒院〕　縣金庫

第一條　縣ノ歳入歳出縣儲蓄金雜部金及財産物品ニ關スル一切ノ檢査ヲ爲サシムル爲メ檢査委員ヲ置ク

第二條　檢査委員ハ委員長一人委員若干トシ委員長ハ高等官委員ハ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ但委員ノ事務ハ傭員ヲ以テ補助セシムルコトアルヘシ

第三條　檢査ノ事項左ノ如シ但臨時檢査事項ハ特ニ之ヲ指示ス

一　金錢出納ノ當否

二　縣税賦課ノ當否

五　縣金庫及現金出納吏ノ金櫃帳簿

六　前各項ノ外必要ト認ムルモノ

第五條　檢査委員ハ其檢査ニ對シ各廨ノ長若クハ出納吏ニ質問シ答辯書又ハ調書ヲ請求スルコトヲ得

第六條　檢査委員ハ檢査ノ成績ヲ復命スルモノトス

◉會計檢査委員心得(抜抄)(明治二十五年五月七日訓令廳第五十五號)

内務部

第一條　檢査委員ハ檢査命令狀ヲ携帶スルモノトス

第二條　總テ檢査ハ檢査規程ニ基キ每件成規定例ニ違フコト無キヤ否ヲ稽査スヘシ其細目左ノ如シ

一　縣税ノ賦課、徴收及假額徴收又ハ寄附金其他雜收入等取扱ノ手續

二　滯納處分執行方及損失金、收得金又ハ過誤納還附金等取扱ノ手續

六　概算拂、前金拂、繰換拂ノ整理又ハ各種ノ現在金及財産物品ノ現在高ニ對スル帳簿ノ照合

七　各種帳簿ノ記載方又ハ金錢物品等ノ保管

第三條　檢査委員精細ノ調査ヲ要シ檢査數日ニ渉ルト認ムルトキハ其一件書類ヲ提携歸廳ノ上調査スルコトヲ得(二項)

第四條　檢査委員ハ成規定例ニ矛盾シタルコトヲ發見シ又ハ矛盾セリト思慮スルトキハ其事實ヲ認定スル爲メ規程ニ依リ答辯書ヲ徴スヘシ

事輕易ニシテ一時ノ誤謬ニ出テタルモノト認ムルモノハ直ニ訂正セシムルコトヲ得

第五條　檢査委員ハ會計事務全般ノ整否及規則命令ノ適否等精密視察シ其成績ヲ復命スヘシ但第四條一項ニ係ルモノハ殊ニ詳密ノ復命ヲ爲スヘシ

◉兵庫縣歳入歳出科目表(抜抄)

(明治四十一年五月五日兵庫縣訓令甲第十七號)

内務部　警察部　郡役所　市役所　町村役場

縣立學校　縣立農事試驗場　縣立種畜場　縣立測候所　縣立病院　警察署　警察分署

明治三十七年十二月兵庫縣訓令第六十六號縣歳入科目表同兵庫縣訓令第六十七號縣歳出科目表別表ノ通改正シ明治四十一年度ヨリ施行ス

(別表)

歳入經常部

款	項	目	節	解	號
地租割					
營業税					
	商業税	地租割			
		商業税	地租割		
工業税					
			物品販賣業		
			金錢貸付業		
			物品貸付業		
			運送業		
			請負業		
			席貸業		
			宿屋業		
			雜商業		

雜種税	料理屋税	料理屋税			
	待合茶屋税	待合茶屋税			
	遊船宿税	遊船宿税			
	芝居茶屋税	芝居茶屋税			
	飲食店税	飲食店税			
	湯屋税	湯屋税			
	理髮人税	理髮人税			
	遊藝師匠税	遊藝師匠税			
	遊藝稼人税	遊藝稼人税			
	相撲税	相撲税	一	年齡十五年以上	
			二	年齡十五年未滿	
	俳優税	俳優税	一	等	俗ニ蔭ノ内ト唱フルモノ
			二	等	俗ニ二段目ト唱フルモノヨリ以下無給ノ者行司共ニアラサルモノ
			三	等	常業ニアラサルモノ
			一	等	俗ニ座頭ト唱フルモノ
			二	等	俗ニ立役女形ト唱フルモノ
			三	等	俗ニ小役「トッタリ」ト唱フルモノ類
工業税	製造業 印刷業 寫眞業 職工				鍛屋、酢屋、肉店、素麺屋、蕎麥屋、餅屋、粉屋ノ類
					藥湯及鑛泉共

帯間税	帯間税	年齢十二年以上	四等常業ニアラサルモノ
藝妓税	藝妓税	年齢十二年未滿	
市場税	市場税	牛馬市定場	
		生魚市定場	
		其他諸市定場	
		臨時市場	
演劇税	演劇税		
興行税	興行税	諸興行	
遊覽所税	遊覽所税		動物器械、奇品、書畫、展覽會、覗目鏡ノ類
遊技場税	遊技場税	定時場	玉突、揚弓、大弓、射的、投扇、吹矢ノ類
人寄席税	人寄席税		
船税	船税	積石數五十石未滿ノ海川小船	
		漁船	
車税	車税	馬車二匹立	
		馬車一匹立	
		荷積人力車	
		以上積牛車	
		大馬車	
		七車	

水車税	水車税	荷積車大六以下	
乘馬税	乘馬税	白	搗挽ヲ用ヒサルモノ
居畜税	居畜税	牛	農耕馬兼用トモ
		馬	
		犢牛及ヒ馬（一年以内）羊豚	
漁業税	漁業税	第一種	漁業税規則第五條ニ該當スルモノヲ含ム
		第二種	
		第三種	
		第四種	
自轉車税	自轉車税	一	
自動車税	自動車税	二	類類類
		三	
蒸瀛機械税	蒸瀛機械税	積石五十石以上	
日本形船税	日本形船税		
西洋形船税	西洋形船税	蒸瀛船	
		風帆船	
狩獵税	狩獵税	一等	

營業税附加	營業税附加		
營業税附加	營業税附加		
營業税附加	營業税附加	營業税附加	
所得税附加	所得税附加	所得税附加	
所得税附加	所得税附加	所得税附加	
家屋税	家屋税	家屋税	
戶數割	戶數割	戶數割	
戶數割	戶數割	戶數割	
雜收入	雜收入		
賦金	賦金	貸座敷賦金	
		娼妓賦金	
舞賃金	舞賃金	滯納處分費	
		舞納金	
報酬及手數料	報酬及手數料		
雜入	雜入	督促手數料	
過年度縣税	過年度縣税	雜入	
某税	某税	某收入	縣税ノ項ヲ掲ク
過年度雜入	過年度雜入	某收入	縣税ノ歲入ノ目ヲ掲ク

第三輯　郡費

◉郡制（明治三十二年三月十六日法律第六十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制

第一章　總則

第一條　郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス

第二條　郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更ス町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　郡會

第一款　組織及選擧

第四條　郡會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區ハ町村ノ區域ニ依ル但シ事情ニ依リ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設クルコトヲ得

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第五條　郡會議員ノ員數ハ十五人以上三十人以下トス

郡ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ增加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　郡內ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ選擧權ヲ有ス

郡內ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

郡會議員ハ住所ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡內ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

郡會議員ノ選擧權及被選擧權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ揭クル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一　所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二　其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三　檢事警察官吏及收稅官吏

四　神官僧侶其ノ他諸宗敎師

五　小學校敎員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選擧事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選擧區ニ於テ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス

第七條　郡會議員ハ名譽職トス

郡會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　郡會議員中闕員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選擧ヲ要スルトキハ三箇月以內ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選擧セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條　郡會議員ノ選擧ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ

其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ選擧區投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選擧人名簿ヲ調製シテ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ少クトモ七十日前其ノ他ノ場合ニ於テハ少クトモ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第十條　郡會議員ノ選擧ハ町村長之ヲ管理ス但シ數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條　町村長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選擧人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ屆出ツヘシ其ノ期限內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴願ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ期日前七日マテニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲スヘシ

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡內ノ各選擧區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ適用ス其ノ郡內一部ノ選擧區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以內ニ該選擧區ニ於テノミ行フ選擧ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ期日前七日マテニ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコト

ヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿調製ノ期日縱覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第十二條　選擧會ハ町村役場若ハ選擧ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタルトキハ選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選擧會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ

選擧會ノ場所ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ三日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選擧分會ヲ設ケ其ノ選擧ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　選擧ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選擧人中ヨリ二名乃至四名ノ選擧立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選擧長トナル

選擧立會人ハ名譽職トス

第十四條　選擧人ノ外選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧人ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　投票ノ拒否竝效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第十八條　郡會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條　選擧長ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選擧人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以內ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ何レノ選擧ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選增員選擧補闕選擧等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選擧ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限內ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以內トス

第二十一條　郡會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第二十二條　當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第二十三條　選擧人選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第二十條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ郡參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴

願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選擧ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　選擧ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選擧ヲ無效トス但シ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第二十五條　選擧若ハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選擧ノ際被選擧權ヲ有セサル爲當選無效ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル

第二十六條　郡會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ郡長ニ於テ被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會議員ハ其ノ被選擧權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第二十七條　本欵ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條　郡會議員ノ選擧ニ付テハ市町村會議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二欵　職務權限及處務規程

第二十九條　郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　決算報告ニ關スル事

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手數料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四　不動產ノ處分竝買受讓受ニ關スル事

五　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八　其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條　郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十一條　郡會ハ法律命令ニ依リ選擧ヲ行フヘシ

第三十二條　郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若ハ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第三十三條　郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　郡會議員ハ選擧人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十五條　郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選擧スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

第三十七條　郡長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十八條　郡會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以內トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ五日以內トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第三十九條　郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第四十條　郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條　郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條　議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條　法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以

テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十五條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選擧ニ付テハ郡會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第四十四條　郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十五條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十六條　郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第四十七條　會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騒擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十八條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騒擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條　議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十條　郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ郡會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五十二條　郡會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　郡參事會

第一欵　組織及選擧

第五十三條　郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　郡長

二　名譽職參事會員五名

第五十四條　名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

郡會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員中闕員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選擧同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選擧ノ時ヲ異ニスルトキハ選擧ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條　郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス郡長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二欵　職務權限及處務規程

第五十六條　郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事

三　郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述フル事

四　郡會ノ議決シタル範圍內ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五　郡費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　郡ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項

第五十七條　郡參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選擧シ之ヲシテ郡ニ係ル出納ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ檢查ニハ郡長又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第五十八條　第三十二條第三十三條第三十七條及第五十條ノ規定ハ郡參事會ニ之ヲ準用ス

第五十九條　郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第六十條　郡參事會ノ會期ハ郡長之ヲ定ム

郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十一條　郡參事會ハ議長及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十六條第二ノ議決ヲ爲ストキハ郡長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顚末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條　第四十二條ノ規定ハ郡參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指命シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

第四章　郡行政

第一欵　郡吏員ノ組織及任免

第六十三條　郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第六十四條　郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ郡長之ヲ命ス

第六十五條　郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第二欵　郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第六十六條　郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス

郡長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二　郡會及郡參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五　證書及公文書類ヲ保管スル事

六　法律命令又ハ郡會若ハ郡參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料郡費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條　郡長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡參事會ノ審査ニ付シ若郡參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條　郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條　郡會若ハ郡參事會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會若ハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十條　郡會若ハ郡參事會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十一條　郡長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十二條　郡會若ハ郡參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第六十二條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ郡會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

郡參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル郡長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十三條　郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十四條　郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ郡長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第七十五條　官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職

務關係ノ例ニ依ル

第七十六條　郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第七十七條　郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七十八條　委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他郡行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條　郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム

第三欵　給料及給與

第八十條　有給郡吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第八十一條　郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得費用辨償額及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第八十二條　有給郡吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第八十三條　退隱料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十四條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ郡ノ負擔トス

第五章　郡ノ財務

第一欵　財產營造物及郡費

第八十五條　郡ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第八十六條　郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十七條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條　郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條　郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ負擔ハ財產ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ郡內各町村ニ分賦スヘシ

第九十條　郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第九十一條　郡內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條　郡ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡內一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役又ハ現品ヲ賦課セラレタル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十三條　使用料手數料ノ徵收ニ關シ告知ヲ受ケタル者其ノ告知ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ告知書ノ交付後三箇月以內ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

郡費ノ分賦ニ關シ町村ニ於テ其ノ分賦ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以內ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十四條　使用料手數料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條　郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二欵　歲入出豫算及決算

第九十六條　郡長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ヘシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第九十七條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　郡費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第九十九條　豫算外ノ支出若ハ餘算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百一條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二條　決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百三條　豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四條　郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　郡組合

第百五條　特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ

第百六條　郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法並其ノ費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第百七條　郡組合ハ法人トス

郡組合ニ關シテハ本章中規定スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七章　郡行政ノ監督

第百八條　郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第百九條　此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以內ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以內ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百十條　監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百十一條　監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百十二條　內務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ選擧スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第二項ノ規定ニ拘ラス府縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條　郡吏員ノ服務紀律ハ內務大臣之ヲ定ム

第百十四條　左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二　使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百十五條　郡債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百十六條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二　寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三　不動產ノ處分ニ關スル事

四　第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

五　續繼費ヲ定メ若ハ變更スル事

六　特別會計ヲ設クル事

第百十七條　郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百十八條　郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百十九條　府縣知事ハ郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選擧セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八章　附則

第百二十條　此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百二十一條　郡内總町村ニ屬スル事業並其ノ財産營造物ハ小學校ヲ除ク外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第百二十二條　此ノ法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ渉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百二十三條　島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第百二十四條　明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選擧セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第百二十五條　此ノ法律施行ノ際郡會及郡參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間郡長之ヲ行フ

第百二十六條　此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百二十七條　此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十八條　明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ地ニ於テハ其ノ効力ヲ失フ

第百二十九條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

◉郡費分賦ニ關スル制

（明治三十五年四月五日法律第四十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡費分賦ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制第九十條ニ依リ郡費分賦ノ割合ヲ定ムルニ當リ當該年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額前前年度ニ比シ四分ノ一以上ヲ增減スヘキ事故ヲ生シタル町村アルトキハ其ノ增減額ヲ加除シタル額ヲ以テ割合ヲ定ムヘシ

◉郡財務規程

（明治三十三年五月二十九日兵庫縣令第三十四號）

郡財務規程明治三十三年内務省令第七號第二十六條ニ依リ別冊ノ通定ム

明治二十六年本縣訓令第二十八號郡會計規程同第二十九號郡金庫規程ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ廢止ス

（別冊）

郡財務規程

第一章　總則

第一條　毎年度歲入歲出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限トス

第二條　各町村分賦金其他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

第三條　各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ

第五條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ郡參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第六條　繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二章　豫算及決算

第七條　歲入歲出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第八條　歲入歲出豫算ヲ提出スルトキハ豫算說明ヲ付スヘシ

第九條　特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其豫算ヲ調製スヘシ

第十條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　會計年度經過後ニ至リ歲入ニ不足ヲ生シ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十二條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ付スヘシ

第十三條　郡ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後五ヶ月以内ニ完整スヘシ

第三章　會計

第十四條　歲入所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタルモノハ其納期末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ該告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
四　年度ヲ指定シタル補助金及寄付金ノ類ニシテ出納閉鎖期限內ニ收入スルモノハ其指定ノ年度

第十五條　郡長ハ歲入調定元帳ニ依リ歲入ヲ調定シ一定ノ納期日アルモノハ納期日七日以前納期日ナキモノハ其時々納入告知書ヲ發シ納人ヲシテ現金ヲ郡金庫ニ納付セシムヘシ臨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發シカタキ場合又ハ病院ノ藥價類其他之ニ類スルモノニシテ納入告知書ヲ發スルノ必要ナキ場合ニ限リ郡出納吏ヲシテ現金ヲ領收セシムルコトヲ得

第十六條　郡出納吏ニ於テ納人ヨリ歲入金ヲ領收スルトキハ納人ニ領收證書ヲ交付シ現金ハ納付書ヲ添ヘ卽日郡金庫ニ拂込ムヘシ

第十七條　歲入過誤納ノ還付金ハ之ヲ收納シタル相當科目ヨリ拂戻スヘシ但出納閉鎖後ニ係ルモノハ現年度歲出中雜支出ヨリ仕拂フヘシ
前項還付金ニシテ歲入ヨリ拂戻スモノハ歲出ノ手續ニ準スヘシ

第十八條　歲出所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル
一　郡債ノ元利退隱料ノ類ハ拂仕期日ノ屬スル年度
二　給料手當旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度
三　土木建築其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ依リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
四　前年度以前ニ係ル過誤納還付金ハ其拂戻ノ決定シタル日ノ屬スル年度
五　前各項ノ類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第十九條　仕拂命令ハ債權者ノ請求又ハ仕出書ニ依リ之ヲ發スヘシ

第二十條　仕拂切符ハ費目一目每ニ之ヲ調製スヘシ但同一ノ債權者ニ對シテ一款內ニ限リ各費目ヲ合計シ仕拂切符ヲ調製スルコトヲ得
仕拂切符ニハ債權者若ハ其代理人ノ氏名現金前渡ハ其前渡ヲ受クヘキ吏員ノ資格氏名仕拂フヘキ金額年度科目番號年月日ヲ記載スヘシ
歲出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債權者ニ對スル集合仕拂切符ヲ調製スルコトヲ得但此場合ニ於テハ各債權者ノ金額氏名表ヲ添付スヘシ

第二十一條　仕拂切符ヲ債權者ニ交付スルトキハ請求書又ハ仕出書ノ餘白ニ領收ノ證印ヲ徵シ同時ニ案內切符ヲ郡金庫ニ交付スヘシ
集合仕拂切符又ハ送金ヲ要スル仕拂切符ハ直ニ郡金庫ニ交付シ同時ニ通知書ヲ債權者ニ交付スヘシ
集合仕拂切符又ハ送金ヲ要スル仕拂切符ハ郡金庫ニ交付スヘシ
交付スルトキハ郡金庫ノ領收證書ヲ徵シ追テ債權者ノ領收證書ト交換スヘシ

第二十二條　仕拂切符案內切符ト符合セサルトキ又ハ仕拂切符汚損シ案內切符ト照合シカタキトキ若クハ仕拂切符盜難亡失ノ申出アルトキハ之ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ更ニ仕拂切符ヲ調製シテ債權者ニ交付スヘシ但盜難亡失ノ場合ハ郡金庫ニ於テ未渡ナルコトヲ證明シタル債權者ノ屆書ヲ徵スヘシ

第二十三條　集合仕拂又ハ送金ニ係ル通知書盜難亡失ノ申出アルトキハ郡金庫ニ於テ未渡ナルコトヲ證明シタル債權者ノ屆書ヲ徵シ之ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ更ニ通知書ヲ債權者ニ交付スヘシ

第二十四條　土木費（內ノ工費一ヶ月以塲費又ハ敎育衛生勸業等ノ會費郡役所々在地外ニ於テ開クトキニ限リ）病院費、學校費、農事試驗現金前渡ヲ爲スコトヲ得
旅費ニ限リ旅行ノ見積リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　現金前渡概算渡及過拂誤拂ノ返納金ハ之ヲ仕拂タル相當科目ニ戻入スヘシ但過拂誤拂ノ返納金ニシテ出納閉鎖後ニ係ルモノハ現年度歲入中雜收入ヘ收納スヘシ
前項返納金ニシテ歲出ニ戻入スルモノハ返納人ニ返納告知書ヲ交付シ之ニ現金ヲ添ヘ郡金庫ニ納付セシムヘシ

第二十六條　現金前渡ヲ受ケタル郡出納吏ハ其事務ノ結了ニ隨ヒ（病院學校等ハ翌月五日限リ）支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ提出スヘシ

第二十七條　出納閉鎖期限內現金ヲ取付サル爲メ仕拂切符ノ無効ニ屬シタルモノ其他過年度ニ係ル經費ノ支出ヲ要スルトキハ現年度歲出中雜支出ヨリ仕拂フヘシ

第二十八條　郡經濟ニ屬スル保證金其他一時取扱ニ係ル雜部金ノ出納ハ歲入歲出ノ手續ニ準シ取扱フヘシ

第二十九條　郡出納吏交替ノトキハ前任者ニ於テ引繼ヘキ現金帳簿證憑書其他書類目錄二通ヲ調製シ郡長立會ノ上授受ノ手續ヲ了ヘ目錄ニ前任者後任者及郡長署名捺印シテ前任者後任者各一通ヲ所持スヘシ
前任者死亡其他ノ事故ニ依リ自身引繼ヲ爲スコト能ハサル塲合ニ於テハ郡長ハ特ニ命シタル吏員ヲシテ之カ引繼ヲ爲サシムヘシ

第三十條　郡長ハ仕拂切符照合ノ爲メ印鑑ヲ郡金庫ニ送付スヘシ

第三十一條　郡長ハ日計簿、歲入簿、歲出簿、概算渡現金前渡整理簿、雜部金受拂簿ヲ備ヘ一切ノ出納ヲ登記スヘシ但適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第三十二條　郡出納吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ但適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　物品ノ出納ニ關シテハ消耗品出納簿、備

品原簿ヲ調製スヘシ但適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第三十四條　凡記簿ハ命令書ニ據ルニアラサレハ登記スルコト得ス

日々出納スル金錢ハ當日記簿ヲ完了スルモノトス若シ當日完了スル能ハサルモ翌日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十五條　郡出納吏ニ於テ現金ヲ即日郡金庫ニ拂込ミタルトキハ該領收證書ヲ添ヘ郡長ニ報告スヘシ

現金前渡ヲ受ケタル郡出納吏ノ收支ニ關シテハ特ニ規定アルモノヽ外凡テ前各條ニ準據シテ之ヲ取扱フヘシ

第四章　金庫

第三十六條　郡ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲メ郡金庫ヲ置ク

第三十七條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ郡長之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ郡長ノ許可ヲ得其責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三十八條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第三十九條　郡金庫ニ於テハ領收シタル現金ヲ以テ仕拂ニ充ツヘシ

第四十條　郡金庫ノ出納ハ郡長ノ指定スル開庫時間內ニ於テス但臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第四十一條　郡金庫ニ於テハ納人ヨリ納入告知書又ハ返納告知書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受クルトキハ之ヲ領收シ該書ニ接續スル領收證書及通知書ヘ領收ノ年月日ヲ記入シ郡金庫ノ印ヲ捺シ切離ノ上納入告知書又ハ返納告知書ハ郡金庫ニ領置シ領收證書ハ納人ニ交付シ通知書ハ郡長ニ送付スヘシ

郡出納吏ヨリ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受クルトキハ納付書及領收證書ニ年月日ヲ記入シ郡金庫ノ印ヲ捺シ切離ノ上納付書ハ郡金庫ニ領置シ領收證書ハ郡出納吏ニ交付スヘシ

第四十二條　郡金庫ハ現金領收濟ノ納入告知書、返納告知書、納付書ヲ年度毎ニ區分シ一ケ月分取纏メ現金出納簿ニ對照シ合計ヲ付シ保存スヘシ

第四十三條　郡金庫ハ仕拂案內切符ノ式ニ違フモノ又ハ仕拂案內切符ノ汚損シ其要部ノ認メカタキモノアルトキハ其事由ヲ郡長ニ告ケ仕拂案內切符ヲ返付スヘシ

第四十四條　郡金庫ハ仕拂切符ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ仕拂案內切符ニ照合シ現金ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際仕拂切符及仕拂案內切符ノ表面ニ年月日及現金交付濟ノ旨ヲ記入スヘシ

第四十五條　郡金庫ハ仕拂切符ノ仕拂案內切符ニ符合セサルモノ仕拂切符ノ汚損シ仕拂案內切符ニ照合シカタキモノ仕拂案內切符ノ到着セサルモノアルトキハ仕拂ヲ爲スヲ得ス

第四十六條　郡金庫ハ郡長ヨリ集合仕拂切符ノ交付ヲ受クルトキハ仕拂案內切符及金額氏名表ニ對査シ其領收證書ヲ郡長ニ差出スヘシ

受取人ヨリ領收證書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルトキハ集合仕拂切符ニ添付シアル金額氏名表ニ對査シ現金ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際金額氏名表ヘ年月日及現金交付濟ノ旨ヲ記入シ受取人ノ領收證書ハ郡長ニ差出シ前ノ領收證書ト交換スヘシ

第四十七條　郡金庫ハ郡長ヨリ送金ヲ要スヘキ裏書アル仕拂切符ノ交付ヲ受クルトキハ領收證書ヲ郡長ニ差出シ現金ヲ受取人ニ送付シ領收證書ヲ徵シ郡長ニ差出シ前ノ領收證書ト交換スヘシ

第四十八條　出納閉鎖ニ至ルモ現金ノ取付ヲ爲サヽルモノアルトキハ郡金庫ハ之カ案內切符ヲ郡長ニ返付スヘシ

第四十九條　郡金庫ハ現金交付濟ノ仕拂切符、仕拂案內切符ヲ年度毎ニ區分シ一ケ月分取纏メ現金出納簿ニ對照シ合計ヲ付シ保存スヘシ

第五十條　郡金庫ハ債權者ヨリ仕拂切符又ハ通知書盜難亡失シタル旨屆出タルトキハ調査ノ上屆書ニ未拂ナルコトヲ證明スヘシ

第五十一條　郡金庫ハ照合ニ供スル爲メ其印鑑ヲ郡長及郡出納吏ニ差出スヘシ

第五十二條　郡金庫ハ毎月執行シタル出納ノ月計表ヲ調製シ翌月三日迄ニ郡長ニ提出スヘシ

第五十三條　郡金庫ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ但適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第五章　監督

第五十四條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ郡長ニ提出スヘシ其擔保ニ關シテハ知事ノ認可ヲ經郡長之ヲ定ム

第五十五條　郡長ハ郡金庫ヲ監督シ檢査員ヲシテ定期及臨時ニ現金及帳簿ヲ檢査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　郡出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ郡長ニ於テ檢査員ヲ命シ少クトモ毎年一回以上之ヲ檢査セシムヘシ

第六章　雜則

第五十七條　工事ノ執行又ハ動產不動產ノ賣買貸借ハ公告シテ競爭ニ附スヘシ但左ノ場合ニ於テハ隨意ノ契約ヲ爲スコトヲ得

一　特種ノ工事又ハ動產不動產ニシテ競爭ニ付シ難キトキ

二　非常若ハ急遽ノ際工事又ハ動產不動產ノ買入借入ヲ爲スニ當リ競爭ニ付スル暇ナキトキ

三　公共ノ事業ニ供スル爲メ公共團體ニ讓渡スルトキ

四　公益ノ爲メ又ハ營利ノ目的ニアラサル事業ノ爲メニ貸付スルトキ

五　一廉四拾圓以內ノ工事又ハ一口拾圓以內ノ印刷物其他物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

六　郡農事試驗場郡實業學校等ノ生産製造品ヲ賣拂フトキ

七　競爭入札ニ付スルモ望人ナキトキ又ハ再度以上入札ニ付スルモ豫定價格ニ達セサルトキ但豫定價格其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

（樣式抜抄）

第一號　歳入調定元帳（第十五條）

第二號　納入告知書（第十五條）

（第一號樣式）　歳入調定元帳

何郡何町村ノ内何町村

何ノ誰

一金何程

但何郡何町村ノ内何町村何番地郡有土地田何反何畝歩明治何年ヨリ何年マテ何ヶ年賃下一ヶ年分年年何月何日限納付ノ約定

郡長收入命	主任	金額	年別	納入告知書年月日	納入告知書番號	郡金庫領收年月日
㊞	㊞	金何程	何年（度）分	何年何月何日	第何號	何年何月何日
㊞	㊞	〃〃〃	〃〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃〃

備考

第一　財務規程第十五條歳入調定元帳ハ此樣式ニ依ル但授業料ノ如キハ便宜別冊ト爲スコトヲ得

第二　經常部臨時部ニ區別シ款項目毎ニ口座ヲ設クヘシ

第三　郡金庫領收日ハ郡金庫ヨリ郡長ヘノ通知書ニ依リ登記スヘシ

（第二號樣式）　納入告知書

原符

第何號	金何程	何	某

納入告知書

第何號	何年度	何郡何町村ノ内何町村	何某納
經常（臨時）	何々（款）	何々（項）	何々（目）

一金何程

但何々（收入ノ目的ヲ記載ス）

右何年何月何日限リ何郡金庫ヘ納付スヘシ

年月日　何郡長　氏　名　㊞

領收證書

第何號	何年度	何郡何町村ノ内何町村	何某納

一金何程

但何々

右領收候也

年月日　何郡金庫　㊞

郡金庫割印

通知書

第何號	何年度	何郡何町村ノ内何町村	何某納
經常（臨時）	何々（款）	何々（項）	何々（目）

一金何程　金庫主任印

右領收濟ニ付通知候也

年月日　何郡金庫　㊞

郡長宛

郡金庫割印

備考

第一　財務規程第十五條ノ納入告知書ハ此樣式ニ依ル但授業料ニ限リ便宜通帳等ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二　用紙適宜縱四寸五分ノモノ一枚縱四寸五分横三寸三分ノモノ二枚縱四寸五分横二寸五分ノモノ一枚接續

第三　番號ハ各款ヲ通シテ年度毎ニ之ヲ改ムヘシ

（第四號第五號略）

◉郡歳入歳出豫算調製式（抜抄）

（明治二十四年四月十三日内務省令第二號）　改正（二四年第一三號）

郡制（第六十五條第三項）ニ依リ郡歳入歳出豫算調製ノ式ヲ定メ（竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク）

第一條　郡歳入歳出豫算ハ（經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ）第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歳入歳出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　夫役現品ヲ增課スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ（二項）

第四條　歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

（第一號）

明治何年度某府縣某郡歳入歳出豫算書

歳入

經常部

第三輯　郡費

第三款　各町村分賦額　金

第一項　各町村分賦額　金

（第三號）　明治何年度某府縣某郡夫役現品增課方法

一土木費中某費夫役　若干人

此見積金

内譯

若干人　某町

此見積金

若干人　某村

此見積金

一同現品　若干

此見積金

内譯

若干　某村

此見積金

若干　某村

此見積金

明治何年何月何日提出

某府縣某郡長　氏　名印

◉郡歳入歳出豫算説明書（抜抄）

（明治二十九年四月一日一第一三七〇號内務部長ヨリ郡長ニ通牒）

明治何年度某府縣某郡歳入豫算説明

歳入經常ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ（增）（減）ス其理由ハ概ヲ何々ニ由ル

第三款　各町村分賦額

本年度云々

歳入經常部					備考
科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較	增減	

第一項 各町村分賦額					前年度直接國稅府縣稅徵收額若干圓
	第一目 某村				同　若干圓
	第二目 某村				同　若干圓
	第三目 某村				同　若干圓

◉町村分賦額納期定メ方

（明治二十九年七月二十二日一第二九七一號內務部長ヨリ郡長ニ通牒）

町村分賦額ノ納期ハ郡長ニ於テ定ムヘキモ郡會ニ諮問スルヲ可トス

◉郡制第九十條直接國稅府縣稅ノ徵收額

●京都府問合　明治三十二年十月三日

郡制第九十條ニ所謂各町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額トハ町村カ實際徵收シタル額ノミヲ云フヤ將タ町村ニ於ケル徵收額ノ總テヲ云フヤ前段ノ通リトセハ町村ニ於テ徵收スヘキ國府縣稅ニシテ滯納ノ爲メ稅務署若クハ郡役所ニ於テ徵收シタル分ハ控除スヘキヤ後段ノ通リトセハ所得稅法第三條第一種第二種ノ所得稅ヲ包含スルヤ果シテ包含スルトセハ第一種ノ所得稅ハ稅務署ニテ調査シ得ヘキモ第二種ノ所得稅ハ如何ノ方法ニテ調査スヘキヤ

地方局長回答　同年十月十八日

郡制第九十條郡費分賦ニ關スル件ハ後段御見込ノ通リト存候尤所得稅法第三條第一種ノ所得稅並第二種中記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ハ無論包含候義ニ付該記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ニ付テハ本年七月省令第三十一號ニ依リ納稅地町村長ヲシテ取調シメラレ可然ト存候

◉郡制第九十條直接國稅府縣稅徵收額算定方

●大阪府問合　明治三十四年二月二十五日

郡制第九十條ニ依ル直接國稅府縣稅徵收額算定方法ニ關シ左記各項疑義ニ涉リ候ニ付貴省ノ御意見承知致度

一　所得稅法第三條第一項第一種及第二種ノ所得稅額ニ對シ郡費ヲ分賦スルヲ得サルヤ

二　前年度ニ於テ納稅義務ヲ發生シタル直接國稅又ハ府縣稅ニシテ次年度ニ入リ徵收セルモノハ其整理ノ前年度ニ屬セサル限リハ次年度ノ徵收額ニ算入スヘキモノナルヤ

三　甲市町村ニ於テ納稅義務ヲ發生セル所得稅納稅者カ未納ノ儘乙市町村ニ轉居シタル後乙市町村ニ納稅シ又ハ所得稅法第四十四條第一項ニヨリ甲市町村ニ住所及居所ヲ有スルモノニシテ乙市町村ニ於テ納稅セル場合ハ之ヲ以テ乙市町村ノ徵收額ニ算入スルモ差支ナキヤ

地方局長回答　同年五月十日

曩ニ一第五三八號ヲ以テ御問合相成候郡制第九十條ニ依ル直接國稅府縣稅ニ關スル件ハ左之通リ御了知相成度爲御參考此段及回答候也

第一項　所得稅法第三條第一項第二種中無記名債券ニ係ルモノヲ除ク外ハ總テ直接國稅ナルヲ以テ郡費ヲ分賦スヘキ義ト存ス

第二項　御見込ノ通リト存ス

第三項　乙市町村ノ徵收額ニ算入スヘキ義ト存ス

第四輯　市町村稅

◉市制及町村制（明治二十一年四月二十五日法律第一號）

改正（二八年第六號第七號、三一年第二〇號、三三年第四六號第四七號第四八號）

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ增進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

市制

第一章　總則

第一欵　市及其區域

第一條　此法律ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス別ニ市ト爲スノ地ニ施行スルモノトス

第二條　市ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條　凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存ス其區ハ財產及營造物ニ關スル事務其他法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス

第四條　市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ市ニ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

東京市、京都市、大阪市ノ區ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアルトキ亦同シ

第五條　市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二欵　市住民及其權利義務

第六條　凡市內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其市住民トス

凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物竝市有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及市ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スル者トス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條　凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來（一）市ノ住民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來（一）市ノ住民トナリ（二）其市ノ負擔ヲ分任シ

及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國税年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニヨリ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條　凡市公民ハ市ノ選擧ニ參與シ市ノ名譽職ニ選擧セラルルノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ市公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサルモノ

二　營業ノ爲メニ常ニ其市内ニ居ルコトヲ得サル者

三　年齡滿六十歳以上ノ者

四　官職ノ爲メニ市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五　四年間無給ニシテ市吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間市會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六　其他市會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ市會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市費ノ八分一乃至四分一ヲ增課スルコトヲ得

前項市會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　市公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

市公民タル者公權停止中又ハ租税滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

市公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル市吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得

第三欵　市條例

第十條　市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章　市會

第一欵　組織及選擧

第十一條　市會議員ハ其市ノ選擧人其被選擧權アル者ヨリ之ヲ選擧ス其定員ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人トシ人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六人トス

人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎ニ人員三人ヲ增シ六十人ヲ定限トス

人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增シ六十人ヲ定限トス

議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得但定限ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　市公民(第七條)ハ總テ選擧權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルル者(第八條第三項第九條第二項)及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接市税ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納税スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選擧權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルル者及第九條第三項ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條　選擧人ハ分テ三級ト爲ス

選擧人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ一級トス

一級選擧人ノ外直接市税ノ納額多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ二級トシ爾餘ノ選擧人ヲ三級トス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名以上アルトキハ其市ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選擧人每級各別ニ議員ノ三分一ヲ選擧ス其被選擧人ハ同級内ノ者ニ限ラス三級ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

第十四條　區域廣濶又ハ人口稠密ナル市ニ於テハ市條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級選擧ノ爲メ之ヲ設クルモ妨ケナシ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選擧區トス

選擧區ノ數及其區域竝各選擧區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ選擧人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ

選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其市内ニ住居ナキ者ハ課税ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亘リ納税スル者ハ課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム可シ

選舉區ヲ設クルトキハ其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條　選舉權ヲ有スル市公民（第十二條第一項）ハ總テ被選舉ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ市會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣ノ官吏

二　有給ノ市吏員

三　檢察官及警察官吏

四　神官僧侶及其他諸宗教師

五　小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

（代言人）ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選シ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

市參事會員トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者市參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

第十七條　議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ市會、市參事會若クハ府縣知事ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條　市長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ但選舉區ヲ設クルトキハ毎區各別ニ原簿及名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間市役所又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ市長ハ市會ノ裁決（第二十五條第一項）ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選舉ヲ執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條　選舉掛ハ名譽職トシ市長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選舉區ヲ設クルトキハ毎區各別ニ選舉掛ヲ設ク可シ

第二十一條　選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理竝效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條　議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ（第十七條）投票

數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十六條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選擧錄ニ附屬シ選擧ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條　選擧ヲ終リタル後選擧掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選擧ニ當リタルトキハ同一期限內何レノ選擧ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選擧ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十八條　選擧人選擧ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトハ選擧ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得（第三十五條第一項）

市長ハ選擧ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選擧ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選擧ノ定期ニ違背スルコトアルトキハ其選擧ヲ取消シ又被選擧人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選擧ヲ行ハシム可シ

第二十九條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二款　職務權限及處務規程

第三十條　市會ハ其市ヲ代表シ此法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法、律勅令ニ依テ委任セラルル事件ヲ議決スルモノトス

第三十一條　市會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一　市條例及規則ヲ設ケ並改正スル事

二　市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ揭クル事務ハ此限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、市稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六　市有不動產ノ賣買交換讓受讓渡並（質入書入）ヲ爲ス事

七　基本財產ノ處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九　市有ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　市吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一　市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十二條　市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選擧ヲ行フ可シ

第三十三條　市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監查スルノ職權ヲ有ス

市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十四條　市會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十五條　市住民及公民タル權利ノ有無、選擧權及被選擧權ノ有無、選擧人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選擧權（第十二條第二項）及市會議員選擧ノ效力（第二十八條）ニ關スル訴願ハ市會之ヲ裁決ス

市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選擧ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條　凡議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十七條　市會ハ每曆年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互選ス

第三十八條　議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ市會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第三十九條　市參事會員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯明スルコトヲ得

第四十條　市會ハ會議ノ必要アル每ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ市長若クハ市參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市參事會員ヲ市會ノ會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條　市會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條　市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條　市會ニ於テ市吏員ノ選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選擧ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條　市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選擧ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條　市會ハ書記ヲシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選擧ノ顚末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

市會ハ議事錄ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告ス可シ

市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條　市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三章　市行政

第一欵　市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長　一名

二　助役　東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三　名譽職參事會員　東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名

助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ增減スルコトヲ得

第五十條　市長ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トシ內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條　助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選擧ス其選擧ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

第五十二條　助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス

助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲ爲ス可シ再選擧ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條　市長及助役ハ其市公民タル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十四條　名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ毎二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選擧ヲ爲ス可シ

第五十五條　市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス同條第四項ニ揭載スル者ハ名譽職參事會員ニ選擧セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス

市長及助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十六條　市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條　名譽職參事會員ノ選擧ニ付テハ市參事會自ラ其効力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

第五十八條　市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス

收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ハ身元保證金ヲ出ス可シ

第五十九條　市ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ

相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條　凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會（第百十三條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス但東京京都大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員竝使丁ヲ置クコトヲ得

東京市京都市大阪市及人口二十萬以上ノ市ハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス

第六十一條　市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ市參事會員又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市公民中選擧權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選擧シ選擧權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選擧シ其他ノ委員ハ市長之ヲ選任ス

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十二條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條　市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二欵　市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程

第六十四條　市參事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　市ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　市ノ權利ヲ保護シ市有財產ヲ管理スル事

五　市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

六　市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟竝和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十五條　市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得

其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事錄ニ登記ス可シ

市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スル事ヲ得

第六十六條　第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得サルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス

第六十七條　市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ澁滯ナキコトヲ務ム可シ

市長ハ市參事會ヲ召集シ之カ議長トナル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

第六十八條　急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第六十九條　市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務竝市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條　市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十一條　書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條　區長及其代理者（第六十條）ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌ス

前項ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

區收入役ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌ス

第七十三條　委員ハ（第六十一條）市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條　市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　（浦役場ノ事務）

三　國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右（三）項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ市ノ負擔トス

第三款　給料及給與

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額及報酬額ハ市會之ヲ議決ス

第七十六條　市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ府縣參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第七十七條　市條例ノ規定ヲ以テ市長其他有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條　有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條　退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條　給料、退隱料、報酬及辨償ハ總テ市ノ負擔トス

第四章　市有財産ノ管理

第一款　市有財産及市税

第八十一條　市ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條　凡市有財産ハ全市ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條　舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ其市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條　市住民中特ニ市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ市條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條　使用權ヲ有スル者（第八十三條、第八十四條）ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條　市會ハ市ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權（第八十三條、第八十四條）ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條　市有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條　市ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラルル支出ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手數料（第八十九條）並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ

市税(第九十條)及夫役現品(第百一條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第八十九條　市ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十條　市税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一　國税府縣税ノ附加税

二　直接又ハ間接ノ特別税

附加税ハ直接ノ國税又ハ府縣税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別税ハ附加税ノ外別ニ市限リ税目ヲ起シテ課税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條　此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手數料(第八十九條)特別税(第九十條第一項第二)及從前ノ區町村費ニ關スル細則ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ市參事會之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條　三箇月以上市内ニ滯在スル者ハ其市税ヲ納ムルモノトス但其課税ハ滯在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條　市内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ市内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條　所得税ニ附加税ヲ賦課シ及市ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課セントスルトキハ納税者ノ市外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條　數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ前條ノ市税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條　所得税法(第三條)ニ掲クル所得ハ市税ヲ免除ス

第九十七條　左ニ掲クル物件ハ市税ヲ免除ス

一　政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋

二　社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋

三　官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

第九十八條　前二條ノ外市税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條　數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條　(削除)

第百一條　市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納税者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條　市ニ於テ徴收スル使用料、手數料(第八十九條)市税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國税滯納處分法ニ依リ之ヲ徴收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

納税者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納税延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徴(期滿得免)及先取特權ニ付テハ國税ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條　地租ノ附加税ハ地租ノ納税者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市税ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條　市税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ市參事會ニ申立可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減税免税及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條　市税ノ賦課及市ノ營造物、市有財産竝其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ市參事會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條　市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若

クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

第二款　市ノ歳入出豫算及決算

第百七條　市參事會ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條　豫算表ハ會計年度前市會ノ議決ヲ取リ之ヲ府縣知事ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條　定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條　市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條　市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲ス可シ例月檢査ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條　決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故障アルモノトス

第五章　特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第百十三條　市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十四條　前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ關スル規則ニ依リ市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章　市行政ノ監督

第百十五條　市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

市ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百十六條　此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ市ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百十七條　監督官廳ハ市行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百十八條　市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十九條　凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事

件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決スル可シ

第百二十條　内務大臣ハ市會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選スル可キコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集會スル迄ハ府縣參事會市會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十一條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　市條例ヲ設ケ竝改正スル事

二　學藝、美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與〔質入書入〕交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

第百二十二條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ增加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二　市特別税竝使用料、手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　〔地租五分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事〕

四　間接國税ニ附加税ヲ賦課スル事

五　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十三條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ竝改正スル事

二　基本財産ノ處分ニ關スル事（第八十一條）

三　市有不動産ノ賣却讓與竝〔質入書入〕ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ税率ニ據ラスシテ國税府縣税ニ附加税ヲ賦課スル事（第九十條第二項）

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十四條　府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス其過怠金ハ二十五圓以下トス

追テ市吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ〔官員懲戒例〕ヲ適用ス可シ

一　市參事會ノ懲戒處分（第六十四條第二項第五）ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三　本條第一項ニ掲載スル市吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ（第六十三條）懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四　懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁判ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ノ解職ニ係ル裁決ハ上奏シテ之ヲ執行ス

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ停止スルコトヲ得

第百二十五條　市吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ市ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第七章　附則

第百二十六條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第百二十七條　〔府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ〕

第百二十八條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スルニ付市參事會及市會ノ職務竝市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百二十九條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第百三十條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十一條　現行ノ租税中此法律ニ於テ直接税又ハ間接税トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十二條　明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十三條　内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市、京

都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

町村制

第一章　總則

第一欵　町村及其區域

第一條　此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條　町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條　凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條　町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ渉リ若クハ市ノ境界ニ渉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラス町村ヲ合併シ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條　町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ渉リ若クハ市ノ境界ニ渉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ訴ヘスルコトヲ得

第二欵　町村住民及其權利義務

第六條　凡町村內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物竝町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條　凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村內ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但塲合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且治產ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條　凡町村公民ハ町村ノ選擧ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選擧セラルルノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二　營業ノ爲メニ常ニ其町村內ニ居ルコトヲ得サル者

三　年齡滿六十歲以上ノ者

四　官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五　四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六　其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ增課スルコトヲ得

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　町村公民タル者第七條ニ揭載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

町村公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ塲合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ塲合ニ當ルトキモ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル町村吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得

第三欵　町村條例

第十條　町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章　町村會

第一欵　組織及選擧

第十一條　町村會議員ハ其町村ノ選擧人其被選擧權ア

ル者ヨリ之ヲ選擧ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

一　人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ　議員八人
一　人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ　議員十二人
一　人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十八人
一　人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員二十四人
一　人口二萬以上ノ町村ニ於テハ　議員三十人

第十二條　町村公民(第七條)ハ總テ選擧權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルル者(第八條第三項、第九條第二項)及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選擧權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルル者及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條　選擧人ハ分テ二級ト爲ス

選擧人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選擧人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選擧人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選擧ス其被選擧人ハ同級內ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

第十四條　特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選擧ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條　選擧權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣郡ノ官吏
二　有給ノ町村吏員
三　檢察官及警察官吏
四　神官僧侶及其他諸宗敎師
五　小學校敎員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

(代言人)ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選擧セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選擧セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員ト之ノ間ニ其緣故アル者町村長若クハ助役ニ選擧セラレ認可ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

第十七條　議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選擧ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選擧ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選擧トモ前任者ノ選擧セラレタル選擧等級ニ從テ之カ選擧ヲ行フ可シ

第十八條　町村長ハ選擧ヲ行フ每ニ其選擧前六十日ヲ限リ選擧原簿ヲ製シ各選擧人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選擧人名簿ヲ製ス可シ

選擧人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選擧前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選擧ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選擧ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選擧ヲ執行スルトキハ町村長ハ選擧ノ場所日時ヲ定メ及選擧ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選擧前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選擧ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フ可シ

第二十條　選擧掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選擧人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其係長トナリ選擧會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條　選擧開會中ハ選擧人ノ外何人タリトモ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選

舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理竝效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集テ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條　議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條　選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條　選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限內何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條　選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第一項)

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

第三十條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條　小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第三十二條　町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件竝從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラルル事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條　町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一　町村條例及規則ヲ設ケ竝改正スル事

二　町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六　町村有不動產ノ賣買交換讓受讓渡竝(質入書入)ヲ爲ス事

七　基本財產ノ處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九　町村有ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ竝其金額ヲ定ムル事

十一　町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條　町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十五條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行竝收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督

官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條　町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條　町村住民及公民タル權利ノ有無、選擧權及被選擧權ノ有無、選擧人名簿ノ正否竝其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選擧權(第十二條第二項)及町村會議員選擧ノ效力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無竝選擧權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選擧ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　凡議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十九條　町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條　會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者其ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條　町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯明スルコトヲ得

第四十二條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條　町村會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條　町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條　町村會ニ於テ町村吏員ノ選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選擧ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條　町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選擧ノ事ヲ總理シ開會閉會竝延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條　町村會ハ書記ヲシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選擧ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條　町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織選任

第五十二條　町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

第五十三條　町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ選擧ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選擧ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條　町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選擧ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條　町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ

亦同シ

第五十六條　町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條　有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條　有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條　町村長及助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條　府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルヿトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條　町村長及助役ノ選擧其認可ヲ得サルトキハ再選擧ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條　町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條　町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會(第百十四條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス

第六十五條　町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條　町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款　町村吏員ノ職務權限

第六十八條　町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財產ヲ管理スル事

五　町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委

任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條　町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　〔浦役場ノ事務〕

三　國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右〔三〕項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條　町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條　町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條　書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條　區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條　委員（第六十五條）ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ竝其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三欵　給料及給與

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額（第六十三條第一項）ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條　有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條　町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條　有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條　退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條　給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章　町村有財産ノ管理

第一欵　町村有財産及町村税

第八十一條　町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條　凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條　舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條　町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條　使用權ヲ有スル者（第八十三條、第八十四條）ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條　町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權（第八十三條、第八十四條）ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條　町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條　町村ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラルル支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手數料（第八十九條）並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税（第九十條）及夫役現品（第百一條）ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條　町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手數料

ヲ徴收スルコトヲ得

第九十條　町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一　國税府縣税ノ附加税

二　直接又ハ間接ノ特別税

附加税ハ直接ノ國税又ハ府縣税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別税ハ附加税ノ外別ニ町村限リ税目ヲ起シテ課税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條　此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手數料（第八十九條）特別税（第九十條第一項第二）及從前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條　三箇月以上町村内ニ滯在スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス但其課税ハ滯在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條　町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者（店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク）ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條　所得税ニ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課セントスルトキハ納税者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業（店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條　數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條　所得税法（第三條）ニ掲クル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條　左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス

一　政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋

二　社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋

三　官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免税スルコトヲ得

第九十八條　前二條ノ外町村税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條　數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條　（削除）

第百一條　町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納税者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村税ヲ準率ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條　町村ニ於テ徴收スル使用料、手數料（第八十九條）町村税（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國税滯納處分法ニ依リ之ヲ徴收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

納税者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納税延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徴、（期滿得免）及先取特權ニ付テハ國税ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條　地租ノ附加税ハ地租ノ納税者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村税ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條　町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減税免税及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條　町村税ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産竝其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條　町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ增加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ

堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ

償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス

第二款　町村ノ歳入出豫算及決算

第百七條　町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條　豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取リ之ヲ郡長ニ報告シ竝地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條　定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町町長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條　町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ（第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル）先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長（第六十八條第二項第三）又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條　町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲スヘシ例月檢査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條　決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出スヘシ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第百十三條　決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章　町村内各部ノ行政

第百十四條　町村内ノ區（第六十四條）又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村（第四條）ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條　前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章　町村組合

第百十六條　數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併（第四條）スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條　町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ（第百十六條第一項）組合會議ノ組織、事務ノ管理方法竝其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條　町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章　町村行政ノ監督

第百十九條　町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

町村ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百二十條　此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セント

スル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條　監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ竝實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百二十二條　町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不可アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十三條　凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十四條　内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内ニ更ニ議員ヲ改選スヘキコトヲ命スヘシ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十五條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村條例ヲ設ケ竝改正スル事

二　學藝、美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與〔質入書入〕交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

第百二十六條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ增加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノ者ハ此限ニ在ラス

二　町村特別税竝使用料、手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スルコト

三　〔地租五分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事〕

四　間接國税ニ附加税ヲ賦課スル事

五　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十七條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ竝改正スル事

二　基本財産ノ處分ニ關スル事〔第八十一條〕

三　町村有不動産ノ賣却讓與竝〔質入書入〕ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事〔第八十六條〕

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ税率ニ據ラスシテ國税府縣税ニ附加税ヲ賦課スル事〔第九十條第二項〕

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十八條　府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ〔官吏懲戒例〕ヲ適用ス可シ

一　町村長ノ懲戒處分〔第六十八條第二項第五〕ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三　本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得ヘキ者ハ〔第六十七條〕懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四　懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會之ヲ裁決縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ停止スルコトヲ得

第百二十九條　町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章　附則

第百三十條　〔郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ關

設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ〕

第百三十一條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スルニ付町村長及町村會ノ職務竝町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指名スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條　此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條　前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアルヘシ

第百三十四條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第百三十五條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十六條　現行ノ租税中此法律ニ於テ直接税又ハ間接税トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十七條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行スヘシ

第百三十八條　明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告、區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十九條　内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ

◉害蟲驅除豫防法（抜抄）

（明治二十九年三月二十五日法律第十七號）　改正（三五年第九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

害蟲驅除豫防法

第四條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ依リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條　地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第十條　蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ト雖モ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

◉市町村行政中主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項（抜抄）

（明治三十三年三月三十一日勅令第百二十三號）　改正（三九年第一九〇號、四〇年第三二一號）

朕市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制第百二十一條第百二十二條町村制第百二十五條第百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭クルモノハ府縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

一〔地租二分ノ一以下ノ附加税ヲ賦課スル事〕

四　條例廢止ニ關スル條例ヲ設クル事

◉人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル制

（明治三十三年三月三十一日勅令第九十八號）

朕東京市京都市大阪市ヲ除クノ外人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　本令ハ東京市、京都市、大阪市ヲ除クノ外人口二十萬以上ノ市ニシテ有給ノ區長ヲ置ク地ニ之ヲ施行ス

第二條　區ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

本條ノ處分ニ關シ其ノ區ノ財産處分ヲ要スルトキハ市參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ市參事會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　區ニ區長代理者ヲ置カス

第五條　區長ハ市長市參事會若ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ委任ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務ヲ掌ル

區長ハ市參事會ノ監督ヲ承ケ區ノ事務ヲ掌ル

前項區長ニ於テ區ノ事務ヲ處理スルニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定ヲ準用ス

區長其ノ他區ノ吏員ハ法律命令ニ定ムルモノノ外府縣知事ノ命ヲ承ケ若ハ其ノ委任ニ依リ區内ニ關スル國及府縣ノ行政事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ委任ニ依リ市制第七十四條ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ掌ル

前項ノ場合ニ於テ市長ノ委任ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

區長ハ區ノ附屬員及使丁ヲ監督ス

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　區長故障アルトキハ區ノ上席附屬員之ヲ代理ス

第七條　區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ若ハ其ノ委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ掌ル

區收入役ハ區ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

區收入役ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本條ニ規定スルモノヲ除クノ外市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ニ付テハ第五條第八項ノ規定ヲ準用ス

第八條　區收入役故障アルトキハ市參事會ノ指名シタル區ノ附屬員之ヲ代理ス

第九條　區ノ附屬員ハ區長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　區長ト區會トノ關係ニ付テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎市町村廢置分合ノ際取扱規定

（明治三十年三月十六日内務省令第三號）

第一條　町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村長就職スルニ至ルマテ監督官廳ハ前町村吏員ニ命シ又ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ若クハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ其ノ事務取扱ヲ爲サシムヘシ

前項ニ依リ事務取扱ヲ命シタル前町村ノ吏員及臨時代理者ノ給料（報酬）旅費（實費辨償額）等ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村會成立スルニ至ルマテ始メテ議員ヲ選擧スルニ付町村會ノ議決スヘキ事件ハ郡參事會代ッテ之ヲ議決スヘシ

第三條　新ニ町村ヲ置キタル日ヨリ町村税徴收ニ至ルマテ其ノ町村必要ノ費用ハ其ノ事務取扱者ニ於テ豫算ヲ設ケ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ費用ハ假ニ町村税ヲ徴收シテ之ニ充テ又ハ前町村ノ引繼金若クハ一時ノ借入金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　前條第二項ニ依リ假徴收ヲ爲シタル町村税ハ追テ町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上町村税各納人ニ對シ差引徴收ヲ爲スヘシ

第五條　町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ財務ハ實施ノ期日ヲ限リ打切リ決算スヘシ

前項ノ決算ハ其ノ事務ヲ繼承シタル町村長ヨリ其ノ町村會ニ報告スヘシ

第六條　町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村税其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ニ於テ之ヲ徴收スヘシ

第七條　町村ノ一部ヲ分割シテ新ニ町村ヲ置キ又ハ町村ノ區域ヲ變更シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村税其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ハ前町村長ノ囑托ニ依リ之ヲ徴收スヘシ

第八條　町村公民ノ資格要件中其ノ年限ニ關スルモノハ町村ノ廢置分合若クハ境界變更處分ノ爲ニ中斷セラレサルモノトス

第九條　新町村ノ役場位置ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條　町村ヲ變シテ市ト爲シ又ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ市制第四條ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ法令中別段ノ規程アルモノヲ除ク外總テ此ノ省令ノ規程ヲ準用ス

◎市制町村制中直接税間接税類別

（明治二十一年七月十三日大藏省告示第九號）改正（二五年第三九號、二九年第五四號、三〇年第一一號、三二年第四七號、三九年第七九七號）

本年法律第一號市制第百三十一條町村制第百三十六條ハ間接税ノ類別ハ左ノ諸税ヲ以テ直接税トシ其他直接税間接税トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徴收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシム

國　税

地租　所得税（所得税法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク）

營業税　鑛業税

府縣税

地租割　戸數割　家屋税　營業税　雜種税

營業税附加税

市町村税

直接國府縣税附加税　段別割

◎神戸市特別税ヲ直接市税ニ指定

（明治三十二年二月二十日兵庫縣告示第五十三號）

神戸市特別税營業税雜種税家屋税ハ明治二十一年七月大藏省告示第九十五號ニ依リ直接市税ト定メラレタリ

◎歩一税及演劇興行税ハ直接市町村税ニ不指定

（明治三十六年四月二十八日兵庫縣訓内治第一六四四號内務部長ヨリ都市長ニ通牒）

市町村ニ於テ設クル特別税中土地建物移轉税歩一税及演劇興行税ハ從來府縣ノ稟申ニ對シ直接市町村税ト指定相成居候處右ハ其税ノ性質上市町村ト密接ノ關係ヲ有スルモノニ無之候ニ付既ニ指定セラレタル分ヲ除クノ外自今直接税ニ指定セラレサルコトニ其筋ニ於テ決定相成候條爲參考此段及通牒候也

◎町村制第九十條第一項國税府縣税ノ解釋

（明治二十一年七月十一日縣甲第二七號内務書記官通牒）

内務省議決定

町村制第九十條第一項ノ國税府縣税トアルハ汎ク直接間接ノ兩税ヲ云ヒ第二項ノ直接ノ二字ハ國税府縣税ニ

通ス

◉市町村制第九十條第二項均一税率ノ解釋及合併町村各部課税標準區分方

富山縣伺（明治二十一年七月）　内務大藏兩省指令（同年十一月三十日）

一　市制町村制第九十條第二項均一ノ税率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收ストハ戸別地價營業割等概シテ同一ノ標準例ヘハ戸別割一戸ニ付金一圓トセハ各戸之ニ準シテ差等增減ヲ成シ能ハサルノ類ニ據ラサルヲ得サル義ト心得ヘキヤ

指令　課率ヲ同一ニスル旨意ニシテ納額ヲ均一ニスル義ニアラス

一　從來ノ數町村ヲ合併シテ一町村ト爲シタル時ハ市制町村制第九十九條ノ場合ノ外各區部利害ノ輕重若クハ課税ノ便否ニ依リ其町村税賦課ノ標準ヲ異ニスルコト相成ラスヤ

指令　利害關係ノ輕重アルモノト認ムル部分ハ附加税ニ限リ市制第百二十三條第七町村制第百二十七條第七ヲ適用スヘシ

◉町村内ノ區費モ町村税トシテ賦課方

石川縣問合（明治二十二年十二月二十六日電報）

町村ノ一部ニ開設スル區會ニテ議決スル區費ノ賦課ハ單ニ區費トシテ徴收スルヤ又町村税トシテ賦課スヘキヤ

縣治局長回答　同年同月二十七日電報

町村税トシテ賦課スヘキ義ト存ス

◉町村税徴收期日定メ方

静岡縣伺　明治二十二年六月二十二日

町村税ノ内〔特別税ノ徴收期日ヲ定ムルハ制第九十一條第一項ノ規定ニヨリ條例ヲ以テ之ヲ定ムヘキ義ト相考ヘ候ヘ共〕附加税ハ其本税ト同時日ニ於テ徴收スヘキモノニ付法律中明文ヲ掲ケラレサル儀ト心得可然乎又ハ情況ニヨリ町村會ノ決議ヲ以テ日ヲ異ニシ徴收期ヲ定ムルヲ得ヘキ義ニ候哉判然不致候間至急御指揮有之度此段相伺候也

内務省指令　同年七月九日

後段伺之通

◉戸別割賦課及市町村税賦課ノ時期

内務省議決定（明治二十三年八月二日縣甲第四六號内務書記官通牒）

一　地方税戸數割負擔ノ義務アルモノニシテ某ノ種類ニ限リ特ニ之ヲ免除スルモ町村税タル戸數割ノ附加税ハ之ヲ賦課スルヲ得ヘキモノトス

一　市町村税ハ其年度以前ニ於テ賦課徴收スルヲ得サルモノトス但當該年度町村税徴收以前ニ於テ同年度ノ費用ヲ支出セントスルノ必要ヲ生シタル場合ニ於テハ市制町村制第百六條末項ニ依ルカ若クハ前年度ヨリ繰越金又ハ該年度雜收入ヲ以テ便宜支出ニ充ツルニ限ルモノトス

◉縣税營業税雜種税ノ附加税賦課方

山梨縣問合　明治二十六年六月二十六日

縣税營業税雜種税中ノ一種目ニ限リ附加市町村税ヲ賦課セントスル市町村アリ右ハ田地價ノミニ賦課スルモノハ特別税ナリトノ客年七月十一日梨丁第三二號内務大藏兩省書記官通牒ノ例ニ依レハ營業税若クハ雜種税ニ包括スル總種目營業税ニアリテハ商業税工業税雜種税ニアリテハ料理屋税待合茶屋税ノ類ニ涉リ附加スルニアラサルヲ以テ特別税ニ屬スヘキ歟然レトモ其附加スヘキ本税アル以上ハ之ヲ市町村限リ特ニ設クル税目ニ屬セシムルハ妥當ナラサル義ト相考疑義ニ涉リ候條至急何分御回示相成度

縣治局長回答　同二十八年十二月二十八日

右ハ營業税雜種税カ其賦課種目全體ヲ目的トスルニ係ラス市町村税ハ其或種目ニ限リ賦課スルモノニシテ營業税雜種税ト全ク賦課種目ノ範圍ヲ異ニスルモノナルヲ以テ附加税トナスヲ得サル義ト被存候

◉町村行政事務監督上注意方（抜抄）（明治二十六年八月十八日一甲第三一八八號内務部長ヨリ郡長ニ通牒）

先般郡長會同ノ節及御打合候町村行政事務監督上注意ノ件々爲御參考及御送付候也

九　町村税ノ戸別割ハ〔地方税〕ノ戸數割ノ等級ニ應シテ附加スヘキモノニシテ町村會ニ於テハ必先戸數割負擔等級ヲ議定セサルヘカラサルニ其手續ヲナサス却テ戸別割ノ等級ト議決シ此等級ヲ以テ〔地方税〕戸數割ノ等級ヲナシ居ルモノアリ戸數割ヲ戸別割ニ附加スルカ如キ嫌アルノミナラス本末ヲ顚倒セルモノニ付注意ヲ要ス又〔地方税〕戸數割ノ免除者ニ對シ戸數割ノ負擔額ヲ定メ置カスシテ新ニ町村税戸別割負擔額ヲ議決シテ之ヲ賦課シ之ヲ以テ戸數割ニ附加シタルモノト心得居ルモノアリ注意ヲ要ス

二十二　市町村歳入市町村税ノ目地價割戸別割營業割等ノ附記ニ地租若クハ〔地方税〕十七圓ノ三分ト記スル如キ又ハ壹圓ニ付何十何錢强ト記スルカ如キ不盡ノ税率ハ附加算出上施行ニ差支アリ

四十　〔地方税〕戸數割商工業税ヲ僅ニ二三等ニ區分セルモノアリ賣上金等ハ數千圓ト數十圓ノ差アルニ斯ノ如キ僅少ノ差ニテハ負擔上偏重偏輕ヲ免レス適當ナル等差ヲ付スルヲ要ス

四十一　商工業税ヲ負擔課率ヲ以テ均一ニ課スルモノアリ相當ナル等差ヲ付セシムルヲ要ス

◉府縣税ノ附加税タル市町村税ハ年税月税日税ヲ通シテ賦課方

内務大藏兩省議決定（明治二十六年八月二十二日縣甲第四五號内務大藏兩書記官通牒）

府縣税〔地方税〕ニ附加スル市町村税ハ其本税ノ年税ト月税ト將タ日税トヲ問ハス制第九十條ニ依リ賦課徴收スルヲ得ルモノニシテ〔而シテ制第百條ノ規定ハ月税以上ノモノニ適用スヘキモ日税ニハ適用シ得ルノ限リニアラス〕

◉國税營業税附加税賦課取扱方

内務省議決定　明治三十年一月二十日

市制第九十條又ハ町村制第九十條ニ依リ直接國税ノ營業税ニ附加税ヲ賦課スルニ方リ營業税法第一條ニ列記セル營業ノ種類ニ依リ均一ノ税率ニ據ラスシテ附加税ヲ賦課セントスルトキハ卽不均一ノ附加税トシテ市制第百二十三條ノ七又ハ町村制第百二十七條ノ七ニ依リ府縣參事會又ハ郡參事會ノ許可ヲ受クヘキハ勿論ノ義ニシテ既ニ別紙富山縣照會ニ對スル回答ノ前例モ有之候(別紙略)

就テハ同一ノ營業ニシテ設ヘハ會社組織ノ營業ト一個人ノ營業ト營業者其物ノ種類ニ依リ前項ノ如ク均一ノ税率ニ依ラスシテ附加税ヲ賦課セントスル場合アルトキニ於テモ亦府縣參事會又ハ郡參事會ノ許可ヲ受ケ不均一ノ附加税トシテ賦課スルヲ得ヘキモノト被存候

本件取扱方ニ付テハ府縣ヨリ往々問合ノ次第モ有之候ニ付右ノ如ク決定相成可然哉仰高裁

◉筏税附加税賦課方(明治三十三年十月三日〇一號内務部長ヨリ都市長ニ移牒)

地方局長通牒　三十三年十月三日地發第一五號ノ内

町村制第九十條ニ依レハ町村ハ府縣税ニ對シ附加税ヲ賦課シ得ルコトヲ規定セルヲ以テ府縣ニ於テ筏税ヲ賦課スルトキハ町村ハ之ニ對シテモ他ノ諸税ト同シク附加税ヲ賦課シ得ルモノヽ如シ然レトモ其町村内ニ住居ヲ有セサル者及三ケ月以上町村内ニ滞在セサル者ニ對シ此附加税ヲ賦課スルニハ制第九十三條ニ依ルノ外ナキモ筏税ハ筏ノ流下ナル行爲ニ課税スルモノニシテ同條ニ定メタル納税義務ノ範圍中ニ含マサル所ナリ故ニ其町村内ニ住居ヲ有セサル者及三ケ月以上滞在セサル者ニ對シテハ附加税ヲ賦課スルヲ得サルモノト解スルヲ至當トス但シ其町村内ノ住民及三ケ月以上滞在スルモノニ對シ課税スルハ毫モ差支ナキ所ナリトス

◉鐵道營業税附加税賦課方(明治三十六年九月九日兵庫縣驛内治第二八四〇號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒)

市町村ニ於テ國税營業税ニ對シ附加税ヲ賦課シ又ハ特別税ヲ設定スルノ件ニ關シ明治三十三年五月三日一甲第八〇〇號ヲ以テ及通牒置候處右ハ客年三月法律第十八號ヲ以テ營業税法中改正セラレタル結果國税額ヲ各營業場毎ニ算定シ得ルニ付鐵道營業税ニ就テハ該營業場所在地ニ於テ附加税トシテ市町村税ヲ賦課シ得ルコトニ決定セル旨其筋ヨリ通牒有之候條此段及移牒候也

◉鐵道業ヲ除クノ外營業税附加税賦課方(明治三十七年五月十一日兵庫縣驛一治第九五號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒)

鐵道業ヲ除ク外營業税法第十五條第二項ニ依リ他市町村ニ在ル店舗其他ノ營業場ニ於テ其税金ヲ合算賦課セラルヽトキハ同市町村ニテハ其ノ店舗若クハ其他ノ營業場アルニ拘ハラス之カ附加税ヲ賦課スルコトヲ得サルコト從來ノ取扱例ニ有之候處今般内務大藏兩省協議ノ上左記ノ通リ變更相成候

一　本税納付地ノ市町村ニ於テ附加税ヲ賦課セントスルトキハ他市町村ニ在ル店舗其他營業場ニ於ケル營業ハ之ヲ控除スヘキコト

二　店舗其ノ他營業場ノ存在スル市町村ハ本税ヲ納ムル市町村同樣其店舗其他ノ營業場ニ於ケル營業ニ限リ附加税ヲ賦課スルコトヲ得ヘキコト

右其筋ノ通牒ニ依リ此段及移牒候也

◉細則ヲ規定スヘキ從前ノ區町村費課目(明治二十二年八月十六日訓第五九四號内務大臣訓令)

市制町村制第九十一條中從前ノ區町村費ニ關スル細則ヲ規定スルハ從前ノ區町村費課目ニシテ國税府縣税ノ附加税ニ屬スヘキモノハ其本税則ニ準據シ更ニ細則ヲ設クルヲ要セサルヘシト雖モ從前區町村費ノ課目ニシテ市制町村制施行後ニ於テモ襲用スヘキ反別割等ノ類ハ單獨ナル特別税ナルヲ以テ之カ賦課方法ノ如キハ細則トシテ規定シ且罰則ヲ設クルヲ得ル儀ト心得ラルヘシ

右訓令ス

◉町村ノ收入ヲ滞納シタル者ニ對シテハ罰則ヲ設クルコトヲ得サル件

茨城縣問合　明治二十二年十月二十五日

町村制第九十一條ニ罰則ヲ設クルヲ得ルト有之候處凡テ町村ノ收入ヲ怠納スル者アルトキハ結局〔國税滞納處分法〕ニ依ル義ニ付該法ニ依リ處分ヲ了シタル上更ニ罰則ニ當ルトキハ國税滞納者ニ比較スルモ其權衡ヲ得サル義ト被考候條罰則ヲ設クルヲ得ルハ單ニ逋税ヲ企圖シタル場合ニ限ル義ニ有之候哉

縣治局長回答　同年十一月二日

右罰則ヲ設クルコトヲ得ルハ逋税ヲ企圖シタル場合ノミニモ限ラサルヘシト雖町村ノ收入ヲ怠納シタル者ニ對シテハ〔國税怠納處分法〕ニ依リ……設クルヲ得サル義ト存候

◉滞在人課税方

海軍省問合　明治二十二年九月二十五日

屯營病院學校ノ構内ニ在ル者郵便局電信局ノ構内ニ在ル者官吏ナルト兵卒患者生徒ナルトヲ問ハス町村滞在人ト見做スヘキモノナルヤ

前項ノ者ヲ町村住民町村滞在人ト見做スヘキモノナルトキハ家屋税ノ如キ建坪ニ課スル税ハ官舍ノ如キ官有家屋ニ課スル能ハサルニ依リ自然賦課セラルヽコトナキモ他ノ賦課法假令ハ一ト竈毎ニ賦課スル税ノ如キハ賦課セラルヽモノナルヤ

縣治局長回答　同年十一月十一日

第一項　屯營病院學校等ノ構内ニ在ル官吏ニシテ其處ニ常住居ヲ構フルモノヽ如キハ其町村ノ住民ト見做スヘク兵卒患者生徒ハ町村滞在人ト見做スヘキモノト存候

第二項　町村ニ於テ一ト竈ヲ構フルモノニ町村税ヲ賦課スルトキハ一竈ヲ構フル住民及三ケ月以上ノ滞在

人ハ其賦課ニ應セサルヲ得サル義ニ候

◉府縣税ヲ課スルモ市町村附加税ヲ課スルコトヲ得サル種目

（明治三十年十一月二日一第五七八（三號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

三重縣照會　三十年六月二十四日

市制町村制第九十三條及理由書ニ依レハ其市町村内ニ住居セサル者竝法人ハ其土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シテ賦課スル市町村税ニ限リ納税ノ義務ヲ負フモノト存セラレ候然ルトキハ（地方税）ニ在テハ會社銀行等ニ戸數割ヲ賦課スルモ（地方税賦課法ニ戸數割ヲ會社等ニ課スル規定アル場合）市町村ハ之ニ附加税ヲ課スルヲ得ス又此等會社銀行若クハ他町村人民ニシテ其市町村内ニ營業ヲナスモノ船舶車輛等ヲ所有シ（地方税）ノ物件税ヲ課セラルヽモ市町村ハ是亦附加税ヲ課スルヲ得サル等一般住民ト課税ノ均衡ヲ失フノ嫌アレトモ右ノ見解ニテ可然乎

縣治局長回答　同年十月十六日

御見込ノ通總テ附加税ヲ課スルヲ得サル義ト存候經伺ノ上此段及回答候也

◉所得税附加税賦課區分

（明治二十八年十一月二十七日兵甲第三〇一號縣治局長通牒）

本年十月三十一日一第四五〇號伺市町村ニ於テ所得税ニ附加税ヲ賦課スルノ件右ハ其市町村ニ於ケル土地家屋又ハ營業ヨリ生スル所得ニ對シテハ其市町村ニ住居ヲ構フルト否トヲ問ハス他市町村ニ於テ納ムル所得税其市町村ニ於ケル所得ト他市町村ニ於ケル所得トヲ合シタル額ニ對スル所得税ヲ指ス中右土地家屋又ハ營業ヨリ生スル所得ニ相當スル所得税ニ對シ附加税ヲ賦課スルコトヲ得ル義ト存候本伺ニ對シテハ別ニ指令不被及依命此段及通牒候也

◉所得税附加税賦課資料調査方

（明治三十七年五月十七日兵庫縣一治（第六〇號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

所得税附加税ノ賦課ニ關シ當該市町村ヨリ所得納税者ノ所得金額及内容ニ付問合アリタルトキ可成便宜ノ取計ヲ爲スヘキ樣大藏省ヨリ各税務監督局長ニ通牒致候旨其筋ヨリ通知有之候條（各町村長ヘ可然御示達相成度）此段及通牒候也

◉數町村ニ住居ヲ構フル者ノ解釋

海軍省問合　明治二十二年九月六日

町村制第九十五條ハ甲町村ニ家族ノミヲ住居セシメ乙町村ニ戸主住居スル場合ニモ適用スヘキヤ

内務書記官回答　同年九月十日

甲町村ニ家族ノミヲ住居セシメ戸主ハ乙町村ニ住居スル場合ニテモ甲乙兩町村ニ住居ヲ構フルノ事實アルモノニハ町村制第九十五條ヲ適用スヘキ義ニ御座候

◉數市町村ニ住居滯在スル者ノ所得税附加税賦課方

嚴手縣問合　明治二十二年八月三十一日

市制及町村制第九十五條ニ依リ數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ所得ニ關スル市町村税ヲ賦課セントスルトキハ同條但書ノ土地家屋又ハ營業ヨリ生スル所得ヲ除キ其他ハ平分スヘキ義ニ有之候處願フニ其平分ヲ要スヘキ所以ノ理由ハ公債證券ヨリ生スル利子ノ如キ其所得ハ孰レノ市町村ニ屬スヘキモノトモ爲スヲ得サルカ爲メニシテ官私ヨリ受クル俸給ノ如キ設ヘ住居ハ數市町村ニ構フルモ之ヲ受ケ事務ヲ執掌スル市町村ハ判明シアルヲ以テ右俸給ハ營業ヨリ生スル所得ト均シク平分スルヲ要セサルヤ

縣治局長回答　同年十月四日

市町村制第九十五條ノ但書ニ該當セサル所得ハ總テ同條本文ニヨリ平分スヘキノ義ニシテ官私ヨリ受クル俸給ニシテ其受クル市町村判明ナルモノト雖モ矢張平分ヲ要スル義ト存候

◉數市町村ニ住居滯在者ノ解釋

海軍省問合　明治二十二年九月二十三日

横須賀軍港ニ勤務ノ官吏ハ東京ト交通便利ノ地ナルカ故ニ東京ノ住宅ハ其儘ニシテ横須賀ニ住居シ或ハ下宿ニ居ル者アリ是等ハ町村制第九十五條ノ所謂數市町村縣治局長回答　同年十一月十一日

横須賀軍港ニ勤務ノ官吏ニシテ東京ノ住宅ヲ其儘ニシ横須賀ニ住居或ハ下宿スル官吏時々東京住宅ヘ來歸スルモノヽ如キハ町村制第九十五條ノ所謂數市町村ニ住居スルモノニ該當候

◉數市町ニ住居滯在者ノ解釋

福島縣伺　明治二十三年十月十日

假ヘハ東京ニ住居ヲ構ヘ家族若クハ婢僕ノミヲ置又ハ留守番ヲ置其身福島縣ニ職ヲ奉シ住居ヲ構ヘタルトキハ制第九十五條數市町村ニ住居ヲ構ヘトアルニ該當スヘキヤ果シテ然ラハ俸給ノ所得ハ平分スヘキ範圍内ニ屬スヘキヤ

内務省指令　同年十一月一日

數市町村ニ住居ヲ構ヘタルノ事實アルモノハ渾テ伺ノ通

◉夫役現品ハ町村内ノ一部又ハ數個人ニモ賦課スルコトヲ得ル件

宮城縣伺　明治二十一年八月二十五日

町村制第百一條ノ夫役及現品ハ其事業町村ノ全體ニ係ルトキハ無論町村ノ全部ニ賦課スヘキモ該町村ノ一部若クハ數個人ニ屬スル事業ニ對シテハ其一部若クハ數個人ニ之ヲ賦課スルヲ得ヘキヤ

内務省伺令　同二十二年三月十一日

町村制第九十九條ニ依リ賦課スルヲ得

◉急迫ノ場合ニ賦課セシ夫役現品徴收ノ時期

和歌山縣問合　明治二十二年四月十五日
（前略）若シ急迫ノ場合ニ於テ賦課シタルトキ夫役ノ賦課ニ應セス又ハ現品ヲ不納シタルトキ之ヲ不問ニ措クトキハ不納又ハ賦課ニ應セサルモノ多キニ至ルノ弊習ヲ生セシムルノ恐ナシトセス右等ノ場合ニ於テハ督促ヲ加ヘ尚督促ニモ應セサルトキハ他日人夫又ハ現品ヲ要スル際ニ追徴シ可然哉ト存候得共此追徴ニモ應セサルトキ始メテ金額ニ算出スルヲ得ル乎
内務書記官回答　同年五月十六日
急迫ノ場合ニ臨ミ賦課スル現品人夫ハ必要ノ時機ヲ經過シタル後ニ至リ追徴スヘキモノニ非サル義ト存候

◉基本財産造成ノ爲現品賦課方
（明治四十年六月二十七日兵庫縣總務部庶第六三號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒）

市町村又ハ市町村立小學校基本財産ノ造成ハ市制町村制第百一條ニ所謂町村公共ノ事業トアルニ該當スルヲ以テ之レカ爲ニ現品ヲ賦課スルハ別ニ差支無之候條爲念此段及通牒候也

◉市町村税延納及免除取扱方
和歌山縣伺　明治二十一年六月一日
市制及町村制第百二條第二項末文ノ場合ニ於テハ市會又ハ町村會ニ於テ年度後ニ渉リ延期スルモ又ハ之ヲ免除スルモ市町村會ノ決スル處ニ任スヘキ乎
内務省指令　同年七月十九日
伺之通

内務書記官通牒　明治二十二年十二月十六日
明治二十一年六月一日付貴縣伺第八條市町村制第百二條第二項ニ關スル件同年七月十九日付ヲ以テ伺ノ通ト指令相成候處右ハ前顯伺文中之ヲ免除ストアルハ無資力者ニ對シテハ町村ノ權利ヲ棄却シ始メヨリ義務ヲ負擔セシメサルノ意ニアラスト認メラレ指令相成候條此段爲念及通牒候也

◉市町村税等過誤納金下戻ノ免責時效
内務省議決定　（明治二十四年八月十八日縣甲第八五號内務書記官通牒）
市町村税等過誤納金下戻ノ免責時效ニ關シ市制町村制第百二條三項ニ依ルヘキモノハ會計法第十八條ノ規定ニ從フヘク其他市町村ニ於テ仕拂フヘキ義務ニシテ其免責時效ニ關シ別段ノ法律ナキモノハ一般民事上ノ規定ニ從フヘキモノトス

◉市町村税納税義務ニ關スル解釋
（明治三十六年九月十九日兵庫縣總内治第二九〇一號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

北海道廳伺　三十六年六月二十七日内地第四〇三九號
一　相續開始ノ場合ニ於テハ相續人ハ被相續人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼スルコトハ民法ノ規定スル所ニ有之候得共區町村税納付ノ義務ノ如キ公法上ノ義務ニ付テハ別段ノ規定ヲ要スヘキモノニシテ同法ノ規定ニ依リテ當然承繼スルモノニハ無之樣被存候得共如何可有之哉

一　共有物若クハ共同事業ニ對スル區町村税納付ノ義務ハ各自其持分ニ應シテ負擔スヘキモノニシテ連帶ノ義務アルモノニハ無之樣被存候得共如何可有之哉
一　前第一項ハ當然承繼スルモノニアラス又第二項ハ連帶ノ義務アルモノニアラストセハ國税徴收法第四條ノ三及第四條ノ四ニ準シタル規定ヲ區町村ノ條例ヲ以テ定ムルヲ得ヘキヤ
内務省總務長官通牒　同年八月二十日北甲第一〇三號
納税義務ニ關スル件ニ付内地第四〇三九號御申越ノ處右ハ總テ御意見ノ通リニテ可然本件ニ付テハ別ニ指令不相成候條依命此段及通牒候也

◉學藝美術ノ用ニ供スル物件及營造物免税區分
富山縣伺　明治二十一年七月
市制町村制第九十七條ノ第一項第二段ニ學藝美術ノ用ニ供スルモノトハ私立ノ向モ含蓄セシヤ
内務省指令　同年十一月三十日
私立ノ向ハ含蓄セス

◉政府及市町村有土地建物課税免除區分
神奈川縣伺　明治二十一年十月二十三日
一　市制及町村制第九十七條ノ政府ニ屬スルモノニシテ現ニ使用セサル土地建物（各省府縣用地ニシテ將來使用ノ目的アルモセヨ現ニ空地空屋トナリ居ルノ類）營利事業ニ屬スル土地建物（郵便電信鐵道ヲ除ク）他人ニ貸與シタル土地建物等ハ直接公用ニ供スルモノニ非ストシ課税シ得ヘキ義ニ候哉
二　直接公用ニ供セサル市町村所有ノ土地營造物及家屋ニシテ他ノ市町村内ニ存スルモノハ其市町村税ノ賦課ヲ受クルハ勿論ノ義ニ候得共自己市町村ノ境域内ニアルモノモ市制及町村制第九十七條ニ依リ免除ノ限リニ無之義ニ候哉
内務省指令　同二十二年二月十五日
第一項　現ニ空地空屋ナルモ各省府縣等ノ所用ニ屬スルモノ又ハ收益ノ目的ニアラスシテ貸與シタル土地建物ハ課税ノ限ニアラス其他伺ノ通
第二項　課税スヘキモノニ非ス

◉新開地及開墾地ノ區分
内務省議決定　（明治二十二年四月内乙第七六號第一部長ヨリ郡市長ニ通知）二十二年四月二十三日縣甲第三〇號内務書記官通牒
町村制第九十七條末項新開地トハ開墾鍬下年期明開墾ヲ了ハリタル土地ヲ云ヒ開墾地トハ鍬下年期中ノモノニシテ未タ開墾ヲ了ハラサル地ヲ云フ

◉町村制第九十七條末項新開地ハ地租條例ニ依リ取扱方（明治二十二年十二月二十六日書記官ヨリ郡市長ニ通牒）
内務書記官通牒　二十二年十二月十六日縣乙第一五八號
本年縣甲第三〇號ヲ以テ省議決定ニ係ル町村制第九十七條末項新開地ニ關スル件及通牒候處今般法律第三十

號地租條例改正中ニ新開地ノコトヲ規定セラレタルニ付テハ市町村制第九十七條中ノ新開地モ右ニ據ルヘキハ勿論ニ有之此段爲念及通牒候也

◉新開地及開墾地免税區分

栃木縣照會　明治二十三年三月六日

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免税スルヲ得トアリ其新開地ハ客年十一月法律第三十號改正地租條例ニ據レハ鍬下年期中免租ナルヲ以ニ單ニ特別税ニ係ル反別割ヲ免税シ得ル義ナルヤ又ハ新開地開墾地共鍬下年期明地價確定又ハ修正後年月ヲ限リ免税スルコトヲ得ル義ニ候哉

縣治局長回答　同年同月

鍬下年期明地價据置年期新開免租年期明ニ至リ其地價ヲ定メ又ハ修正シタル上ハ新開地開墾地ニアラサルニ依リ免税スルコトヲ得ルノ限リニアラス隨テ新開地ニ對シテハ特別税ヲ賦課セサルニ止ムル義ト存ス

◉市制第九十七條第二ニ該當スル土地等免税區分

和歌山縣伺　明治二十二年七月十七日電報

市制第九十七條第二ニ當ル土地等ハ其所有ナルト借地ナルトノ別ナキヤ

内務省指令　同年七月二十二日

伺之通

◉社寺用ニ供スル土地免税方

（明治二十二年八月第一部長ヨリ郡市長ニ通知）

内務省議決定　二十二年七月二十五日縣甲第五四號内務書記官通牒

町村制第九十七條第一項ノ第二ニ社寺トアルハ其土地民有地第一種ナルモノト雖モ免税ス可キモノトス

◉町村制第九十七條第一項第一號土地物件等免税區分

福岡縣伺　明治二十二年十月二十六日

町村制第九十七條第一項第一政府々縣郡市町村及公共組合ニ屬シ云々トアルハ借地借宅ト雖モ直接公用ニ供スルモノハ町村税ヲ免除スヘキモノト被存候處茲ニ一己人所有ノ家屋ノ幾分ヲ借受ケ町村役場等ヲ設置シ傍ラ所有者ノ常住スルモノヽ如キ其區域分別シ難キモノアルノミナラス右等ハ借家料ヲ支拂フモノニ付其土地ニ係ル町村税ヲ免除スルハ少シク不權衡ノ嫌ヒモ有之候條該項政府以下公共組合ニ屬スルトハ其所有權ノ有無ニヨリ一己人ノ所有ニ係ル土地營造物及家屋ハ其直接公用ニ供スルモノト雖モ免除スヘキ限リニ無之義ト相心得可然乎

内務省指令　同年十一月十二日

伺ノ通

◉市町村附加税免除區分

宮城縣伺　明治二十二年九月六日

市町村ニ於テ附加税中極貧ニシテ納税ニ堪ヘスト認ムルカ又ハ奬勵上某營業ニ限リ其税金ヲ賦課セス若クハ免除スルコトヲ規定スルヲ得ル義ニ候哉又ハ市町村税ノ免除ハ市町村制第九十六條乃至第九十八條ニ該當スルモノニ限ル義ニシテ其他ハ町村ニ於テ免除若クハ賦課セサルコトヲ得サル義ニ候哉

前項後段伺ノ通ナルトキハ市町村制第百二條第二項後段ノ場合ニ於テ其納税ヲ免除若クハ棄捐スルヲ得サル義ニ候哉

内務省指令　同年十一月十九日

第一項後段伺ノ通第二項議會ノ評決ニ依リ納税ヲ棄捐スルハ妨ナシ

内務書記官通牒

市町村税賦課免除ノ件ニ付本日指令相成候處禀伺第二項附加税ハ本税即チ國税府縣税ノ賦課方法ノ規定ニ基キ免除等ヲモ爲スヘキハ指令ノ通ニ有之候然レトモ地方ノ狀況ニ依リ全ク本税則ニ據ルトキハ納税ニ堪ヘサルモノアルカ又ハ奬勵上免除ヲ要スルモノアル場合ハ之ヲ特別税トシテ適當ノ施行ヲ爲シ得ヘキ義ト御了知相成度此段爲念申進置候也

追テ府縣税ヲ本税ト爲スヘキ附加税ノ如キハ本税タル府縣税ニ於テ豫メ市町村賦課ノ耐否等ヲモ注意シ其賦課方法ヲ規定候ハヽ市町村税戶別割等ノ如キハ特別税ヲ設クルノ場合モ稀少ナルヘキ義ト存候此段申添候也

◉一己人ノ所有地ニ公立學校病院ヲ建築シタル等ノ場合免税區分

石川縣問合　明治二十二年十月二十五日

町村内ノ一部則現今ノ大字共同ノ地所若クハ一己人ノ所有地ニ公立學校病院ヲ建築シタルモノ有之且他人ノ地又ハ一部共有ノ山林ヲ借入獲ル所ノ收得ヲ以テ學校病院ノ維持ヲ爲スノ費用ニ充ツル如キハ總テ町村制第九十七條第一項ノ二ニ該當ノ者トシ町村税ヲ免除スヘキ筋ニ候哉又ハ實際學校病院ノ用ニ供スルモ右ハ其所有主ヘ向ケ相當ノ課税ヲ爲スヲ得ヘキ乎

縣治局長回答　同年十二月四日

第一段ハ所有者大字又ハ一個人ニ於テ借地料等ヲ受ケス直接公立學校病院ノ用ニ供スルモノナルニ於テハ制第九十七條一項ノ二ニ該當スルヲ得ヘク又第二段ハ土地ノ所得ヲ以テ學校病院ノ維持費ニ充ツルモノナレハ其所有ノ何レニ屬スルモ町村税ヲ免除スヘキ限リニアラスト存ス

◉市町村納税義務免除區分

（明治二十二年十二月二十四日庶第二三九九號書記官ヨリ郡市長ニ通牒）

内務大臣訓令　二十二年十二月二十一日訓第八四六號

市町村税ハ其附加税タルト特別税タルトヲ問ハス其納税者中無資力ナル者アルトキハ第百二條第二項ニヨリ

其納税ヲ延期シ得ルハ勿論情狀ニ因リテハ市町村會ノ議決ヲ以テ其納税額ヲ棄捐スルヲ得ト雖法律勅令ニ於テ規定スルノ外特ニ其納税ノ義務ヲ免除スルヲ得サルモノトス但特別税ニ於テハ地方ノ情狀ニ依リ其賦課ノ範圍ヲ定メ其範圍外ニ對シテハ納税ノ義務ヲ負擔セシメサルコトヲ得ヘシ目下右ノ趣旨ニ適合セサル市町村條例ノ許可ヲ稟請スルモノ往々有之ニ付特ニ注意セラルヘシ

右訓令ス

◉風防及水源涵養ノ山林免税方（明治二十三年二月四日書記官ヨリ郡市長ニ通牒）

内務省議決定　乙第六號内務書記官通牒二十三年一月二十二日縣

風防及水源涵養ノ山林ハ町村制第九十七條第一項第一直接ノ公用ニ供スルモノニ付免税スヘキモノトス

◉三等郵便電信局舍免税區分

遞信省問合　明治二十二年十月二十三日

町村制第九十三條ニ據レハ郵便電信ノ業ニ供スル土地家屋ニ對シテハ町村税ヲ賦課セサル筈ト存候處三等郵便電信局郵便局舍ハ三等局長服務規約ニ依リ私有ノ家屋ヲ無料ニテ供給スルノ義務アルモノニシテ其中ニハ局務取扱ニ專用スルモノト其一半ヲ區畫シテ局務ヲ採リ他ノ一半ヲ以テ居住ニ充ツルモノトノ區別有之候處右全室ヲ局務取扱ニ專用スルモノハ本條ニ依リ町村税ヲ賦課セラレサルハ勿論ノ儀ト存候得共其一半ヲ區畫シテ局務ヲ採リ他ノ一半ヲ以テ居住ニ充ツルモノ、如キハ如何ナル方法ニ據リ課税セラルヘキヤ

縣治局長回答　同二十三年七月二十三日

土地家屋共ニ區畫ノ判然セルモノハ町村制第九十七條一項ノ一ニ依リ免税スヘキ義ニ有之又一半ヲ畫シテ居住ニ充ツル者其一半ニ對スル課税ノ方法ニ至テハ町村會ノ決議ニ依リ定ムヘキモノニ付何等御回報難及候也

◉慈善ノ趣意ヲ以テ設立セル私立學校ノ土地建物等免税區分

山形縣問合　明治二十三年九月二十五日

町村制第九十七條第二ニ官立ノ學校病院ト有之候ニ付テハ私立ニ係ルモノハ無論町村税ヲ免除スル限リニ無之候得共茲ニ慈善ノ趣意ヲ以テ私立愛民學校ナルモノヲ設置シ廣ク地方貧民ノ子弟ニ筆墨等ヲ給與シ無月謝ニテ就學セシムルモノアリ右等ノ如キハ則チ慈善ノ用ニ供スルモノトシ其所用ノ土地家屋ニ對スル町村税ヲ免除スルヲ得ヘキヤ

縣治局長回答　同年十月八日

私立ノ向ハ町村税ヲ免除セサル筋ニ候

◉豫審判事及上席檢事ノ官舍ニ對シ市町村税免除方（明治二十四年五月四日一甲第二五號書記官ヨリ郡市長ニ通牒）

内務省議決定　二十四年四月十日縣甲第二九號内務書記官通牒

豫審判事幷ニ上席檢事ノ住居ニ供スル官舍ハ直接公用ニ供シタルモノトシ市町村税ヲ免除スヘキモノトス

◉府縣知事警部長ノ住居スル官舍課税免除

長野縣照會　明治二十四年十月六日

豫審判事並上席檢事ノ住居ニ供スル官舍ハ直接公用ニ供シタルモノトシ市町村税ヲ免除スヘキ旨本年四月縣甲第二九號ヲ以テ御通牒相成居候處府縣知事並〔警部長〕ノ住居ニ供スル官舍モ右ト同樣ノ旨趣ニテ市町村税ヲ免除スヘキモノト心得可然哉此段及御照會候也

縣治局長回答　同年十月九日

御見込ノ通ニテ可然存候

追テ本年縣甲第二九號通牒ハ一般ノ町村税ヲ免除スルモノニ無之家屋税ノ如キ官舍其者ニ課スル税ヲ免除シ戶別割ノ如キ其人ニ課スルモノハ素ヨリ賦課徵收スルモノニ有之貴縣ニ於テハ家屋税ナルモノハ無之筈ニ付爲念申添候也

◉神佛二敎以外ノ宗敎用ニ供スル物件ニ對シ市町村税免除方（明治三十二年九月十九日一第四一三六號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

今般内務省令第四十一號本年七月二十七日發布相成候ニ付テハ爾今現行地方制度及衆議院議員選擧法等ニ於ケル選被選權ノ制限ニ關スル現定中諸宗敎師トアル中ニハ神佛二敎以外ノ宗敎敎師ヲ包含スルモノト解釋スヘキ義ニ有之又市制第九十七條町村制第九十七條ノ社寺トアル中ニハ嚴格ニ之ヲ解釋スルトキハ神佛二敎以外ノ宗敎ヲ包含セスト雖立法ノ精神ハ廣ク一般ノ宗敎ヲ包含スルノ旨趣ナルニ付宗敎ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニシテ同條ノ規定ニ準スヘキモノニ對シテハ神佛二敎以外ノモノト雖可成市町村税ヲ賦課セシメサルノ方針ヲ以テ御措置相成度其筋ヨリノ通牒ニ依リ此段及移牒候也

◉神佛二敎以外ノ宗敎用ニ供スル家屋ニ對シ市町村税免除方（明治三十五年六月七日兵庫縣縣内一丙第六五號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

明治三十二年九月十九日一第四一三六號移牒（地甲第七二號通牒ニ依リ移牒セシモノ）中宗敎ノ用ニ供スル土地家屋ニ關シ左記之通リ決定相成タル旨其筋ヨリ通牒有之候條爲御心得此段及移牒候也

東京府知事問合　三十三年一月二十三日一發第二七號

客年九月十三日地甲第七十二號ヲ以テ神佛二敎以外ノ宗敎ノ用ニ供スル土地家屋等ニシテ社寺ニ準スヘキ者ニ對シテハ府縣税及市町村税ヲ賦課セサル樣措置スヘキ旨内務次官ヨリ通牒ノ趣キモ有之候處基督敎ニ就テハ果シテ如何ナル種類ノ土地家屋等ヲ社寺ニ準スヘキ哉實際ノ取扱上甚困難ヲ感スル次第有之候抑モ該敎ニ於テ宗敎ノ用ニ供スル家屋ヲ類別スルニ大凡二種類有之一ハ敎會堂又ハ聖堂ト稱シ一ハ說敎所又ハ講義所ト稱ス前者ハ禮拜又ハ儀式ヲ行フ場所ニシテ敎規ニ從ヒ

一定ノ儀式ヲ經テ教用ニ充テ他ノ建物ト區別アリ後者ハ單ニ說教又ハ講義ヲ爲ス所ニシテ二者等シク宗教ノ用ニ供スル家屋ナルモ說教所又ハ講義所ノ如キモノヲ社寺ニ準シ免税スルハ神佛二教ニ對シ權衡ヲ失シ頗ル妥當ヲ缺クヲ以テ神佛二教ニ屬スル說教所ノ如キモ亦免税セサルヘカラサルニ至ルヘク就テハ右教會堂又ハ聖堂ト稱スルモノヽミヲ社寺ニ準スヘキ者トシ免税シ其他ノ者ニ對シテハ一切免税セサルノ方針ヲ以テ措置シ可然哉右ハ差掛リ疑義相生シ候ニ付何分ノ御明示相煩度此段及照會候也

地方局長回答　三十五年四月二十二日地甲第四二號

明治三十二年地甲第七十二號中社寺ニ準スヘキ家屋ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ明治三十二年內務省令第四十一號ニ依リ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ專ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ免税相成可然ト被存候右經伺ノ上此段及回答候也

追而神佛二教ノ講義所說教所ノ類ニ對シテモ本文ノ趣旨ニ依リ免税相成候方可然ト存候此段申添候也

◉商業會議所ノ公用ニ供スル土地建物ニ對シ府縣市町村税免除方

（明治三十三年一月十九日四乙第二八〇號內務部長ヨリ神戸市長ニ通牒）

商業會議所ハ市制及町村制第九十七條第一項第一號ニ所謂公共組合ニ該當スルモノナルニ付同條及府縣制第百十條ノ規程ニ據リ商業會議所ニ屬シ直接公用ニ供スル土地家屋ニ對シテハ府縣市町村税ヲ免除セラルヘキモノニ有之候處從來其解釋ヲ誤レル向モ有之ヤノ趣ニテ其筋ヨリ申越ノ次第モ有之候條爲念此段及通牒候也

◉清國人ニ對シ租税賦課取扱方及諸取締法令適用ノ時期（明治三十二年七月十五日訓第四六三號兵庫縣知事訓令）

郡市長　警察署長　警察分署長

清國人ニ對シ租税賦課ノ件ハ他ノ外國人同樣取扱取締上ノ諸法令ハ本年七月十七日以後總テ之ヲ適用スル儀ト心得ヘシ

◉獨逸國領事官ニ對シ免除スヘキ税目

（明治三十二年八月二十三日一第三七〇八號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

日獨領事職務條約第三條ニ規定セル課税ノ特權免除ニ關シ現在神戸市税ニ在リ得ヘキモノニ就キ取調ノ上別紙ノ通決定相成候條爲御心得此段及通牒候也

（別紙）

市税　領事ニ對スル課税特權免除區別

直接國税附加税

地價割　土地所有權ナキヲ以テ賦課スルヲ得ス

所得割　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

營業割

特別税

營業税

商業

工業

雜種税

料理屋

待合茶屋

芝居茶屋

遊船宿

飲食店

湯屋

理髮人

遊藝師匠

遊藝稼人

相撲

俳優

馬匹

自用乘馬　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

渡世乘馬

運輸用

兼用

水車

船

日本形小船　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

同五十石以上

西洋形風帆船

蒸汽船

車

馬車　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

荷積馬車

人力車

荷積牛車　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

荷積車

自轉車

自用

渡世用　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

蒸汽器械

市場

漁業採藻

遊技場

幇間

藝妓

酌人

遊覽所

演興行

屠畜

牛

犢牛

家屋税　直接的性質ヲ有スル負擔トシテ賦課ヲ免セラルヘシ

歩一税　土地ノ賃貸ヲ許サヽルヲ以テ賦課スルヲ得ス

一　領事官廳ノ名義ニ屬スル馬匹及船車アルトキハ領事官ニ屬スルモノト同一ノ取扱ヲ爲ス領事官廳ノ傭人又ハ領事官ノ從者ニ屬スルモノハ課税シ差支ナシ

一　表中課税欄内ニ記入セル課目ト雖領事職務外ニ商業工業其他ノ營利事業ヲ爲ストキハ各其相當課目ニ依リ賦課ス

◉外國領事竝領事廳附屬ノ外國官吏課税免除（明治三十二年八月二十五日訓第五三八號兵庫縣知事訓令）

郡長　市長

日獨領事職務條約第三條ニ依リ免除スヘキ課税ハ好意ヲ以テ廣ク一般ノ外國領事官幷領事廳附屬ノ外國官吏ニ對シテモ之ヲ免除スル儀ト心得ヘシ

右訓令ス

◉伊國蘭國瑞典諸威國領事ニ對シ特權免除及特典許與（明治三十三年四月六日訓第三六五號内務大臣訓令）

伊太利國和蘭國又ハ瑞典諸威國ニ於ケル帝國領事ニハ伊國蘭國又ハ瑞典諸威國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リテ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候條之ト相互ニ帝國ニ於ケル伊國蘭國又ハ瑞典諸威國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權及免除特典ヲ許與スルコトヲ認メ候旨其筋ヨリ通牒有之タルヲ以テ此旨心得ラルヘシ

右訓令ス

◉葡萄牙國領事ニ對シ特權免除及特典許與（明治三十四年九月二十八日外甲第六一號内務總務長官通牒）

葡萄牙國政府ニ於テハ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特典免除及特權ハ特別ノ領事職務條約ニ據リテ許與スルモノト雖モ均シク同國ノ版圖内ニ駐在スル帝國領事ニ之ヲ享有セシム可キ趣意ニ日葡通商航海條約第十五條ヲ解釋スヘキ旨本國政府ノ訓令ニ從ヒ帝國駐劄同國臨時代理公使ヨリ本月二十四日付公文ヲ以テ申越候ニ付帝國政府ニ於テモ亦帝國カ領事職務條約等ニ依リ列國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ帝國駐在ノ葡萄牙國領事ニ許與スルコトニ該條ヲ解釋スヘキ旨回答候旨外務大臣ヨリ通牒有之候ニ付依命此段及移牒候也

◉日獨領事職務條約第三條領事官ノ種別（明治三十六年六月十七日兵庫縣廳内治第二一七一號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

日獨領事職務條約第三條ノ領事官トハ同條約第二條ニ記載セラレタル總領事、領事、副領事及代辨領事ヲ指稱シタルモノニシテ領事館屬員ハ此中ニ包含セサル旨其筋ヨリ通牒ノ次第有之候條爲御參考此段及移牒候也

追而領事官ニ對スル課税ノ義ニ付テハ明治三十二年八月訓第五三八號ヲ以テ已ニ訓令相成居候ニ付御參照可相成此段申添候也

◉外國領事官竝領事廳附屬官吏ニ對シ狩獵免許税ノ免除及免狀ノ種類（明治三十七年二月二十九日農發第一一號農商務大臣内訓）

（本文略）

◉永代借地上ノ建物ニ對スル課税免除（明治三十八年十二月四日訓第一六四六號兵庫縣知事訓令）

神戸市長

今回海牙仲裁々判所ハ政府又ハ其名ヲ以テ發給シタル永代借地劵ニ因リ保有セラル、土地竝ニ該地上ニ現ニ築造セラレ若ハ將來築造セラルヘキ一切ノ建物ニ對シテハ該地劵ニ規定シタルモノヽ外一切ノ租税賦課金取立及條件ヲ免除シタルモノトスト判決セリ（以下略）

右訓令ス

◉町村税督促手數料ハ町村條例ヲ以テ規定方（明治二十三年九月十八日庶甲第三二八號書記官ヨリ郡市長ニ通牒）（二十三年九月十一日縣甲第六一號内務書記官通牒）

内務省議決定

町村税ノ滯納督促手數料ハ制第百二條ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ之ヲ徴收スヘキモノニシテ（國税滯納處分法第二條）ニ據リ直ニ徴收スルコトヲ得サルモノトス

◉町村税滯納者ニ對シ條例規定ノ督促期間ヲ經過シタル場合ニ於テモ督促權ヲ失ハサル件（明治二十七年一月二十七日一甲第九一號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

縣治局長通牒　二十七年一月二十四日縣發第一五六號

町村税ヲ滯納スルモノアルトキハ督促ノ後滯納處分法ニ依リ徴收スヘキコト町村制ノ規定スル所ニ有之然ル町村條例中納期ヲ經過シテ完納セサルモノハ若干日以内ニ督促スヘキ旨ノ規定ヲ設ケタル場合ニ於テ若シ誤テ其期限ヲ經過スルトキハ督促權ヲ失ヒタルモノナリトノ見解ヲ取リ執行上困難ヲ感スルモノ往々有之ヤニ相聞ヘ候處元來督促ハ町村長ノ職務ナルニ付萬一期限ヲ經過スルコトアルモ町村長カ條例違反ノ責ヲ負フニ止リ之カ爲メ督促ノ職務ヲ免ル、ヲ得サル儀ニ付町村會ニ於テ權利棄却ノ議決ヲ爲スニ於テハ格別然ラサレハ假令誤テ期限ヲ經過スルモ猶督促ヲ爲シ結局場合ニ依リ滯納處分ヲ行フヘキモノニ有之候條町村ニ於テ右等ノ誤解ナキ樣御注意相成度依命此段及通牒候也

◉督促手數料條例規定方（明治二十七年七月二十七日一第二四四九號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

近來町村ヨリ許可ヲ稟請スル督促手數料條例ニ關シ其訂正方ヲ照會スルハ多クハ別紙記載ノ廉々ニ候間貴廳

經由ノ節若シ右ニ該當スルモノ有之候ハヽ相當御措置ノ上御進達相成度此段及通牒候也

追テ是迄已ニ許可相成居候條例中別紙記載ノ廉ニ抵觸スルモノハ機ヲ以テ改正セシメ度此段申添候也

一　手數料ノ額ハ隨時町村長之ヲ定ムトアルカ如キハ區々ニ渉ルノ惧アルニ付明ニ金額ヲ規定スルヲ要ス

（二號消滅）

一　手數料ハ納稅者ヨリ徵收スル旨規定スルモノアレトモ滯納者ヨリ徵收スル樣規定スルヲ要ス

一　督促ヲナスニハ必督促令狀ヲ以テスル旨規定スルヲ要ス

一　手數料ハ滯納金ト同時ニ徵收スルヤ將タ督促ヲナシタルトキ徵收スルヤ其時期ヲ明記スルヲ要ス

一　督促令狀手數料ハ〔滯納處分費トシテ徵收スルモノニ付〕滯納金トシテ徵收スルノ規定ヲ設クルハ不都合ナリ

一　督促ヲ受ケタル後尙完納セサル者ニ對シ〔國稅滯納處分法〕ニ依リ徵收スルハ其督促ヲ受ケタル日ヨリ幾日內ニ完納セサル場合ニ限ルヤ判然セサルモノアリ其日限ヲ規定スルヲ要ス

一　制第百二條ニ依リ滯納處分ヲナスヘシト規定セルモノヽ如キハ〔國稅滯納處分法〕ニ依リ處分スルノ旨趣ニ規定スルヲ要ス

一　條例中督促ヲナス場合ヲ規定スルニ當リ不完全ノモノアリ此等ハ村（町）稅其他諸收入金ヲ定期內ニ完納セサルモノハ云々ノ旨趣ニ規定スルヲ要ス

一　納期ヲ過キ若干日內ニ完納セサルトキ初メテ督促ヲナスノ制ヲ設クルモノアレトモ是レ暗ニ其日數間延期ヲ許スト同一ノ結果ヲ生スルニ付此ノ如キ猶豫日ヲ置カサルヲ要ス

（十一號消滅）

一　右ノ外〔客年十一月二十二日一甲八二六號通牒及〕本年一月二十七日一甲九一號通牒ニ抵觸セサルヲ要ス

◉市町村稅督促勵行方及同手數料條例規定標準（明治三十五年七月二十四日兵庫縣廳內一（內第八〇號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

市町村稅滯納ノ弊ハ年ヲ逐フテ加ハリ之カ爲メ市町村財政ノ紊亂ヲ釀シ延テ諸般行政ニ影響ヲ及ホスハ掩フ可カラサルノ實況ニ有之要スルニ其督促ヲ緩慢ニ付スルノ結果ニ外ナラスト被存候間此際督促ノ勵行ヲ期（スシムル）ト同時ニ其督促方法ヲ嚴ニシ滯納金納付期間（ノ長キニ過クルモノハ可成）之ヲ短縮シ其督促ニ應セサルモノハ直ニ滯納處分ヲ遂行スル等嚴重措置相成度督促手數料條例ニ就テハ大體左ノ通標準相定メラレ候條爾今進達ニ係ル條例ハ（特別ノ事情ナキ限リハ（可成）右ニ準據（セシメラレシ時機ヲ以テ度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之相當改正候樣致度）依命此段及通牒候也

追テ（從前許可セラレタルモノニシテ本標準ニ適合セサルモノハ漸ヲ以テ改正セシメラレ度尙滯納ノ弊最モ甚シキ市町村ニ於テ）督促手數料拾錢以上ヲ徵收セサレハ容易ニ督促ノ効果ヲ見サルカ如キ場合ニ於テハ或ハ拾錢以上凡ソ貳拾錢迄ハ許可セラルヘキ事モ可有之ト存候間（右等ノモノニ對シテハ費官ヨリ其事由（其際ハ事情……）ヲ詳細（副申相成候樣致度……）（左記標準ハ明治四十年三月十三日一庶秘第八號通牒ニテ自然更正セラレタルモノトス）

◉市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項追加ニ付處理方（抜抄）（明治四十年三月十三日一庶秘第八號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒）

客年七月勅令第百九十號ヲ以テ市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項追加相成候處該勅令ニ規定セル事項ノ處理方ニ關シテハ從前許可セラレタル例ニ照シ御取扱相成可然モ左記ノ事項ハ特ニ御承知ノ上（追テ卷面經由ノ際篤ト御取調ノ上御進達）相成度依命此段及通牒候也

記

一　督促手數料ハ左ノ各項ニ依ラシムルコト

一　督促令狀ハ納期後直ニ發布シ其令狀ニ指定スル期間ハ督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ七日以內トスルコト

一　督促令狀ノ發布ハ一回ニ止メ其手數料金額ハ令狀一通ニ付金拾錢以內ヲ徵收スルヲ得ルコト但特別ノ事情アルモ金貳拾錢ヲ超ユルヲ得サルコト

一　督促令狀ヲ發布スル市町村、組合町村以外ニアル滯納者ニ對シテハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ハ其里程ニ應シ一里每ニ金拾錢以內郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ以テ增手數料トシテ徵收スルヲ得ルコト

五

一　督促手數料ハ滯納金ト同時ニ徵收スルコト

一　一般（町村）（市……）條例ノ施行期日ハ「發布ノ日ヨリ施行ス」又ハ「發布ノ後何日ヲ經テ施行ス」若ハ「明治何年何月何日ヨリ施行ス」ト云フ趣旨ニ規定（セシム（ス……））ルコト但後ノ場合ニ於テハ許可ニ要スル日數ヲ見込ミ定（セシム（ス……））ルコト樣注意

◉市町村條例規定注意方（明治二十三年一月十七日第二二號兵庫縣知事訓令）

內務大臣訓令（二十三年一月七日訓第一號）

市町村ハ其組織ニ要スル事務ノ綱領及市町村ト其住民ノ權義ニ關シテハ市制町村制第十條ニ依リ特ニ條例ヲ規定スルコトヲ得ルモ已ニ許可ヲ稟請シタル條例中法律ニ抵觸スルモノアリ又市町村會ノ議決ヲ以テ施行シ得ヘクシテ條例ノ規定ヲ要セサルモノ又ハ條例トシテ規定スヘカラサルモノ往々之アリ之ヲ要スルニ市町村條例ハ其必要アルニ非スンハ之ヲ設ケ若クハ改廢スヘキモノニ非ラス然ルニ市町村會ニ於テハ往々其設置改廢ヲ容易ニセントスルノ傾向アリ就テハ法律上條例ヲ以テ規定セサルヲ得サルモノヽ外ハ力メテ之ヲ設クルノ煩ヲ避ケシメ其條例ヲ設クルニ方リテハ法律ノ範圍內ニ於テ適實簡明ナラシムル樣精々注意セラルヘシ

右訓令ス

◉市町村條例トシテ規定シ法律上牴觸ノモノ又ハ議決ヲ以テ施行シ得ヘキ事件（抜抄）（明治二十三年一月十七日第二二號訓令添付）

縣治局長通牒　二十三年一月七日縣發第一號

今般訓第一號ヲ以テ市町村條例規定方ニ關スル訓令相成候處訓令中法律ニ牴觸スルモノ又ハ市町村會ノ議決ヲ以テ施行シ得ヘキモノ等ハ條例許否ノ際曾テ書記官ヨリ通牒ノ向モ有之候ヘトモ尚左ニ例ヲ掲ケ入御參考候依テ將來ハ右訓令ノ趣意ニ適合候樣篤ト調査ノ上進達相成度此段及通牒候也

一法律ニ牴觸スルモノ（一項）

夫役ヲ以テ市町村税ニ代納セシムルコト（四號）

◉市町村條例ニ依ラス市町村會ノ議決又ハ市參事會ノ意見ヲ以テ施行シ得ヘキ事件（抜抄）（明治二十七年八月六日一第二五五號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

縣治局長通牒　二十七年七月三十日縣甲第一〇四號

從來市町村ヨリ稟請セル條例中市町村會ノ議決又ハ市參事會ノ意見ヲ以テ施行シ得ヘキ事項ヲ條例トナシ加旃其規定スル所ノ條文ニ於テハ不備不明ヲ免レサルカ爲メニ再三往復ノ手數ヲ重ルモノナキニアラス右ハ元來市町村限リ施行シ得ル事項ニシテ之ヲ條例ニ規定スルト否トハ固ヨリ市町村ノ便宜ニシテ敢テ妨ケナシト雖モ之ヲ一々條例ニ規定シ其許可ヲ請ハシムルトキハ市町村ト監督廳トノ間ニ於テ徒ラニ往復ノ手數ヲ要スルノミナラス夫レカ爲メ事務ヲシテ愈〻煩冗ナラシムルニ至ルノ嫌ナキヲ得ス依テ市町村限リ施行シ得ヘキ左記ノ件ハ自今條例ニ規定セシメサル樣監督上御注意相成度依命此段及通牒候也

但從前ノ訓令通牒等ニシテ本文ニ牴觸スルモノハ渾テ取消サレ候

一　市町村税徴收手續ニ關スル件（二項）

◉市町村條例ノ番號ハ許可上之ヲ認メサル件（明治二十三年一月庶第四七號内務部長ヨリ郡［區］長ニ通牒）

内務書記官通牒　二十三年一月八日縣乙第一六三號

市町村條例ノ儀ハ自今其條例發行ノ節逐次之ヲ付スヘキモノトシ豫メ稟請ノ際條例案ニ番號ヲ要セス若シ條例ニ番號ヲ付スルモノアルモ之ヲ認メラレサルコトニ相成候間此段及通牒候也

◉市町村條例ノ改廢ハ市町村條例トシテ取扱方

内務書記官通牒　明治二十三年四月八日縣乙一六號

市町村條例改正廢止等ノ儀ハ市町村條例ヲ以テ之ヲナスヘキ筈ノ處議決ノミヲ以テ許可稟請候モノヲ其儘進達ノ向不少夫レカ爲御照會等ニ數多ノ日子ヲ要スルニ至リ候條將來議決ノミヲ以テ許可稟請候モノ有之候ハヽ條例ニ改正セシメラレタル上進達相成候樣致度此段及通牒候也

◉町村條例等許可稟請ニ對スル裁令書ト同時ニ訂正發布若ハ報告等ノ通牒ヲ付シタル場合取扱方（明治三十七年一月二十九日兵庫縣廳一治第九號内務部長ヨリ郡長ニ通牒）

町村條例公益法人定欵等許可稟請ニ對シ裁令ト同時ニ訂正ノ上發布スヘキ旨若ハ訂正ノ上報告スヘキ旨等ノ通牒ヲ付シタルモノハ貴廳ニ其裁令書ヲ留置キ先ツ通牒ノ旨趣ヲ指示シ訂正ノ報告ヲ受ケタル後該裁令書ヲ交付候樣御取扱相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之依命此段及通牒候也

◉移民保護法（抜抄）（明治二十九年四月八日法律第七十號）

改正（三四年第二三號、三五年第四號、四〇年第三三號）

第二章　移民取扱人

第五條　本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得

第五章　雜則

第二十條ノ八　金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與スルトキハ其ノ條件ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ九　移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民宿泊所ノ設備、移民ノ給養並宿泊料其ノ他移民ノ負擔トナルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十　移民取扱人ニ非スシテ移民乘船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民乘船ニ關スル周旋ノ方法及移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十一　行政廳ハ前二條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

◉移民保護法施行細則（抜抄）（明治四十年六月八日外務省令第三號）

第二章　移民取扱人

第九條　移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

一　兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方

二　兼營スヘキ業務ト移民トノ關係

三　兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額

四　兼營スヘキ業務經營ノ方法

移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添附スルヲ要ス

第十條　移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受クタル後其ノ業務ノ兼營ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ゲタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五章　雜則

第五十一條　金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與セムトスルトキハ利率償還ノ方法其ノ他契約條件ノ要領ヲ記載シ其ノ所轄地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第五十二條　前條ノ認可ヲ受ケタル金錢貸付業者ハ移民貸付金ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

當該官吏ハ前項帳簿ノ檢査ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ金錢貸付業者ハ其ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條　移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスルモノハ其ノ地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條　移民取扱人ニ非スシテ移民乘船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ移民乘船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條　前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程竝前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金錢貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

◉移民保護法令執行規則（抜抄）
（明治四十年六月二十五日兵庫縣令第三十一號）

第三章　金錢貸付業

第九條　移民貸付金ノ帳簿ハ附錄第一號書式ニ依リ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

前項ノ帳簿ハ所轄警察官署ノ承認ヲ受クルニアラサレハ廢棄スルコトヲ得ス

第四章　移民宿泊業

第十四條　移民保護法施行細則第五十三條ニ依リ提出スヘキ願書ニハ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添付スルヲ要ス

一　商號アルモノハ商號
二　營業ノ場所
三　營業用家屋ノ構造仕樣書及圖面竝ニ每客室ノ坪數定員

第十五條　營業用家屋ノ構造竝ニ營業上必要ナル設備完成シタルトキハ當廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十六條　營業者支店ヲ設ケ又ハ營業用家屋ノ構造ヲ變更セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一　支店ノ設置ハ其位置及家屋構造仕樣書圖面竝ニ每客室ノ坪數定員
二　構造ノ變更ハ構造仕樣書及圖面竝ニ每客室ノ坪數定員

第二十條　營業者左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ノ生シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ届出ヘシ但シ第三號ノ場合ニハ戸主又ハ家族ヨリ届出ヘシ

一　族籍住所氏名又ハ商號ニ異動ヲ生シタルトキ
二　廢業シタルトキ
三　死亡又ハ行衛不明トナリタルトキ

第二十三條　營業者ハ附錄第三號書式ニ依リ移民宿泊人名簿ヲ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ移民着發每ニ各所定ノ事項ヲ記載スヘシ

前項ノ名簿ハ使用ヲ終リタル後滿一箇年間保存スヘシ

第五章　移民乘船周旋業

第二十六條　移民保護法施行細則第五十四條ニ依リ提出スヘキ願書ニハ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添付スルヲ要ス

一　商號アルモノハ商號
二　營業所

第二十七條　營業所ヲ變更シ又ハ支店ヲ設ケタルトキハ速ニ當廳ニ届出ヘシ

第二十八條　本則第十八條第十九條第二十條ノ規定ハ乘船周旋業者ニモ之ヲ準用ス

第三十條　營業者ハ附錄第二號書式ニ依リ移民乘船人名簿ヲ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ乘船ニ關スル周旋ヲ爲シタルトキハ直ニ所定ノ事項ヲ記載スヘシ

前項ノ名簿ハ其ノ使用ヲ終リタル後滿一箇年間保存スヘシ

（附錄書式略）

◉北海道移住民渡航船舶取締規則（抜抄）
（明治三十一年八月十六日内務省令第八號）

第五條　回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄警察署ヘ届出ツヘシ但移住民十名以下ナルトキハ此限ニアラス

一　船名及發航日時
二　移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手數料
三　移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約
四　移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日

◉移民ニアラサル外國渡航者ノ乘船ニ關スル周施業取締規則（抜抄）（明治四十年八月十七日兵庫縣令第三十九號）

第一條　移民ニアラサル外國渡航者ニ對シ乘船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添付シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一　商號アルモノハ商號
二　營業所
三　乘船ニ關スル周旋ノ方法及渡航者ノ負擔ト爲ルヘキ事項

第二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者竝ニ其營業ニ關與スル者ニ對シテハ明治四十年兵庫縣令第三十一號移民保護法令執行規則第五章第六章ノ規定ヲ準用ス

第三條　營業者ノ行爲ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ渡航者ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

◉外國船乘組稼人口入營業取締規則（抜抄）

（明治十八年八月二十日兵庫縣甲第百十八號達）改正（二〇年縣令第一五号三號第二二四號）

神戸〔區〕

第一條　外國船乘組稼人口入營業ヲ爲ス者ハ此警察取締規則ヲ遵守スヘシ

第二條　該營業者ハ神戸港内ニ五名以内トス

第三條　此營業ヲ爲サントスル者ハ二名以上ノ身元保證人ヲ定メ其保證人ノ連印アル書面ヲ以テ神戸警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　營業許可ヲ得タル時ハ直チニ神戸〔區〕役所ニ届出營業鑑札ヲ受ケ其他納税一切ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　該營業者及保證人ハ神戸港内ニ住居ヲ定メ且ツ價金百圓以上ノ不動産ヲ所持スル者ニ限ルヘシ

第六條　許可ヲ得テ開業スル者ハ左ノ雛形ニ依リ（英和對照）招牌ヲ店頭ニ掲クヘシ

Agency for Engaging Japanese Seamen serviceable in the Foreign vessel.

摂津國神戸〔區〕何町何番地
免許　外國船乘組稼人口入營業
氏名

木製
竪二尺三寸
横八寸
但曲尺

第七條　該營業者轉居若クハ廢業シタル時ハ其旨神戸警察署ニ届出ヘシ

◉仲仕業取締規則（抜抄）（明治三十二年六月十日兵庫縣令第二十五號）

第一條　本則ニ於テ仲仕業ト稱スルハ沖仲仕荷揚仲仕（一名艀仲仕）爲仲仕石仲仕車仲仕（一名岡仲仕）石炭仲仕等ノ稼業ヲ爲シ又ハ此等稼業者ノ受負ヲ爲スモノヲ云フ

第二條　各仲仕稼業ノ區分ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船舶ニ於テ爲ス貨物ノ積入積卸積替荷均シハ沖仲仕ノ稼業トス

二　波止場棧橋又ハ陸上ニ於テ爲ス貨物ノ水揚積込倉入倉出荷造ハ荷揚仲仕ノ稼業トス

三　木材類ノ船積水揚筏組河卸運搬ハ爲仲仕ノ稼業トス

四　石炭類ノ船積水揚倉入倉出運搬ハ石炭仲仕ノ稼業トス

五　他人ノ貨物ヲ荷車ニヨリテ運搬スルハ車仲仕ノ稼業トス

六　石材類ノ船積水揚運搬ハ石仲仕ノ稼業トス

沖仲仕及荷揚仲仕ニシテ特ニ貨主又ハ船長ノ需メアルトキハ第一號第二號ノ區分ニ拘ハラス其稼業ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ就業前其旨ヲ警察官吏ニ申告スヘシ

第三條　仲仕受負業ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏名年齢稼業ノ種類ヲ詳記シ組合長連署住所地所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條　仲仕稼業ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏名年齢稼業ノ種類ヲ詳記シ組合長連署住所地所轄警察官署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但受負業者ノ定雇ニ係ル者ハ尚雇主ノ連署ヲ要ス（一項）

第五條　仲仕業者ハ組合ヲ設ケ其組合ニ加入スヘシ但稼業ノ種類又ハ狀況ニ依リ其組合ヲ各別ニ設クルコトヲ得

第六條　組合ハ事務所ヲ設ケ組合長一名組合副長一名又ハ二名ヲ選定シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第八條　組合長ハ左ノ事項ヲ取扱フヘシ

三　組合員ノ名簿ヲ調製シ開廢出入毎ニ加除スルコト（一、二號及四號略）

第十條　左記第一號ノ場合ニ於テハ事實ヲ知リタル日ヨリ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其稼業者ニ係ルモノハ鑑札ノ返納書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但第一號ハ組合長若クハ雇主第二號乃至第四號ハ本人ヨリ届出ツヘキモノトス

一　死亡又ハ失踪シタルトキ

二　廢業シタルトキ

三　改氏名ヲナシタルトキ

四　鑑札ヲ毀損亡失シタルトキ

第十四條　稼業中ハ一定ノ徽章及番號アル被服ヲ着用スヘシ

第十六條　鑑札ハ稼業中之レヲ携帶シ且貸借スヘカラス

第十七條　仲仕業者ニシテ秩序風俗ヲ紊ル行爲アリト認ムルトキハ免許ノ失効ヲ命シ又ハ鑑札ヲ沒收スルコトアルヘシ

附則

第二十二條　本則ハ當分ノ内神戸市ニ限リ施行ス

◉神戸市沿海ニ碇泊スル船舶ニ就キ錆落等ノ稼業者及同受負者取締方（明治三十二年十月五日兵庫縣令第五十六號）

神戸市沿海ニ碇泊スル船舶ニ就キ錆落、ペンキ塗、鑵掃除、船内掃除、ホーコン打等ノ稼業者及此等稼業者ノ受負ヲ爲サントスルモノハ明治三十二年六月十日縣令第二十五號仲仕業取締規則中沖仲仕ニ準シ同則ヲ適用ス

◉屑物營業取締規則（抜抄）（明治三十三年二月十六日兵庫縣令第十二）

第一條　本則ニ於テ屑物營業ト稱スルハ襤褸絲屑紙屑麻屑落綿使用ニ堪ヘサル古敷物類落穀物類其他屑物ノ賣買轉換ヲ營業トスル者ヲ謂フ但絲屑紙屑麻屑ニシテ使用前ニ係リ清潔ナル物ノ賣買轉換ハ本則ニ依ルノ限リニアラス

第二條　前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ但行商人ハ別紙雛形ノ標札ヲ調製シ檢印ヲ受クヘシ

一　族籍住所氏名年齡但法人ニ係ルモノハ其管理人ノ族籍住所氏名及其社名

二　法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署

第三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ免許ヲ與ヘス其既ニ免許シタルモノト雖トモ取消スコトアルヘシ

一　白痴瘋癲者

二　盜罪竝贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者ニシテ改悛ノ情ナシト認ムルモノ

三　住所ノ一定セサルモノ

四　免許ノ取消ヲ受ケタルモノニシテ一ケ年ヲ經過セサルモノ

五　本則ニ違背シ且本則ヲ遵守スル能ハスト認メタルモノ

第四條　左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一　族籍住所氏名又ハ社名ニ異動ヲ生シタルトキ

二　法定代理人保佐人管理人ニ異動ヲ生シタルトキ

三　廢業シタルトキ

第五條　失踪死亡解散シタルトキハ戸主家族後見人又ハ管理人ニ於テ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條　營業者ハ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但行商人ハ組合ニ加入スルノ限リニアラス

第七條　組合ハ正副取締人ヲ置キ事務所ヲ定メ消毒及取扱方法其他必要ノ事項ニ關スル規約ヲ設ケ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更セントスルトキ亦同シ

第八條　組合ハ屑物取扱所ヲ設ケ其構内ニ選分所消毒所貯藏所浴所ヲ設置スヘシ

取扱所ヲ設置セントスルトキハ地名坪數及構造仕樣書周圍三十間以内ノ見取圖ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其改造又ハ變更セントスルトキ亦同シ

前項ノ工事落成シタルトキハ本廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査濟ノ後ニアラサレハ使用スルヲ得ス

第九條　特ニ本廳ノ認可ヲ得テ前條ノ設備ヲ爲シタルモノハ第六條ノ組合ニ加入セサルコトヲ得

第十條　取扱所又ハ貯藏所ニシテ衛生上若クハ保安上必要ト認メタルトキハ改修又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　取扱所ハ土地ノ狀況ニ依リ其數ヲ制限スルコトアルヘシ

第十八條　行商人ハ行商中第二條ノ標札ヲ携帶スヘシ標札ハ他人ニ行使セシムルコトヲ得ス

附　則

第二十二條　本則ハ當分ノ内神戸市ニ施行ス

行商人標札雛形

表面

何第　號

屑物行商

住所

氏名

年齡

三寸五分　二寸五分

裏面

明治　年　月　日

兵庫縣何警察署

◉畜犬取締規則（抜抄）（明治三十八年五月二十五日兵庫縣令第二十二號）

改正（三八年第四三號）

第一條　畜犬ニハ飼主ノ住所氏名ヲ記シタル頸輪又ハ金屬製ノ札ヲ見易キ樣頸部ニ付シ置クヘシ之ヲ付セサルモノハ總テ野犬ト看做ス

第四條　狂犬病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ飼主ニ於テ畜犬ヲ鎖ニテ繫キ置クヘシ但口網ヲ箝メタルモノハ此限リニアラス

前項ノ取扱ヲ爲サヽル犬ハ總テ野犬ト看做ス

第五條　前條適用ノ時期及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

◉保税倉庫法施行細則（抜抄）（明治三十年六月二十三日大藏省令第九號）改正（三二年第三三號、四〇年第二二號）

第三章　私設保税倉庫營業ノ特許及庫主ノ責務

第二十四條　保税倉庫法ニ依リ保税倉庫ノ業ヲ營マントスル者ハ其倉庫ノ位置、構造、棟數、坪數、藏置スヘキ貨物ノ種類、營業年限ヲ記シタル書面及倉庫竝附近ノ圖面ヲ添ヘ其倉庫ヲ設立セントスル地ノ管轄地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ出願スヘシ但會社又ハ外國會社ノ支店ニ在テハ別ニ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

第三十條　私設保税倉庫ヲ改築シ又ハ構造ヲ變更シ若クハ之ヲ增設シ又ハ減少セントスルトキハ庫主ハ税關又ハ税關支署ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

第三十一條　私設保税倉庫營業ノ特許ヲ得タル者ハ其開業前ニ又倉庫ノ改築、構造變更若クハ增減ノ認許ヲ得タル者ハ工事落成ノトキ税關又ハ税關支署ニ申出テ其倉庫ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十二條　私設保税倉庫ノ修繕又ハ造作ノ變更ヲ爲サントスルトキハ庫主ハ税關又ハ税關支署ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

◉長屋裏屋建築規則（明治十九年八月二十一日兵庫縣令第十五號）

改正（二〇年第一七〇號、二二年第八二號、二三年第五〇號）

第一條　神戸市内ニ於テ長屋裏屋ヲ建築スルモノハ此規則ヲ遵守スヘシ但長屋建ニアラサル表家ト雖建坪五坪未滿ノモノ亦同シ

第二條　長屋ト稱スルハ一棟内ニ二戸以上ヲ設クル家屋ヲ云ヒ裏屋ト稱スルハ公道ニ臨マス地内ニ設クル家屋ヲ云フ但此規則ノ管セサル本家ノ構内ニ設クル附屬家離家ハ例外トス

第三條　家屋ヲ新築改造シ其他以下各條ニ制限スル部分ニ工事ヲ加ヘントスル者ハ其着手ノ五日前迄ニ届書二通ニ地所竝ニ家屋ノ圖面ヲ添ヘ所轄神戸市役所ヘ差出シ認可ヲ受クヘシ

第四條　工事落成ノトキハ更ニ所轄神戸市役所ヘ届出検査ヲ受ケ其認可ヲ得タル後ニアラサレハ使用スルヲ許サス

第五條　第二條ノ届出後十四日内ニ若シ可否ノ沙汰アラサルトキハ認可ヲ受クルモノト看做ヲ得ヘシ

第六條　裏屋アル地内ニハ二方公道ヘ通スル幅員六尺以上ノ路次ヲ設クヘシ但地坪及戸數等ノ狀況ニヨリ其幅員ヲ増加セシムルコトアルヘシ

第七條　路次敷内ニ軒樋出窓露椽等ヲ出シ又ハ井戸下水類ヲ作ルヘカラス但軒樋ハ一尺五寸以内ニシテ雨樋ヲ設クルモノ下水ハ堅牢ノ蓋ヲ爲スモノニ限リ特ニ認可スルコトアルヘシ

第八條　長屋ハ棟割造リニ爲スヲ得ス又一戸ノ割合三坪ニ下ルヘカラス

第九條　家屋ハ充分ニ光線ヲ取リ且ツ空氣ヲ流通セシムルノ構造ニ爲スヘシ

第十條　各戸其道路ニ沿ハサル一方ニ於テ他ノ建造物ヨリ六尺以上ノ距離アル空地ヲ存スヘシ

第十一條　家根ハ瓦石金屬等不燃質物ヲ以テ之ヲ葺修スヘシ

第十二條　家屋ノ周壁及ヒ戸別壁ハ地盤ヨリ家根裏ニ達スル迄土塗ニ爲スカ又ハ間隙ナキ厚板張ニ爲スヘシ

第十三條　牀ノ高サハ地盤ヨリ一尺五寸以上天井又ハ屋根裏ノ高サハ牀ヨリ七尺以上タルヘシ

第十四條　各戸ニ廢水竝ニ雨水ヲ中溝又ハ大溝ニ排出スヘキ下水ヲ造設スヘシ

第十五條　井戸ハ毎三戸乃至五戸ニ厠圊ハ毎二戸ニ芥溜ハ毎五戸ニ各一個ヲ取設クヘシ但地質又ハ土地ノ都合ニ依リ特ニ認可ヲ受ケ其數ヲ減スルヲ得

第十六條　井戸厠圊下水芥溜ノ構造方ハ別段定ムル所ノ規則ニ從フヘシ

第十七條　家屋等ノ構造方ハ此規則又ハ別段ノ規則ニ適セス或ハ危險ト認ムルトキハ期日ヲ定メ改造又ハ取毀ヲ命シ若クハ使用ヲ禁止スヘシ

第十八條　本則第三條第四條第六條乃至第十五條ニ違背シタルモノハ（違警罪）ノ罰ニ處セラルヘシ

附則

一　本則第十四條第十五條第十六條ハ從前建設ノモノニモ亦適用ス

一　神戸市内葺合村ノ内新生田川以東鐵道線以北ハ當分ノ内本則ヲ適用セス

◉石油貯藏制限（抜抄）（明治二十二年十二月十九日兵庫縣令第百四十六號）

神戸市内ニ於テ石油ヲ貯藏スルモノハ左ノ制限ニ據ルヘシ（以下略）

一　石油貯藏庫ヲ建設セントスルトキハ現地及隣地ノ略圖竝構造方法書ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

三　石油貯藏庫ノ周圍ニハ高サ八尺以上ノ防火塀ヲ設ケ其人口ニ石油貯藏庫ト記シタル標札ヲ掲クヘシ（但書略）

◉倉庫取締規則（明治三十九年三月十五日兵庫縣令第七號）

第一條　本則ニ於テ倉庫ト稱スルハ倉庫業者、回漕業者、運送業者、荷粉屑物營業者、問屋業者及工場、製造所ニ屬スル倉庫ヲ云フ

第二條　倉庫ヲ新設セントスルモノハ左記事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シテ本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其改築變更セントスルトキ亦同シ

一　位置

二　收藏物品ノ種類

三　構造

四　下水溝渠ノ構造

五　敷地及周圍六十間以内ノ略圖

六　工事着手及落成期日

第三條　倉庫ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ

一　石、煉瓦又ハ土藏造トナスコト

二　礎下ハ地盤ヨリ深サ一尺五寸以上石、煉瓦「コンクリート」ノ類ヲ以テ築造スルコト

三　地盤ハ石、煉瓦「コンクリート」ノ類ヲ以テ築造スルカ又ハ厚板（一寸板以上）張トナスコト

四　土藏造ハ其側壁外面ヲ地盤ヨリ高サ三尺以上石又ハ煉瓦ニテ築造スルコト

五　戸扉ハ金屬板又ハ金屬板張トナシ密閉シ得ル樣構造スルコト

六　窓及其他ノ孔口ニハ鼠族ノ出入ヲ防クニ足ルヘキ金網ヲ被フコト

七　倉庫ニ沿ヒタル下水溝渠ハ石、煉瓦「コンクリート」又ハ土管ヲ以テ構造スルコト

第四條　既設ノ倉庫ニシテ引續キ使用セントスルモノハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一號乃至第五號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シテ本廳ニ届出ヘシ其改築又ハ變更ノ場合ハ第二條ノ規定ヲ適用ス

第五條　既設ノ倉庫ニシテ第三條ニ適合セサルモノハ

本則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ改築スヘシ
前項ノ期間内ト雖特ニ必要アリト認ムルモノニ對シテハ一定ノ期間ヲ定メ第三條ニ據リ修理又ハ改築ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヘ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第七條　左ノ場合ニハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シテ本廳ニ届出ヘシ但第二號ノ場合ハ双方連署スヘシ
一　廢業シタルトキ
二　所有者變更シタルトキ

第八條　納屋又ハ第一條以外ノ營業者ニ屬スル倉庫ト雖モ必要ト認ムル場合ハ特ニ命シテ本則ニ據ラシムルコトアルヘシ

第九條　左ニ掲クルモノハ科料又ハ拘留ニ處ス
一　第二條第四條第五條第一號第六條第七條ニ違背シタル者
二　第五條第二號又ハ第八條ノ命令ニ從ハサル者

第十條　本則ニ違背シタルトキハ倉庫ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

附　則

第十一條　本則ハ神戸市ニ之レヲ適用ス

◉地方税制限ニ關スル制（第二輯第一章ニ收ム）

◉附加税制限外課税及特別税新設變更ニ關スル許可稟請取扱例（明治二十二年二月訓令第八五號兵庫縣知事訓令）

内務大藏兩大臣訓令　二十二年一月二十八日訓第三八號

市町村税ハ成ル可ク從來ノ區町村費課目ヲ存シ當分ノ内ハ別ニ新税ヲ起サヽルヲ要スル儀ハ明治二十一年訓第三八七號ヲ以テ訓令及ヒタル通ニ有之間接國税ニ附加税ヲ賦課シ若クハ地租〔七分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過〕ヒル附加税ヲ賦課シ若クハ特別税ヲ新設變更スルカ如キハ市町村ノ財政上必要アル場合ノ外ハ勉メテ之ヲ避ク可キハ勿論ナル處往々之カ許可ヲ稟請スルモノアリ畢竟客歳中天災地變ノ爲メ臨時費ヲ要スル等不得止事實ニ由ルモノ居多ナリト雖モ抑市制第百二十三條町村制第百二十六條ノ規定アルハ市町村財政ノ處分ハ國ノ利害ニ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ許否スルニ方テハ精密ノ調査ヲ要スルニ付自今特別税ヲ新設又ハ變更シ若クハ地租〔七分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過〕スル附加税ヲ賦課シ及間接國税ニ附加税ヲ賦課スル稟請ニ付テハ賦課ノ適否負擔ノ如何等詳細意見ヲ具シ尚調査ノ參照トシテ左掲ノ書類ヲ添付進達スヘキ儀ト心得ラルヘシ

右訓令ス

（添付書類ハ明治三十六年六月六日兵庫縣知事訓令第五五號ヲ以テ改正ニ付略）

◉町村内一部一區ノ費用ハ町村税ト同一ノ取扱方

愛媛縣伺　明治二十三年三月八日

町村内ノ一部一區又ハ一部ニ於テ負擔スル費用ハ其區會ノ決議ニ係ルモノト雖其關係者ノ協同支辨ニ屬スル費用ナルヲ以テ町村税ト同ク地租〔七分一〕等ノ制限ニ據リ又ハ怠納處分ヲ施スヲ得サル義ニ候哉

内務省指令　同年八月十五日

町村内ノ一區又ハ一部ニ於テ負擔スル費用ノ賦課徵收ノ方法制限ハ渾テ町村税同樣心得ヘシ

◉町村内ノ區費ハ一般町村税ニ併算課税制限定メ方

長野縣照會　明治二十三年七月十二日

町村制第百十四條ニ依リ町村内ノ區又ハ一部ニシテ別ニ區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産若クハ營造物ヲ所有シ其區限リ其費用ヲ負擔スル場合ニ於テ之レカ費用ヲ賦課スルニ當テハ更ニ地租〔七分一〕以内ノ附加税ヲ賦課スルヲ得ヘキ義ニ可有之乎將タ町村税ト區費トヲ併セテ制限ニ超過スルヲ得サル義ニ可有之乎

縣治局長回答　同年七月二十一日

町村内或一部ニ限リ要スル費用モ亦町村税ニ外ナラサルニ付該費ヲ一般町村税ニ併算シテ地租〔七分一〕ノ制限ニ超過スル場合ニ在リテハ其部分ニ限リ制限超過ノ裁可ヲ受クヘキ義ニ有之候

◉地租制限外課税及特別税新設等許可稟請ノ時期（明治二十三年七月五日兵庫縣訓令第七十一號）

郡長　市長　町村長

地租制限超過ノ課税及特別税新設等ノ許可ヲ乞フハ其年度以前ニ在ルカ又ハ其年度内ニ於テ實際收支シ得ヘキ見込アル場合ニ在ルヘキハ勿論ニ候處今以テ二十二年度分ノ稟請書差出候モノ有之新制度施行創始ノ際不得已義ニ付特ニ進達シ來リ候得共已ニ決算結了スヘキ今日ニ及ンテ猶稟請書進達候樣ニテハ遂ニ決算ニ差支ヲ生スヘキニ付深ク注意ヲ加ヘ將來ハ可成前年度若クハ其年度ノ始メニ於テ稟請スヘシ

◉地租制限外課税及特別税新設ニ關スル許可稟請書提出方（明治二十四年一月十七日兵庫縣訓令第五號）

市長　町村長

市町村税地租〔七分一〕以上ノ課税及特別税新設ニ關スル許可ノ稟請ハ其年度内ニ於テ收支シ得ヘキ時日ヲ見込ミ可差出筈ニ候處往々遲延ニ渉リ甚シキハ年度經過後ニ至リ候モノ有之不都合尠カラス候條自今右樣ノ義無之樣注意スヘシ

◉地租制限外課税又ハ特別税賦課ノ許可稟請書ニ議決セシ會議名記載方（明治二十五年十月十四日縣發第一二六號縣治局長通牒）

從來市制第百二十二條町村制第百二十六條ニ依リ地租制限超過又ハ特別税等賦課徵收稟請ノ節往々何會ノ議決ニ係ルモノナルヤ不判明ノモノ有之處理上差支不尠

候條以後御進達ノ節ハ右區分御明記相成候樣致度此段御注意迄申進候也

◉地租制限外課税及特別税新設等ノ許可稟、請方（明治二十六年四月四日一甲第五五二號内務部長ヨリ郡長ニ通達）

地租制限超過ノ課税及特別税新設等ノ許可ヲ請フモノハ前年度若クハ其年度ノ始メニ於テ進達可致旨明治二十三年七月訓令第七十一號ヲ以テ訓令ノ次第モ有之候處其年度ニ於テ徴收スヘキモノヲ年度末ニ至リ稟請スルモノ往々有之不都合不尠候條自今町村制第百七條ニ依リ調製シタル豫算表ニシテ町村制第百二十六條ニ依リ許可ヲ請フモノハ豫算議決後速ニ稟請候樣注意相成度依命此段及通達候也

追テ災害其他豫知スヘカラサル場合ニ於テ臨時收支ヲ要スルトキハ時日ヲ遷サス追加豫算ヲ議決シ稟請スヘキ義ニ有之候條此段申添候也

◉市町村附加税制限外課税及特別税新設變更許可稟請書ニ添付スヘキ參照書類改正（明治二十六年六月六日訓令第五五五號）改正（三二年訓第一、五六四號）

郡長　市長

市町村ニ於テ地租制限外其他直接國税〔百分ノ五十〕ヲ超過スル附加税又ハ直接國税ノ附加税ヲ賦課シ若クハ特別税ヲ新設變更スル市町村會議決ノ許可稟請方ニ關シ明治二十二年二月訓令第八五號ヲ以テ訓令及置候處今般右稟請ニ添付スル參照書類ノ義別紙之通改正候條自今右ニ準シ調製添付セシメラルヘシ尤モ市町村其他ノ歳入出豫算表ハ別ニ添付ヲ要セサル義ニ付將來豫算表中不都合之廉無之樣厚ク注意セラルヘシ

一　市町村歳入一覽表　　別紙第一號表式ニ準ス

一　同歳出一覽表　　別紙第二號表式ニ準ス

但此歳出一覽表ハ地租制限外其他直接國税〔百分ノ五十〕ヲ超過スル附加税又ハ特別税若クハ間接國税附加税ヲ賦課ヲ議決シタル豫算ノ歳出ヲ掲クヘシ若シ其豫算二種以上ニ渉ルモノハ格別ニ調製スヘシ

一　地租制限外其他直接國税〔百分ノ五十〕ヲ超過スル附加税又ハ特別税若クハ間接國税附加税賦課ニ關スル市町村會議決書及其理由書地租制限外課税ニ關スル議決書ハ別紙第三號書式ニ準ス

但地租以外直接國税制限外課税及間接國税附加税賦課ニ關スル議決書ハ地租制限外課税ニ關スル議決書々式ノ例ニ依ルヘシ又特別税ニ關スル議決書ニハ其議決ヲ爲シタル會議名、税目、課税物件、課率、賦課年度及其費途等ヲ示スヘシ若シ其費途ニシテ經常臨時ノ兩費アルトキハ右課率及賦課年度ハ之ヲ區分スヘシ又右特別税ニシテ增額又ハ變更ニ係ルモノナルトキハ其旨ヲモ示スヘシ

一　町村組合町村學校組合二十二年法律第十一號ニ依リ存續シタル會議ニ係ルモノハ前各項ニ準シ調製スヘシ

第一號表

某府縣某郡（市）町村明治何年度歳入一覽表

△第一例

△ハ印朱書

費途		附加税				特別税				其他ノ收入	計
		地價割	戸別割	家屋割	營業割	何々税	段別割	△存置 何々税			
市町村	經常費	円 0,000	円 0,000		円 0,000		円 0,000	円 0,000		円 0,000	円 0,000
市町村	臨時費										
△何町村外何ケ町村組合	經常費										
△同	臨時費										
△本村何區何々	經常費										
△同	臨時費										
△何水利土功會	經常費										
△同	臨時費										
△何町村外何ケ町村聯合會	經常費										
△同	臨時費										
△何	々										
△何	々										
合計											

甲號） 地租地價百分ノ二箇半 金若干 經常費課率金 若干 內許可濟課率金若干 臨時費課率金 若干 內許可濟課率金若干 內裏請中課率金若干 臨時費課率金 若干 （乙號） 今回議決ノ分 地租地價百分ノ二ヶ半 金若干 經常費課率金 若干 內許可濟課率金若干 內裏請中課率金若干 △從前議決ノ分	戸數幾戸平均一戸ニ付金若干 又ハ總坪數幾個平均幾坪ニ付金若干	〔地方税〕金若干 此何分 本税壹圓ニ付 金若干	本税金若干 此何分 本税壹圓ニ付 金若干 〔但直接國税ノ附加税ハ地價割ノ例ニ依リ超過剩餘チ揭クルモノトス〕	何段別何町歩 一段歩ニ付若干 地租若干 壹圓ニ付若干 但不均一ノ税率ナルモノハ其税率ニ依リ內譯チ揭クルモ上欄ノ各課ノ同例トス

△地租地價百分ノ二ヶ半金若干
△經常費課率金若干
△內許可濟課率金若干
內裏請中課率金若干
△臨時費課率金若干
△內許可濟課率金若干
內裏請中課率金若干

凡例

一　課算ノ議決二回以上ニ渉リタルトキハ今回議決ニ係ル分チ要書シ從前議決ニ係ル分チ朱書スヘシ

一　其他ノ收入ノ欄ニハ課税外一切ノ收入即チ雜收入使用料手數料國庫及地方税交付金財産ヨリ生スル收入等チ合計シテ記入スヘシ

一　特別税中市制第百二十二條町村制第百二十六條ニ依リ許可チ要セスシテ從前ノ儘存置シタルモノハ特別税ノ欄特別税目ノ肩書ニ存置ノ二字チ標記スヘシ

第一號表

某府縣某郡（市）某町（村）明治何年度歳入一覽表

△（第二例）

一　地價割ノ附記ハ第一回議決ノトキハ甲號書式ニ依リ第二回以後議決ノトキハ乙號書式ニ依ルヘシ但從前ノ議決二回以上ニ渉リタル場合ニ於テ前後地租額チ異ニスルトキハ乙號書式中從前議決ノ分ハ各別ニ列記スヘシ

一　地租以外ノ直接國税又ハ間接國税ノ附加税ノ附記ハ地價割ノ例ニ依ルヘシ

一　市町村內ノ各部賦課ノ税率チ異ニシ又ハ各費目ニ付負擔ノ區域チ異ニスルトキハ歳入一覽表ハ第二例ニ依リ各費目ニ付負擔ノ同シキ區域毎ニ調製スヘシ

費途	附加税 地價割	附加税 家戸割 屋敷割	附加税 營業割	附加税 何々税	特別税 段別割	特別税 田地價割	收其他入ノ	計
何區經常費 △本町村經常費 △同臨時費 計								
	(第一例ニ同シ)	(同上)	(同上)	(同上)	(同上)	田地價若干 固定營り若干		
何區經常費 △本町村經常費 計								
	同	同	同	同	同	同		
何區經常費 △本町村經常費 計								
	同	同	同	同	同	同		
合計								

第二號表

某府某郡(市)某村町
明治何年度何費歳出表

科目	金額	摘要
役(所)費	〇円〇〇〇	給料、雜給、需用費、常時修繕費、通信運搬費、消耗品費
會議費		議員實費弁償額、書記給料、印刷料、筆工料、消耗品費、雇給、通信費
土木費		道路、橋梁、堤防、用悪水路、煙管水門各修繕費
教育費		教員給料、同恩給基金、備品費、消耗品費、修繕費
衛生費		種痘費、傳染病豫防費
救助費		貧民施療費、貧民救助費
警備費		消防費、水防費
勧業費		勧業費、害虫驅除費
公債費		某年度起債ノ内本年度償還元利金

諸税及賦擔	地租、地租割、何用水々利土功費賦擔、各町村組合費賦擔
雜支出	火災保險料、山番給、墓地費
豫備費	豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツヘキ分
計	

第三號書式

某府(縣)某市(某市某區某郡某町(村)會議決書

本市(町、村、區、本市(町村)某區)費支辨ノ爲メ左ノ課率ヲ以テ(左ノ課率ノ範圍內ニ於テ別ニ議決ノ上)地價割ヲ賦課(追加賦課)スルモノトス

一　經常費ニ充用スル地價割課率地租地價百分ノ二箇半

金壹圓ニ付金若干(金若干以內)

但明治何年度分(自明治何年度至同何年度分)

一　臨時費ニ充用スル地價割課率地租地價百分ノ二箇半

金壹圓ニ付金若干(金若干以內)

但明治何年度分(自明治何年度至同何年度分)

凡例

一　課率ハ壓位以下愈位ニ止マラサルトキハ四捨五入ノ法ヲ以テ愈位ニ止ムヘシ又法定制限內外、許可濟今回稟請等ノ區分ハ之ヲ要セサルモノトス

◉明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(明治二十六年八月十日一甲第三四五號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

本年六月訓令第五五五號ニ係ル市町村稅地租制限外賦課等ノ稟申書ニ添付スヘキ參照書類之儀ハ歲入出一覽表幷ニ理由書ノ外別ニ市町村會議決書ナルモノヽ、添付ヲ要スル儀ニ候(得共右ノ內地租制限超過課稅ノ場合ニ限リ別段議決書ヲ添付セス稟請書中ニ課率金額ヲ詳記シ且之ニ理由書及一覽表等ヲ添付差出候テ差支無之趣)其筋通牒之次第モ有之候條爲御心得此段及通牒候也

◉明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(明治二十六年八月二十三日一甲第四〇二號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

本年六月訓令第五五五號ニ依リ市町村稅地租制限外賦課等ノ稟請書ニ添付スヘキ參照書類之儀ハ左之通御心得相成度

一　(削滅)

二　(消滅)

三　(第一表經常費臨時費ヲ區別掲記スルハ最初經常費ノミノ豫算ヲ議決シ後臨時費ノ追加豫算ヲナシタルカ如キ場合ニシテ通常ノ場合ニ於テハ費途ノ欄內ハ本市(町村)經常及臨時費トシ殊更分別スルニ及ハス)

四　同表朱字組合費ハ組合ニ於テ直ニ各個人ニ賦課徵收スル場合ヲ示シタルモノニシテ本町村ノ豫算中負擔ノ內ニ編入シタルモノハ墨字經常費或ハ臨時費ノ內ニ包含シ分別スルニ及ハス

五　(消滅)

六　第二表ノ摘要ハ歲出豫算ノ目ヲ標準トシ記入然ルヘシ

◉明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(明治二十六年八月二十四日一甲第四〇八號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

本年六月第五五五號訓令ニ關スル事項左之通御心得相成度候

一　一町村內ノ區會ニ於テ決議セルカ爲メ地租制限超過等稟請ヲ要スヘキ事實ヲ生シタルトキ各區課率ノ同シキモノハ第一表第一例ニ依リ課率ノ異ナルモノハ同表第二例ニ依リ調製スヘキモノトス

二　第一表第二例表式中本町村經常費同臨時費等ハ其區ニ賦課スヘキ高ヲ分記シ「其他ノ收入」ノ如キ各區ニ分記シ能ハサルモノハ本町村ノ全額ヲ揭ケ其分記シ能ハサル旨ヲ附記スヘキモノトス

三　第二表歲出ハ歲入一覽表中墨書ニ對スルモノヽミ記載スルモノトス

◉五ケ年度以內ノ年限ヲ以テ地租制限外課稅許可稟請方(明治二十六年十月三十一日一甲第七二一號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

郡長　市長

市町村ニ於テ徵收スル地租制限外課稅ノ件從前ハ每年度稟請セシメ來リ候處斯クテハ徒ラニ煩雜ノ手數ヲ要シ候次第ニ付自今ハ五ケ年度以內ノ年限ヲ以テ制限超過步合ノ範圍ヲ定メ稟請スルモ妨ナキコトニ決定相成候間爾後地租制限外ノ附加稅ヲ徵收セントスルトキハ右ノ主意ニ依リ稟請セシメ且右稟請中經常費及臨時費ノ二種アルトキハ各別ニ地租額ニ對スル步合ヲ明記シ又年限ノ如キモ各別ニ稟請スル樣御取計相成度但許可年限內ト雖萬一無用ノ費途ニ支出スルノ決議ヲ爲シ公益ニ害アリト認ムルトキハ市制第六十四條町村制第六十八條ニ依リ處分スヘキハ勿論ノ義ニ可有之旨內務大藏兩書記官ヨリ通牒有之候ニ付爲御心得此段及通牒候也

◉基本財產蓄積ノ爲地租制限外課稅又ハ特別稅新設ノ許可稟請取扱方(明治二十七年七月二十五日訓第五九五號兵庫縣知事訓令)

町村(市)ノ費用ハ財產ヨリ生スル收入ヲ以テ之ニ充テ猶足ラサル場合ニ於テ初メテ課稅ニ依ルヘキモノナルニ從來町村(市)費ノ支出ヲ見ルニ課稅ニ依ラサルモノナキハ畢竟町村(市)制實施ノ日尙ホ淺ク財政ノ整理未タ充分ナラサルト一ハ經費多端ノ折柄未タ財產ヲ蓄積スルノ餘裕ナキニ由ルモノニシテ亦止ムヲ得サル所ナルヘシト雖モ將來基本財產ヲ蓄積シ其資力ヲ養成スルニアラサレハ一旦非常ノ災害ニ遭遇スルカ如キ場合ニ於テハ忽チ

其負擔ニ堪ユル能ハサルニ至ルヘキヲ以テ爾後一層其蓄積ヲ奬勵（スルコトヲ）ニ……力ムヘシ然レトモ唯蓄積ヲ旨トシテ經濟ノ如何ヲ顧ミサルトキハ爲メニ住民ノ負擔ヲ重カラシメ延テ國庫ノ稅源ニ影響ヲ及ホシ却テ制度ノ本旨ニ副ハサルニ至ルヘキヲ以テ之ヲ（奬勵蓄積）スルト同時ニ又大ニ愼重ヲ加ヘサル可カラス現今（町村市）ノ事業ハ概子課稅ヲ以テ其費用ヲ支辨スルカ故ニ基本財產ヲ蓄積セントスルモ亦課稅ニ依ルノ外途ナカルヘシ故ニ臨時ノ收入ハ勿論前年度ノ剩餘金竝ニ普通ノ課稅ヲ以テ蓄積スルノ餘裕アルトキハ務メテ之ヲ蓄積（セシム）スヘシト雖モ地租ノ制限ヲ超過シ又ハ特別稅ヲ新設スル場合ニ併セテ其幾分ヲ蓄積セントスルトキハ其金錢ノ多寡ハ（町村市）ノ經濟ニ適準（セシム）スヘキハ勿論ニシテ（若シ地租ノ附加稅ヲ賦課セントスル場合ニ於テハ法定ノ制限ニ更ニ地租ノ七分ノ二ヲ超過スルヲ限度トシ）土地ニ關スル特別稅ハ地租ノ附加稅ニ於ケル限度ノ額ト同一ニ達スルヲ極度トナシ其他ノ特別稅ヲ新設スルトキハ（町村市）經濟ノ狀況ヲ精覈調査シ（副申セラルヘシ上申スヘシ）

但町村內常ニ紛擾ヲ極メ將來圓滑ノ施治ヲ望ム可カラスシテ動モスレハ分離ノ處分ヲ求メントスルカ如キ場合ニ向テ基本財產ノ蓄積ヲ奬勵スルトキハ却テ紛議ヲ增スノ恐レナキ能ハサルヲ以テ奬勵ヲ加フル際特ニ注意スヘシ（市ハ但書ヲ省ク）

右訓令ス

◉特別稅條例又ハ議決ノ許可ヲ受ケタル後同稅目ニ於テ別途課稅ノ場合取扱方

（明治二十七年八月二十一日一第二七五七號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

縣治主稅兩局長通牒　二十七年八月十六日縣乙第二三九號

市町村特別稅條例又ハ議決ノ許可ヲ受ケタル後同稅目ニ於テ別途ニ課稅ヲ要スルモノハ左ノ區分ニ依リ稟請セシメラレ度尤モ條例及議決書ニハ例ヘハ山林原野ノ稅率ハ田畑宅地稅率ノ十分ノ一ヲ超過スルヲ得スト云フ如キ若クハ每年ノ徵收額ハ許可濟ノ稅率以內ニ於テ各地目均一ニ賦課スヘキ趣旨ヲ規定セシムル方可然ト存候爲念此段及通牒候也

特別稅增額ノ例

一　許可濟ノ田畑宅地山林原野反別割賦課ノ區域內ニ於テ各地目又ハ幾地目ニ對シ反別割ヲ增額スルノ類

特別稅變更ノ例

一　許可濟ノ反別割賦課區域外ニ於テ更ニ反別割ヲ賦課スルノ類

一　許可濟ノ田畑宅地反別割ノ外更ニ山林原野ノ反別割ヲ賦課スルノ類

一　許可濟ノ田畑宅地山林原野反別割ノ內幾地目ノミヲ減額シ又ハ各地目步合ヲ異ニシ減額スルノ類

一　許可濟ノ田反別割ヲ變シテ田地價割トナスノ類

◉學校基本財產蓄積ノ爲地租制限外課稅又ハ特別稅新設ヲ要スルトキ許可稟請方

（明治二十九年十月十三日一第五三八六號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年法律第八十一號ヲ以テ地方學事通則改正相成候ニ付テハ自今學校基本財產蓄積ニ關シ市町村ニ於テ地租制限外課稅又ハ特別稅ノ新設ヲ要スル場合ニ於テハ明治二十七年七月二十五日訓第五九五號訓令ノ旨趣ニ依準シ御取扱相成度依命此段及通牒候也

◉郡制市町村制ノ規定ニ依リ內務大臣ニ稟請スヘキモノニシテ敎育ニ關スルモノハ內務文部兩大臣ニ提出方

（明治二十九年十月六日內訓第一八號）

郡市長

郡制市制町村制ノ規定ニ依リ內務大臣ヘ稟請スヘキモノニシテ敎育ニ關スルモノハ地方學事通則第十二條ニ依リ內務文部兩大臣ニ宛進達スヘシ

◉郡市町村制ニ基キ敎育事務ニ關スル稟請書內務文部兩大臣宛ノモノノ區分

（明治二十九年十二月九日一第六三三八號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

郡市町村制ニ基キ敎育事務ニ關スル稟請書ハ文部內務兩大臣宛進達セラルヘキ旨本年十月六日付內訓第一八號ヲ以テ內訓相成居候處今般別紙ノ通リ某縣問合ニ對シ回答相成候旨文部省專門普通兩學務局長ヨリ通牒有之候ニ付御承知置相成度此段及通牒候他

某縣問合

去月二十九日付申普甲第七九九號ヲ以テ府縣郡市町村制ニ基キ敎育事務ニ付主務大臣ノ許可ヲ得ヘキ事件稟請方文部內務兩大臣ヨリ內訓相成候處本縣從來ノ事實ニ於テハ地方學事通則第十二條ニ基キ文部大臣連署ヲ以テ稟請致來候モノハ學務委員條例許可稟請ノミニシテ學校新築ノ爲メ起債若クハ制限超過ノ課稅許可稟請ノ如キハ文部大臣連署稟請ノ例ニ無之然ルニ今般特ニ御內訓有之ニ於テハ右事實ノ如キ又ハ學校組合事務ニシテ許可ヲ要スル件ノ如キ直接トヲ不問苟モ敎育事務ニ關聯セシモノハ將來悉ク文部大臣連署ナサシムル義ニ候哉該程度不明ノ爲メ下級廳ニ指示方差支候間至急御省議承知致度及御問合候也

右回答

本月十六日付發一第一三五號ヲ以テ府縣郡市町村制ニ基キ敎育事務ニ付稟請方文部內務兩大臣內訓ニ關シ御問合ノ趣了承右ハ御見解ノ通リニ有之候經伺ノ上此段及回答候也

◉地租制限外課稅許可稟請ニシテ地方學事通則第十二條ニ關係ヲ有スル場合

（明治三十三年五月二十一日一甲第八九七號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

地租制限外課稅ニ關スル許可ノ件ニ付地方學事通則第十二條ニ關係ヲ有スルハ敎育ニ要スル經常費追加及臨時費ヲ支辨スル場合ニ限ル義ニ有之候旨其筋ヨリ通牒

有之候ニ付此段及移牒候也

◉市町村附加税制限外課税又ハ特別税新設變更ノ許可稟請ノ場合土地ニ課スルモノハ地益調添付方（明治三十二年五月二十二日一第二四一七號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

地方主税理財三局長通牒　三十二年五月十一日坤第四五一三號

從來市町村ヨリ制限外附加税ノ賦課特別税新設等ノ稟請書中一年若クハ數年ヲ期シ要スヘキ支出ニ充テン爲メノ課税ナルニモ不拘其課税期間ハ往々支出ヲ要スル年期ヨリ永キニ渉リ或ハ無期間ナルモノアリ右ハ收支ノ期間等シカラス不都合ニ有之候間特別支出ノ爲メニ臨時課税ヲ要スルモノハ其必要ノ年限ニ應シテ課税期間ヲ定メ稟請セシメラレ度又土地ニ課スル市町村税ハ本租ノ免除中ニ係ルモノニ對シ特別税ヲ課スルモノアリ或ハ特別税ト附加税トヲ加重シテ往々本租ヲ超過スルモノアリ右ハ地益ニ影響ヲ及ホシ調査上最モ慎重ヲ要スヘク候ニ付右ノ場合ニハ別紙書式ニ據リ地益調ヲ差出サシメラレ度依命此段及通牒候也

地益調　一段歩當

地目	收得物 種類	數量	收得物價格又ハ收得金	地租 府縣税 市町村税 其他負擔額	耕作費等	純益
田		石	円	円	円	円
同						
畑						
同						
宅地						
何々						

一　收得物ノ種類ハ重要ナルモノヲ掲クヘシ但例ヘハ田ニシテ米麥二作アル等ノ爲メ其種類ヲ異ニスル場合ニハ特ニ其旨ヲ掲クヘシ

一　收得物ノ數量價格及收得金耕作費ハ最近三ケ年ノ平均額ヲ掲クヘシ

一　宅地ノ收得金ハ賃貸價格ヲ掲クヘシ

一　各地目一段歩ノ地價ヲ備考トシテ掲クヘシ

一　耕作費等ハ勞銀種子料牛馬使用料肥料農具代等ヲ掲クヘシ

◉地租制限外課税又ハ反別割賦課等ニ關スル許可稟請ニ副申ヲ要セサル場合及取扱方（明治三十二年九月十九日一第四一三七號内務部長ヨリ郡長ニ通牒）

町村長ヨリ稟請ニ係ル地租制限外賦課ニ關スル件反別割賦課ニ關スル件其他町村條例ニ關スル件ニ付テハ一々副申書ヲ添ヘ進達相成居候處右ハ異例ニ屬スルモノヲ除ク外自今副申書ヲ添付スルニ及ハス文書中適宜ノ箇所ニ進達年月日ヲ記シ廳印ヲ捺シ御進達相成可然此廳印アルモノハ御調査相成候モノト認メ當廳ニ於テハ取扱可致候依命此段及通牒候也

◉地租制限外課税許可稟請方（明治三十三年六月七日一乙第三六三三號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

地方主税兩局長通牒　三十三年六月一日地甲第四三號

本年勅令第百二十三號ヲ以テ地租二分ノ一以下ノ市町村附加税賦課ニ對スル許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任セラレ候處之レカ許可ニ關シ今般左記ノ通決定セラレ候條依命此段及通牒候也

一　市町村内ノ或ル區域ニ對シテハ地租（二分ノ一）以下ノ附加税ヲ賦課シ或區域ニ對シテハ地租（二分ノ一）ヲ超過スル附加税ヲ賦課スルノ議決ヲナシタル場合及或ル年度ニ於テハ地租（二分ノ一）以下ノ附加税ヲ賦課シ或ル年度ニ於テハ地租（二分ノ一）ヲ超過スル附加税ヲ賦課スルノ議決ヲナシタル場合ニ於テハ共ニ議決ノ全部ニ付内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス

二　地租（二分ノ一）以下ノ附加税賦課ノ件ト市制第百二十二條町村制第百二十六條中地租附加税以外ノ事件トヲ併セ議決シタル場合ニ於テハ地租附加税以外ノ事件ニ限リ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス

◉町村制ニ依リ上級廳ニ課税ノ許可稟請ヲ爲ス場合ニ於テ下級廳ノ許可ヲ要セサルモノハ其ノ許可濟ノ旨ヲ稟請書ニ明示方（明治三十四年四月三十日兵庫縣内一甲第一〇〇〇號ノ一内務部長ヨリ郡長ニ通牒）

町村制第百二十七條ニハ其第七號及第八號ノ場合ニ對スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ストアリ然ルニ町村制第百二十六條ノ許可稟申ノ際往々郡參事會ノ許可ヲ受ケタル證憑ヲ添付セサル向有之其手續ヲ完了シタルヤ否分明ナラス取調上差支不尠候條自今許可稟申ノ際ハ必ス其許可ヲ受了シタル旨ヲ明示致候樣各町村ヘ夫々御通達相成度其筋ノ申越ニ依リ此段及通牒候也

（追而地租制限外課税ノ件中知事ヘ許可稟申ノ場合ニ於テモ本文同樣御取計相成度爲念申添候也）

◉地租制限外課税許可稟請ノ時期ニ關スル取扱方（明治三十四年十月十四日兵庫縣内一丙第七九號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

地租制限超過ノ課税稟請ニ付テハ明治二十六年四月四日一甲第五五二號ヲ以テ訓令明治二十六年四月四日一甲第五五二號ヲ以テ通牒致置候次第モ有之豫算議決後速ニ稟請候樣御注意相成候事ト被存候處現今ニ至ルモ年度開始後遷延數月ヲ經テ稟請スルモノ猶往々有之不都合不尠候ニ付斯ルモノニ關シテ今後或ハ許可ヲ與ヘラレサルコトモ可有之候條市制第百七條及町村制第百

七條ニ依リ調製シタル豫算表ニシテ市制第百二十二條町村制第百二十六條ニ依リ許可ヲ請フモノハ豫算議決後直ニ稟請候樣御注意相成度依命此段及通牒候也

◉地租制限外課税ノ場合ニ於ケル課率ノ範圍定メ方（明治三十六年五月七日兵庫縣縣内治第一七七一號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

市町村ノ豫算ハ法令ノ結果又ハ天災事變等萬止ヲ得サル場合ノ外可成追加又ハ變更ヲ爲サシメサル事ニ兼テ及通牒置候次第モ有之候處年度開始後ニ於テ屢豫算ノ追加ヲ爲シ或ハ變更スル等殆ント毎年ノ例トナリ從テ地租ノ課率議決ノ際豫算ニ對照シ必要以外ニ幾分ノ餘裕ヲ見込ミ地價割制限外賦課稟請ノ向有之是迄一、二許可相成候例モ有之候ヘ共右ニテハ自然追加豫算ノ提出ヲ容認スル譯ト相成候ニ付自今經常費及臨時費共付屬豫算表ニ對照シ必要課率以外ニ餘分ヲ見込タルモノハ許可不相成候條豫テ注意ノ上進達ノ際充分御調査相成度依命此段及通牒候也

追テ算出上課率ノ端數ヲ五入スルカ爲必要以外ニ渉ル場合ハ差支無之又課率ノ効力カ次年度以降ニ渉ル場合ニ於テハ其ノ必要ノ有無ハ當初許可年度ノ豫算表ニ依リテ決定スル義ニ有之候ヘハ若シ其ノ豫算ノ費目中臨時費タルノ性質ヲ帶フルモノニシテ次年度以降ニ繼續セサル場合ハ該費目ニ對スル課率ハ次年度以降ニハ必要ナラサル筈ニ付控除セシメ尚右次年度以降ニ繼續スル臨時費ニ對シテハ繼續支出年度割等ニ係ル市町村會ノ議決書寫シ添付セシメラレ度（理由書中ニ表示シ置クモ差支ナシ）本件ハ獨リ地價割ノミナラス他ノ制限外課税ノ許可ヲ請フ場合ニ於テモ同樣ニ有之其他制限外課税及特別税新設變更等ノ許可稟請ニ就テハ豫テ訓令ノ書式等ニ基キ一層書類ヲ完整（セシメラレ…セラレ…）候樣致度此段特ニ申添候

◉課税ノ許可稟請取扱方（明治三十六年十一月七日兵庫縣縣内治第三八八九號内務部長ヨリ郡市長ニ移牒）

市町村税ノ賦課ニ關シ議決ノ許可ヲ稟請スル場合ニ於テ他ニ許可未濟ノモノアルモ稟請書添付書類中何等記載ナキ爲メ往々調査上ニ尠ナカラサル手數ヲ要シ爲ニ許可ノ遲延ヲ來タシ賦課徴收上時機ノ宜シキヲ得サル等ノ事例乏シカラサルニ付自今二種以上ノ議決ニ對シ各別ニ許可稟請ヲ爲ス場合ニハ他ノ許可未濟ノモノハ歳入一覽表附記欄内ニ別途稟請ナル旨ヲ明記セシメラレ度將又同時ノ議決ニ付テハ可成同時ニ稟請セシメラレ度旨其筋ヨリ通牒有之候條爲御心得此段及移牒候也

◉非常特別税法ニ依ル地方課税制限ニ關スル取扱方（明治三十七年四月二十四日號外内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）改正（三十七年九月一日兵庫縣縣内治第一三四號、四十一年四月二十八日兵郡庶第四三號）

明治三十七年度ニ於ケル地方課税制限ノ義ニ關シ曩ニ及通牒置タル次第モ有之候處今般非常特別税法發布セラレ候ニ付テハ尚左記ノ事項御承知ノ上相當御措置相成度依命此段及通牒候也

一　地租附加税其他土地ニ關スル課税ニ制限シタルトコロヲ以テ（戸別割、家屋反別割）其他ノ課目ニ移シ濫ニ増課ヲ爲スヘカラサル義ニ付テハ曩ニ會同ノ際長官ヨリ訓示セラレタルトコロアルモ是レ畢竟名ヲ緊要ニ藉リ濫ニ増課スル等ノ擧ニ出ツルヲ許サヽルノ旨趣ニシテ眞ニ緊要缺クヘカラサルノ經營ヲモ中止若ハ弛廢シ之カ爲多大ノ影響ヲ來シ或ハ收入不足ノ爲特ニ必要ナル費用ノ支辨ニ應スルコト能ハサルカ如キ等其他特殊ノ事情アル場合ニ於テモ尚絶對其増課ヲ許サヽルノ精神ニアラサルヲ以テ（郡ノ緩急利害ヲ直察シ豫メ郡賀ヲ審査シ費官ニ於テ篤ト周到嚴密ナル監督指示ノ下ニ相當措置セラレ度……）

二　非常特別税法第二十二條ニ於テ土地ニ關スル附加税又ハ反別割ノ賦課ニ付之ヲ同列ニ規定セルヲ以テ團體ニ於テ任意其一ヲ擇フヲ得ルモノト誤解スル向ナキヲ保セスト雖モ多額ノ收入ヲ得ンカ爲妄ニ反別割ノ如キ特別税ニ據ルハ法ノ精神ニ非サルカ故ニ右等ノ措置ハ固ク之ヲ戒メ從前ノ通附加税ヲ以テ本則トシ特殊ノ事情アルニ非サレハ容易ニ反別割ヲ賦課セサルノ方針ヲ採ラ（シメラ……）レ度尤モ水利組合ニ在テハ從前ノ例ニ依リ取扱（ハシメラレ……）可然

三　非常特別税法第二十二條中ニ水利ノ爲ニ費用ヲ要スル場合ニ於テハ特ニ内藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ制限超過ノ課税ヲ爲シ得ルノ規定ヲ設ケラレタルハ主トシテ休團存立ノ必要若ハ他ノ工事ノ爲附屬工事ヲ要スル等其他特別ノ事情ニ基キ多額ノ費用ヲ要シ到底制限以内ノ課税ニ依リ之カ支辨ヲ爲スコト能ハサルカ如キ事實已ムヲ得サル場合ニ處スル趣旨ニ外ナラサルヲ以テ精密ノ注意ヲ加ヘラレ度

四　前項水利ニ關シテハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ハ勿論水害防禦ヲ目的トスル事業ヲモ包含シ且町村ハ郡又ハ町村組合ヨリ水利ノ爲ニ要スル費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テモ亦適用シ得（スル……）ル義ニ有之

五　（削除）

六　從前年度ヲ繼續シテ賦課ノ許可ヲ受ケタル地租附加税ノ中非常特別税法第二十二條ノ制限ヲ超過スルモノハ其超過ノ部分ハ同法第二十三條ニヨリ自ラ効力ヲ失フモ制限以内ノモノハ許可ノ年限間猶其効力ヲ有ス

非常特別税法第二十二條第四項乃至第七項ノ規定ハ同法ニ依リ同法施行後特ニ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル義ニ有之ニ付注意ヲ加ヘラレ度

七　從前賦課ノ許可ヲ受ケタル特別税反別割モ前項ト同樣ニ付是亦精密ノ注意ヲ加ヘラレ度

八　市町村内ノ財産區若ハ學區ニ於テ地租附加税及特別税反別割ヲ課スル場合ニ在テハ非常特別税法第二十二條第一項第二號ノ總反別地租額及附加税總額ハ其區内ノ總額ヲ云フ義ニ有之尤モ反別割及附加税ノ

總額ハ全市町村ニ於テ同一ノ課税アルトキハ其區内ニ於ケルモノト彼此通算スル義ニ有之

九　非常特別税法第二十二條ニ據リ市區町村ニ於テ制限超過ノ附加税又ハ特別税ノ賦課ニ關スル許可稟請ノ際提出スヘキ書類ハ次項ニ掲クルモノヽ外總テ從前ノ例ニ據ラシメラレ度

十　營業税所得税附加税制限超過及特別税反別割ノ許可稟請書附屬歳入一覧表中營業税及所得税附加税ノ附記欄本税金ノ下ニ「増微額ヲ除ク」ノ割註ヲ又反別割ノ附記欄ニハ總反別及平均一反歩當ヲ記載シメ尚非常特別税法第二十二條第五項中負債ノ元利償還ノ爲ニ要スルモノ及其分賦ヲ受ケタル場合ニ要スルモノハ別紙様式ニ依リ調製シタル書類ヲ添付セシメラレ度

十一　水利組合ニ於テ課税ニ關シ稟請スル場合ニハ總テ前二項市區町村ノ例ニ據ラシメラレ度

何府縣（郡市町村）負債ニ關スル調書

一　起債要領

議決年月日

許可年月日

起債額		
借入金額	償還額	償還未濟額

起債ノ目的	募集ノ方法	利息ノ定率	借入ノ年月日	償還ノ方法（明治何年度ヨリ何ケ年賦毎年何月何月ノ二期ニ償還ノ類）	償還ノ財源	償還終了ノ期限	備考

二　償還年次表

年次	元金償還額	利子支拂額	計
明治何年			
同何年			
合計			

◎明治三十七年號外通牒取扱方

（明治三十七年八月二十二日兵庫縣訓令第一三〇號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年七月二十四日號外通牒第十項ニ依リ制限外課税許可稟請ノ際添付ノ負債調書中往々不明ノ廉アリ之カ爲メ往答ニ日子ヲ要シ候條爾來左ノ廉特ニ御注意相成候様致度此段及通牒候也

記

一　起債ノ目的ヲ村費若クハ教育費ト云フカ如ク概括ニ記載シ其果シテ成規上起債シ得ヘキ費途ナルヤ否ヤ明カナラサルモノアリ之等ハ仔細ニ其費途ヲ記載セシムル様致度

一　數口ノ借入金ヲ一表ニ取調ヘ爲メニ其ノ何レノ分ヲ返濟スルモノナルヤ利子ノ計算ハ如何ニシテ算出シタルモノナルヤ明カナラサルモノアリ之等ハ一口毎ニ償還年次表ヲ調製シ利子ノ計算方ニ付テハ便宜備考ヲ付スル等算出方明瞭スル様調査セシメラレ度

◎反別割賦課稟請書ニ賦課ヲ要スル理由記載方（明治三十七年八月二十三日兵庫縣訓令第一三二號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

市町村ニ於テ特別税反別割ノ新設ヲ爲スニ當リ土地全部ニ賦課セス特ニ一二ノ地目ニ限リ賦課スルモノ若クハ各地目ヲ通シテ均一ノ賦課ヲ爲スモノ等有之是畢竟費途ノ關係若クハ地益ノ多寡等種々ノ理由有之義ト存候得共從來是等反別割許可稟請ノ際往々何等理由ヲ記載セサル向有之爲ニ一々往復ヲ要シ徒ニ事務ノ煩雑ヲ生シ候ニ付向後右稟請ノ場合ハ必其ノ理由ヲ記載セシメラレ度此段及通牒候也

◎市町村附加税制限外課税ニ關スル許可稟請書提出ノ時期

（明治三十八年四月十一日兵庫縣訓令第四〇號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

市町村其他公共團體ニ於ケル制限外課税稟請ニ關シテハ曩キニ通牒置キタル次第モ有之候處當初歳入出豫算編製方兎角疎慢ニ流ルヽノ傾向アリテ爾來追加又ハ變更ヲナスコト一再ナラス殊ニ非常特別税法施行以來同法ニ依リ國税附加税及反別割ノ制限外課税ヲ要スル場合ニ於テ其課税ヲ以テ支辨シ得ヘキ費途ヲ限定セラレタルカ爲メ天災等ニ基因スル臨時費ニ對スルモノヲ除ク外年度開始前ニ於ケル豫算議定ノ當時既ニ其必要明確ナルニモ不拘是等課税ニ對シ年度終了ニ切迫シ漸ク許可ヲ稟請シ來ル向有之斯ノ如キハ啻ニ緩慢ノ悪弊タルニ止ラサルノミナラス財政ノ不整理ヲ釀スノ虞ナシトセス大ニ注意ヲ要スヘキ義ト存候條爾後右等團體ニ於ケル豫算編製ニ付テハ一層愼重ノ調査ヲ要スヘキハ勿論苟モ課税ノ許可ヲ受クヘキモノニシテ初メヨリ明確ナルモノハ年度開始前速カニ之カ許可稟請ノ手續ヲ爲サシメラレ（可相成……）度依命此段及通牒候也

◎市町村附加税制限外課税及特別税賦課等ニ關スル許可稟請書附屬議決書ニ議決ノ年月日記入方

（明治三十八年四月十四日兵庫縣訓令第四二號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

制限外課税特別税其他起債等ニ關シ許可稟請ヲナス場合ニ於ケル添付ノ議決書ニハ爾來必ス其議決ノ年月日

ヲ記入セシメラレ(セラレ…)度此段及通牒候也

◎地租制限外及其ノ他ノ賦課等許可稟請取扱方(明治三十九年四月十八日一庶親第一三號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒)

町村其他公共團體ヨリ稟請ニ係ル直接國税附加税制限外又ハ特別税、間接國税附加税ノ賦課ニ關スル件ハ其書類ノ經由ヲ爲スニ當リ充分調査ヲ遂ケ進達セラルヘキハ勿論ノ義ニ候處近來進達ノ該稟請書中適法ナラサルモノ、理由ノ悉サヽルモノ、添付書類ノ備ラサルモノ等往々有之就中歳入、歳出一覽表及負債調書等ノ違算或ハ(非常特別税法)ノ要件ヲ具ヘスシテ(同法)ニ規定スル地租、所得税、營業税等ノ附加率ヲ超過スル向最モ多數ヲ占ム斯クテハ經由ノ趣旨ニ反シ且是等書類ノ整備セサル爲メ再三往復ヲ重ヌルニ付啻ニ無用ノ手數ヲ要スルノミナラス其許可ヲ受クル迄ニハ徒ニ長日子ヲ費シ甚シキハ當該年度切迫スルモ猶許可ヲ得ルニ至ラサルヲ以テ實際賦課徴收ニ窮スル事例モ有之候條自今右ノ廉々遺漏ナキ樣深ク御留意ノ上敏速御取扱可相成依命此段及通牒候也

追而添付書類中議決書ニ於テ課率ヲ經常費、臨時費ニ區分スルモノハ歳入一覽表地價割ノ金額ハ勿論其他ノ金額ニ於テモ費途ヲ分ツモノハ同樣區分列記セラルヘキ筋ニ付是亦御注意相成度爲念此段申添候

◎特別税又ハ附加税制限外課税等許可稟請取扱方(扱抄)(明治三十九年七月十三日兵庫縣郡外庶第三六三號ノ一第一部長ヨリ郡市長ニ通牒)

市町村及水利組合ヨリ提出スル特別税、附加税制限外賦課、起債及條例等ノ稟請ニ關シ左記ノ事項等不備ノ爲メ照復ヲ重ネ徒ラニ手數ト日子ヲ要シ或ハ爲メニ適當ノ時期ヲ失スルコト往々有之右ハ畢竟調査粗漏ニ基クモノト被認候ニ就テハ將來是等ノ手落無之樣精々御留意有之度此段及通牒候也

一　一部賦課及不均一賦課ニ對シ郡參事會ノ許可ヲ經タルコトヲ掲記スルコト(一號)

一　反別割賦課ニ關スル歳入一覽表該税附記中地租ニ對比シタル壹圓當リ及平均壹反歩當リヲモ掲記スルコト(三號)

一　水利ニ要スル經費ノ爲メ制限賦課ノ場合ハ水利ニ要スヘキ金額ヲ明カナラシムルコト(土木費中ニ用水費、橋梁費、道路修繕等ヲ混入シ其水利ニ要スル分明カナラサルモノアリ)(四號)

一　制限外課税ニ添附スル負債調書起債ノ目的ノ欄ニハ起債シタル目的ヲ仔細ニ掲記スルコト(五號)

一　地租額以上ニ係ル課税及無租地ニ係ル課税ニ對シ地益調ヲ添附スルコト(六號)

一　制限外賦課許可稟請ニ際シ前議決ニ係ル課率アルトキハ其決議ノ謄本添附ノコト(七號)

一　特別税反別割ノ新設ヲナスニ當リ土地全部ニ賦課セス特ニ一二ノ地目ニ限リ賦課スルモノ若クハ各地目ヲ通シテ均一ニ賦課ヲナス場合ニ其理由ヲ詳記スルコト(八號)

◎特別税ノ新設增率ノ許可稟請ノトキ收支

ニ關スル調書添付方(明治四十年三月十八日兵庫縣郡庶第三六號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒)

市町村ニ於テ特別税(收入金ヲ課税ノ標準トスルモノ法令ヲ以テ課率ノ限度ヲ定メタルモノ收入金ヲ推定シ難キ飼犬税等ヲ除ク)ヲ新設シ又ハ增率ノ許可申請ヲ爲ストキハ別紙樣式ニ準シ收支ニ關スル大體ノ調書添付候樣御取扱相成度其筋通牒ノ次第有之候ニ付依命此段及通牒候也

收入金　何程　(代書人税ニ關スル收支調ノ例　囑托文書一通平均手數料何程)
經費　何程　(一ケ年何程ニ對スル分)
内　公課　何程　國税何程、府縣税何程、市町村税何程
公課以外ノ經費　何程
殘　何程
税率一人(又ハ何々)ニ付何程
備考
納税義務ヲ有スル者ノ中收入金最モ多キ者ヲ標準トスルコト
經費ハ收入ヲ得ルニ必要ナル經費トス以下同シ
案内業税、仲仕税、乳牛税、貸駕籠税、木流業税、筏業税等之ニ準ス
木材川下税ニ關スル收支調ノ例
見積價格　何程　(木材種類、尺〆又ハ板ノ平均等材積ヲ課税標準別ニ詳記スルコト)
見積經費　何程
内　公課　何程　國税何程、府縣税何程、市町村税何程
公課以外ノ經費　何程
殘　何程
税率何々ニ付(標準別ニ)何程
備考

第四編　市町村税

税率ノ最高ノ木材又ハ板類等ニ付推定掲記スルモノトス
私法人使用建物税ニ關スル收支調ノ例
建物價格　何程　(建物何程ニ階坪又ハ付屬建坪何程標準ノ異ル毎ニ詳記ス)
經費　何程
内　公課　何程　國税何程、府縣税何程、市町村税何程
公課以外ノ經費　何程
殘　何程
税率　建物一坪(又ハ何々)ニ付何程
備考
標準トナルヘキ法人ニ付調査スルモノトス
經費ハ推定スルモノトス
製造所税、店貸税等之ニ準ス
平均戸別割ニ關スル收支調ノ例
所得金　何程
經費　何程
殘　何程
税率　何程
備考
所得ノ最モ少キ者ニ就キ調査スルモノトス
平均戸數割等之ニ準ス
經費ニ付キ代書人税ニ關スル調ノ備考ニ依ルヲ要ス

◎地租制限外課税等許可稟請取扱方(明治四十年四月九日兵庫縣郡庶第四一號第一部長ヨリ郡長ニ通牒)

客年四月十八日一庶親第十三號ヲ以テ地租制限外稟請等取扱ニ關シ注意方通牒致置候處本年進達ニ係ル分ニ於テモ尚書類ノ整備セサル向往々有之ノミナラス殊ニ議決書ニ於テ課率ヲ經常費、臨時費ニ區分スルモノニ

アッテハ歳入一覧表中地價割ノ金額ヲ區分スヘキハ勿論其他ノ金額ニ於テモ費途ヲ分ツモノニアッテハ夫々區分記載スヘキ筋ナルニ拘ラス其儀ヲ盡サヽル向モ有之差支ヘ候條自今經由ノ際愼重ニ御調査相成度依命此段及通牒候也

追而本文ノ如ク區分セサル向ニシテ是迄許可相成候モノ有之トモ右ハ其際ニ限リ便宜ノ取扱ヲ爲シタル義ニ付之ヲ以テ將來ノ例トセサル樣豫テ御含置相成度爲念申添候

◉地方税制限ニ關スル法律取扱方

（明治四十一年四月二十八日兵郡庶第四三號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年法律第三十七號ヲ以テ地方税制限ニ關スル法律公布セラレ候ニ付左記ノ事項御承知之上相當御措置相成度依命此段及通牒候也

一　第一條ノ規定ニ依リ段別割ヲ賦課スル場合ニ於テ一地目ニシテ平均課率四拾錢ニ達スルモノアルトキハ第五條第三項ニ依リ取扱得ルモノトス

二　明治三十七年四月二十四日號外内務部長通牒第五號ハ之ヲ廢止ス從テ第一條乃至第三條ノ制限迄ノ附加税賦課ニ付テハ別ニ許可ヲ要セサルモノトス

三　第五條ノ規定ニ依リ市區町村水利組合ニ於テ制限超過ノ附加税又ハ反別割ノ賦課ニ關スル許可稟請ノ際提出スヘキ書類ハ次項ニ掲クルモノヽ外總テ從前ノ例ニ據ラシメラレ（テレ……）度

四　段別割ノ許可稟請書附屬歳入一覧表中反別割ノ附記欄ニハ特ニ每地目ニ對スル總反別一反歩當及總地額地租一圓當ヲモ記載（セシメラレ……）セラレ度

◉地租所得税營業税附加税制限外課税許可稟請取扱方

（明治四十一年八月十三日兵外庶第四三五號ノ一内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

本年三月法律第三十七號第五條ニ依リ地租、所得、税營業税ノ附加税制限外許可稟請ニ際シ此レニ添付スル理由書ハ簡略ニ失シ調査上差支フルモノ往々有之趣ヲ以テ將來一層詳細ナル理由書ヲ添付スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條（將來御注意有之度）右ノ趣貴郡内關係ノ向ヘ御示達相成度（ト認メラル、モノハ相當更正セシメ又ハ貴官ニ於テ詳細副申ノ上進達スルコトニ御取扱相成度）此段及通牒候也

◉歩一税課税標準

（明治四十一年九月二十六日兵郡庶第一一三（一一四）號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒）

（町村ヨリ稟請ニ係ル）歩一税許可ノ標準ニ關シテハ明治三十三年五月一甲第七九九號ヲ以テ及通牒置候處今般該標準ヲ別紙ノ通改メ之ニ該當スルモノヽ外許可不相成旨其筋ヨリ通牒有之候條（自今歩一税新設又ハ增額等許可稟請經由ノ際ハ夫々照査ノ上其ノ事由詳且相成度（御了知相成度））依命此段及通牒候也

追テ從來許可濟ノ分ニ（シテ現ニ賦課シツヽアルモノニ付テハ付テモ）相當時機ヲ見漸次改正標準（課率以下三項ニ限リ……）ニ準據（セシムル課御取計相成度シ改正可相成……）申添候

一　歩一税（不動産取得税不動産所有權移轉税等ヲ含ム）許可ノ標準

第三十七號第五條第一項ノ制限マテ課税シタルコト同條第二項ニ該當スル費用アルトキハ仍之ニ依リ課税シタルコト但シ通シテ地租附加税ハ七十五錢所得税及營業税附加税ハ六十五錢ヲ超ユヘキ場合ニ於テ上記ノ限度ニ止メタルトキハ妨ナシ

二　鑛業税附加税ハ既ニ極度マテ課シタルコト

三　戸別割（家屋割ヲ含ム）ハ既ニ一戸平均三圓五十錢ヲ超ヘタルコト

四　府縣税營業税雜種税附加税ハ既ニ本税一圓ニ付五十錢ヲ超ヘタルコト

五　課率千分ノ十以内ナルコト但特別ノ場合ニ於テハ千分ノ二十マテ許可スルコトアルヘシ

六　存續期間五ケ年以内ナルコト

七　家督相續及遺産相續ニ因ル所得ニ對シテハ課税セサルコト

右條件ヲ具備スルニ非サレハ許可セサルモノトス尤古來ノ沿革上不得止理由アリ其財政上重要ナル税源ヲ爲スノ實情アルモノト認ムルトキハ特ニ許可スルコトアルモノトス

◉國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制

（第一輯第六章ニ收ム）

◉公共團體及團體ノ公課ニ準用スヘキ郡區町村編制法ニ依ル町村及北海道ニ於ケル町村其他市町村内ノ區費及町村組合費等ノ區分

（明治四十年七月十二日兵庫縣郡庶第七〇號第一部長ヨリ郡市長ニ移牒）

内務次官通牒　四十年七月五日秘甲第五三號ノ内

本年六月勅令第二百四十五號ヲ以テ本年法律第三十一號第七條ニ依リ公共團體ヲ指定セラレ候處郡區町村編制法ニ依ル町村及北海道ニ於ケル町村ハ右法律第三十一號第七條ノ町村中ニ包含セラルヘク市制町村制ニ依ル市町村内ノ區費及町村組合費ノ賦課ニ關シテハ當然市町村ノ公課ニ準スヘク沖繩縣ニ於ケル區内ノ部費、間切島組合費及間切島内ノ村費ノ賦課ニ關シテハ區、間切島ノ公課ニ準スヘク又北海道ニ於ケル地方費、區内ノ部費、町村組合費及町村内ノ部費ノ賦課ニ關シテハ府縣、區、町村ノ公課ニ準スヘキモノト存候條御了知相成度尚又明治二十二年法律第十一號ニ依ル存續會ノ費用ニ關シテモ本年法律第三十一號ト同一ノ取扱ヲ爲サシムル樣監督相成度依命此段及通牒候也

◉國税徴收法（第一輯第六章ニ收ム）第三

◉夫役現品滯納處分方

（明治二十二年四月二十三日内乙第五七號第一部長ヨリ郡市長ニ通知）

長崎縣伺　二十一年十二月十五日

市町村制第百一條夫役ヲ課セラレテ之ニ應セス現品ヲ

課セラレテ不納シタルトキハ金額ニ算出シテ處分スヘキモノナルヤ

内務省指令　同二十二年三月十一日

伺之通但急迫ノ塲合ニ於テ賦課シタルトキハ此ノ限ニアラス

◎市町村税等公賣代金引去順序

德島縣伺　明治二十二年五月十七日

市町村ニ於テ徴收スル使用料手數料市町村税竝其ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ之レカ督促ヲ爲シタル末國税滯納處分法ニ依リ之ヲ徴收スヘキ義ニ有之候處右公賣代金引去順序ノ義ハ國税(地方税備荒儲蓄金)ノ次トシ去ル十六年第三十一號布告ノ徴發費ノ先ト相心得可然哉

内務省指令　同年八月十二日

伺ノ通

◎市町村税及府縣税滯納處分ハ國税徴收法第三章適用方(明治三十年九月一日一第四九一三號内務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

富山縣伺　三十年七月二日(電報)

國税滯納處分法廢止セラルト雖市町村税府縣税ノ滯納處分ハ尚國税徴收法第三章滯納處分ノ規定ヲ準用スヘキ乎直ク御指揮ヲ請フ

縣治局長通牒　同年七月十日

市町村税府縣税滯納處分ノ件ハ國税徴收第三章ヲ適用スル義ト存ス依命通牒ス

◎市町村税滯納矯弊方(明治三十二年三月十五日兵庫縣訓令第三十五號)

郡長　市長　町村長

人民ノ納税義務ハ税種ノ如何ニヨリテ輕重ノ差アルヘキニアラス然ルニ國縣税ニ對シテハ之ヲ重ンスルモ市町村税ニ對シテハ之ヲ輕ンスルノ弊漸ク增長セントスルノ傾向ヲ生セリ其起因ヤ種種アルヘシト雖モ苟モ税トシテ賦課セシ以上ハ情實ニ怩ミ徴收ヲ緩慢ニ附スヘカラサルハ素ヨリノコトトス殊ニ目下ハ會計年度終了セントスルノ際ナルニ依リ滯納ニカカル分アラハ此際調査ヲ遂ケ以テ會計ノ整理ヲ行フト共ニ市町村税ニ對スル以上ノ弊風ヲ矯正スヘシ

◎市町村税徴收事務整理方(明治三十三年三月十五日兵庫縣訓令第十二號)

郡長　市長　村町長

市町村行政事務ニ關シ屢〻紛擾ヲ耳ニスルハ主トシテ會計ノ不整理ナルニ在リ其原因ハ塲所ニ依リ一ナラサルモ市町村税徴收方整理セサルニ基クモノヲ最モ多シトス其茲ニ至リタルハ固ヨリ納税者ニシテ其義務ヲ盡ササルモノアルニ由ルヘシト雖理事者ニ於テモ亦其責任ナシト云ヲ得ス殊ニ目下會計年度末ニ際シテハ一層ノ注意アルヲ要ス宜ク此際調査ヲ遂ケ未納税者ニ對スル處分ヲ爲スヘシ

◎町村ノ行政事務報告ニ關スル取扱方(抜抄)(明治二十六年三月二十一日一甲第四二五號内務部長ヨリ郡長ニ通牒)

町村ノ行政事務ニ關シ町村ヨリ徴スル報告ノ儀ハ各郡既ニ夫々規定ヲ設ケ御施行相成居候處尚不十分ノ嫌アルモノモ有之候ニ付自今左記概目ニ準シテ報告ヲ徴セラルヘク依命此段及御通達候也

町村事務報告事項概目

一　町村ニ於テ徴收スル收入滯納處分及納税延期處分

(末項)

以上一ケ年毎ニ取纒メ報告セシム

◎市ノ行政事務報告例(抜抄)(明治二十六年三月二十日兵庫縣訓令第二十六號)　改正(二八年第三三號)

市ノ行政事務報告例別冊ノ通相定ム(但書略)

(別冊)

何市事務報告　年報

第五　市收入滯納處分及納税延期處分　第五表　第百二條　毎年七月三十一日限

市收入滯納處分及納税延期處分

(明治　年度)

定期内ニ納付セサルモノ	督促令狀ヲ發シタルモノ	財産差押命令ヲ發シタルモノ	財産賣却ノ公告ヲナシタルモノ	財産賣却ヲ決行シタルモノ	財産ヲ買上ケタルモノ	國税滯納處分法第五條ニ係ルモノ	年度内納税延期	年度ヲ越ヘタル納税延期

市税		使用料		手數料		夫役ニ代フル金圓		加入金		何々		何々		計	
人員	金高	人員	金高	人員	金高	人員	金高	人員	金高	人員	金高	人員	金高	人員	金高

一　本表中人員及金高ハ其滯納ノ人員及金高ヲ記入スヘク賣却及買上ノ如キモ賣上金高及買上代金ヲ記載スヘカラス

◎市町村歳入出豫算表式（抜抄）（明治三十二年三月一日内務省令第二號）

明治二十一年法律第一號市町村制ニ依リ市町村歳入出豫算表式左ノ通相定ム

市町村歳入出豫算表式

某府（縣）某
某郡某町（村）（某町村組合）市　明治何年度歳入出納

一金　歳入　計豫算
一金　歳出
合計金（臨時費ノ豫算ナキトキハ此合計ヲ省ク）
歳入出差引
残金（記載例略）

歳入豫算高
經常費豫算高
臨時費豫算高

某府（縣）某
歳入　某郡某町（村）某町村組合市　明治何年度歳入出豫算表

科目	前年度豫算高	本年度豫算高	附記
第五欵（市）町村税			
一　地價割			
二　營業割			
三　戸別割（家屋割）			
合計			

記載例

五　市町村税中地價割ニ付テハ地租ニ對スル歩合、營業割戸別割及家屋割ニ付テハ［地方税］營業税雜種税戸數割又ハ家屋税ニ對スル歩合ヲ掲載スヘシ

六　市町村特別税ヲ設クルトキハ戸別割又ハ家屋割ノ次ニ之ヲ掲載スシヘ

十四　町村組合ニ於テハ分擔法ニ依リ歳入科目第五欵町村税ノ欵ニ於テ左ノ如ク掲載スルモ妨ケナシ

第五欵　町村税
某町ノ負擔
一　地價割
二　營業割
三　戸別割
某村ノ負擔
一　地價割
二　營業割
三　戸別割

◎市町村歳入歳出豫算表記載例備考（抜抄）

（明治二十二年三月十六日第一部長ヨリ郡市長ニ通牒）

今般内務省令第二號ヲ以テ市町村費豫算表式被相定候ニ付參考ノ爲メ別紙通知相成候間爲御心得及通牒候也

市町村歳入豫算表記載例備考

科目	前年度豫算額	本年度豫算額	附記
第五欵　市町村税			
一　地價割			地價金何圓ニ付何錢本年地租豫算高金何程地租一圓ニ付金何程即地租ノ何分
二　營業割			本年度［地方税］營業割ノ何分
三　戸別（家屋割）			本年度［地方税］戸數割（家屋割）ノ何分

◎市町村會計規程（明治三十二年二月十五日兵庫縣訓令第十八號）

明治二十六年三月本縣訓令第十二號市町村會計規程別冊ノ通リ改正シ歳入延期簿ハ本令發布ノ日ヨリ其他ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス（但書及參照略）

市長　町村長

（別冊）

市町村會計規程

第一條　市町村歳入所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ賦課令狀若クハ納額告知書ヲ發スルモノハ賦課令狀若クハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ賦課令狀若クハ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲナシタル日ノ屬スル年度

四　補助金及寄附金ノ類ニシテ出納閉鎖期限内ニ收入スルモノハ其收入スヘキ指定ノ年度

第二條　市町村歳出所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　公債ノ元利金ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

二　給料、退隠料、手數料、旅費、報酬及辨償金ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

三　土木建築其他物品ノ購入代價ハ其契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ渉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ依リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

四　諸拂戻、缺損、補塡ハ其拂戻又ハ補塡ヲ決定シタル日ノ屬スル年度

五　前各項ノ類別ニ入ラサル費用ハ總テ支出命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三條　一會計年度ニ屬スル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スル經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　歳入歳出金出納閉鎖ハ翌年度五月三十一日限トス

第五條　市町村税ノ賦課令狀ハ少クトモ毎納期五日前、隨時收入ハ其時々令狀ヲ發スヘシ納額告知書ニ於ケル亦同シ

第六條　賦課令狀ノ金額ニ異動ヲ生シタルトキハ其增額ハ追加令狀ヲ發シ減額ハ更ニ令狀ヲ發シテ曩ノ令狀ト引換フヘシ納額告知書ニ於ケル亦同シ

第七條　誤拂過拂トナリタル金額ハ各之ヲ仕拂フヘタルモノハ其收入シタル年度ノ雜收入中相當科目ニ編入スヘシ

第八條　過誤納金ノ還附ハ歳入金ノ内ヨリ拂戻シ前年度以前ニ係ルモノハ歳出中雜出ヨリ仕拂フモノトス

第九條　市町村税［期滿得免］ノ期限内ニ於テ脱税ヲ發見シタルトキハ一時ニ追徵シ現年度雜收入中相當科目ニ編入スヘシ

前年度ニ於テ延期セシ税ヲ收入シタル場合亦前項ニ同シ

第十條　支出命令ハ正當債權者若クハ其代理人ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

支出命令ハ前項權利者ノ請求書ニ基キ發スルヲ本則トス但町村ニ限リ第十三號乙號樣式ヲ以テ之ニ代ルコトヲ得

第十一條　支出諸證書ハ決算結了後各科目ニ區分シ表紙ニ所屬年度金員ノ合計、費目、紙數ヲ記載スヘシ一ノ證書ニシテ二科目以上ニ渉ルトキハ其費目、金員、事由ヲ朱記シタル寫ヲ一方ニ編綴スヘシ

假拂ノ精算ニ依リ過剩ヲ生シ又ハ誤拂等ニ依リ返納金アリタルトキハ最初徵セシ支出證書ニ其返納書ヲ添附スヘシ

第十二條　市町村會計帳簿ハ日計簿、歳入簿、歳出簿、財產原簿、備品原簿、消耗品受拂簿、假拂及繰替金整理簿、寄托金出納簿、徵收原簿、歳入延期簿ノ十種ヲ備ヘ市町村一切ノ出納ヲ登記スヘシ但整理上必要ト認ムルトキハ補助簿ヲ設ケ若クハ簿記式ニ據ルコトヲ得

第十三條　例月檢査ヲ行ヒタルトキ其收支及現金正確ナルモノハ日計簿當日現金ノ部ニ捺印シ檢査ノ證トナスヘシ

第十四條　會計檢査ハ收支命令書收入支出ノ證憑書類及帳簿ニ就キ檢査スヘシ

第十五條　臨時檢査ハ前二條ノ例ニ依リ之ヲ行フヘシ但立會人ハ立會ヲ證スルタメ市町村長ト共ニ捺印スルモノトス

第十六條　區及町村組合等ニ關スル會計モ此ノ規程ニ準據シ簿冊文書ヲ區別整理スヘシ

第十七條　凡ソ記簿ハ命令書ニ據ルニアラサレハ登記スルコトヲ得ス

日々出納スル金錢ハ非常ノ場合ヲ除ク外當日記簿ヲ完了スヘシ

帳簿ニ關スル凡例

一　帳簿ハ改描塗抹ヲ許サス若シ誤記脫字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ線（墨書ハ朱書ハ墨）ヲ畫シ傍ラニ正字（墨書ハ墨朱書ハ朱）ヲ記載シ主任者之ニ捺印スヘシ

一　帳簿ハ事由員數ヲ明カニ記入シ毎月末ニ計ヲ付シ二ヶ月目ヨリ月計及累計ヲ付スヘシ

一　日計簿ハ市町村費、縣稅、國稅其他（縣稅又ハ組合費等ノ工費金ヲ收支スルノ類）苟クモ市町村ノ事務トシテ日々收支スル現金ハ總テ本簿ニ記入シ其差引殘金卽チ毎日ノ現在金ヲシテ一見明瞭ナラシムヘシ

一　歳入簿歳出簿ハ欵項目ニ口座ヲ設ケ式ノ如ク（卽チ第一欵、第一項、第一目、第二目、第三目、第二欵、第一項、第一目、第二目、第二項、第一目、第二目ト順次記入ス尤モ目無キモノハ項ニ止ヌ項無キモノハ欵ニ止ム）記入ス其豫算及調定ノ改廢又ハ流用等ニテ增減ヲ生セシトキハ增ハ墨、減ハ朱ニテ各其相當欄內（新規開業等ニテ調定增及誤調定增ハ墨、誤調定減及處分ノ未缺損金等ハ朱ニテ調定細欄內ヘ、豫算追加及豫算流用增ハ墨、豫算刪減及豫算流用減等ハ朱ニテ豫算額欄內ヘ、過誤納還附ハ朱ニテ收入細欄內ヘ、過誤拂戻入ハ朱ニテ支出額欄內ヘ）ニ記入シ其時々殘額ヲ增減スヘシ

一　〔縣稅縣貯蓄金等ノ徵收原簿ハ市町村稅徵收原簿ニ同日記ハ歳入簿ニ準據スヘシ〕

一　假拂金及繰換金整理簿ハ假拂繰換拂及戻入ノトキハ各其相當欄內ヘ墨書スヘシ但精算戻入ノトキハ曩ニ仕拂フタル金額ノ事由欄內ヘ其顚末ヲ朱記スヘシ

一　寄托金出納簿ハ前項ノ例ニ依リ記入スヘシ（一時ノ寄托ニ依リ收支スルモノ歳入歳出及縣稅縣貯蓄金國稅等ニ屬セス）

一　前年度收支差引殘金ヲ現年度ニ繰越ストキハ一旦之ヲ支出シ現年度相當部分ヘ受入ルヘシ

一　前年度假拂繰換拂及寄托金ハ毎年三月三十一日ノ殘高ヲ支出シ現年度相當部分ヘ四月一日ノ高トシテ當初收支セシ年月日及事由ヲ詳記シ一廉毎ニ受入ルヘシ

一　財產原簿備品原簿ハ增減ノ時々之ヲ記入スヘシ

樣式（拔抄）

第六號　徵收原簿

（甲式）

第　號	前期				後期				備考
一金九圓九拾錢	稅目	稅金			稅目	稅金			
地租割	四、五〇〇								
戶別割									
段別割	四、七五〇								
〃	六五〇								
月　日領收									

第　號	前期				後期				備考
一金九圓九拾錢	稅目	稅金			稅目	稅金			
月　日領收									

第七號	歳入金延期簿
第十一號	收入命令書
第十二號	收入報告書
第十四號	賦課令狀

明治何年度

徵收原簿

（第六號樣式）　何市役所（何町村役場）

姓名	何某
備考	地價額遞算申立ニヨリ何月日減額訂正（或ハ令狀發布後地租何圓買得ニ付增額訂正）

備考

一　棄捐セシ分ハ朱ニテ其旨ヲ記入シ年度ヲ越ヘテ延期セシ分モ朱ニテ其旨ヲ記入シ一會計年度毎ニ本簿ハ完結セシムヘシ

二　雜收入其他隨時收入ニ係ルモノハ適宜調製スヘシ

三　末欄ニ調定總額ヲ記入シ置クヘシ增減ヲ生シタル場合亦同シ

(乙式)

第　號	一金	第　號	一金	第何號	一金	第何號	一金	第何號	一金
稅目	稅金	稅目	稅金	收入月日		收入月日		收入月日	
				備考		備考		備考	
月　日領收		月　日領收		第何號		第何號		第何號	
				一金		一金		一金	
				收入月日		收入月日		收入月日	
				備考		備考		備考	

備考　何月何日督促何月何日滯納處分ニテ納付　何某

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

(第十一號樣式)

令命入收

項目	金額	備考
市參事會 市(町村)長	掛	主任

第何號　明治何年度　市(町村)歲入　款市(町村)稅　月　日行

期延入歲度年何

種類	金額	延納期日	其他備考	住所	氏名
地價割	入	歲決	收		
〃	〇〇〇	七月廿一日	延		
〃	〃	三月十一日	納		
〃	〃	三月十一日	日		

備考　一　會計年度內ノ延期ヘ記載スルニ及ハス
二　本簿ニ記載スヘキヘ稅ノミニ限ラス其他ノ諸收入ヲモ包含ス

明治何年度

歲入金延期簿

(第七號樣式)　何市役所(何町村役場)

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

第何號　一金　收入月日　備考

(第十二號樣式)

符原

第何號	額金			科目	收入

令命入收

第何號	明治何年度	市(町村)歲入	款市(町村)稅
項	目	金額	備考
附直接國稅加稅	地價割	五入	〇〇〇

何某外何人分

右收入ス

明治何年何月　市參事會　市(町村)長　氏　名印

市(町村)收入役　何　某殿

村市長町

符原

附直接國稅加稅	地價割	五入	〇〇〇		何某外何人分

第何號　明治何年度　市(町村)歳入又ハ寄托金　欵

項	目	金額	備考	納人氏名

右收入セリ

明治何年何月日　市(町村)收入役　氏　名印

市參事會

市(町村)長　氏　名殿

備考

本號ノ原符樣式ハ收入命令原符樣式ノ如ク收入役ノ決議ヲ經ル樣ニナスモ妨ナシ

(第十四號樣式甲)

第何號　住所　何　某納

賦課令狀

明治何年度　市(町村)税　何期分

一金　地價割

一金　何々割

右明治何年何月何日限リ當市(町村)收入役ヘ納附アルヘシ

明治何年何月日　何市參事會　何市(町村)長　氏　名印

イ　收入役印

第何號　住所　何　某納

賦課令狀

明治何年度　市(町村)税　何期分

一金　地價割

一金　何々割

右明治何年何月何日限リ當町村收入役ヘ納附アルヘシ

明治何年何月日　何町村長　氏　名印

收入役印

領收證書

第何號　住所　何　某納

明治何年度　町村税　何期

一金　地價割

一金　戶別割

一金　營業割

右領收候也

明治何年何月日　何町村收入役　氏　名印

(備考)

一　町村ニ限リ此樣式ニ據ルコトヲ得

二　納税人現金納附ノトキ收入役ハ割印ヲナシテ切離シ領收證書ハ納税人ニ交附シ賦課令狀ハ之ヲ一括シ便宜ノ箇所ニ其合計金ヲ書キ入レ當日ノ總收入金ト照合ノ上之ヲ町村長ニ交附スヘシ

◉市税及市ノ徵收スル國税ノ納付ニ小切手使用方

神戸市長稟申　明治三十五年五月二十二日

本市ノ取扱ニ屬スル税金徵收上從來神戸手形交換所組合銀行ノ保證セル小切手ニ限リ爲換方ヲシテ收入方爲取扱居候處今般同組合銀行ニ宛テタル特定線引小切手及爲換方ニ宛テタル郵便爲換送金手形等ヲ以テ一般ノ徵收金ニ充テ之ヲ納付セシムル等一層納人ノ便宜ヲ圖リ當市内須要ノ場所ニ五ケ所以上ノ爲換方出張所ヲ設ケ諸收入ノ領收ヲ取扱ハシム可キ方法ニ改定シ且納税告知書賦課令狀及納額告知書ハ別記書式ノ如ク調製致度候條特ニ御聞置相成候樣致度爲換方ニ對スル命令書幷ニ告示案相添此段及稟申候也

○爲換方ヘ命令書案

第一條　當市(水道部)爲替方ハ市内便宜ノ場所ニ五ケ所以上ノ出張所ヲ設ケ總テ本店ノ責任ヲ以テ諸税其他ノ收入金ヲ領收スルモノトス

第二條　前項ノ出張所ハ豫メ參事會市長及收入役ノ同意ヲ得タル後ニ於テ設置スルモノトス

第三條　爲換方若クハ其出張所ニ於テ諸税其ノ他ノ收入金ヲ領收セントスルトキハ納人ヨリ納税告知書賦課令狀又ハ納額告知書ヲ添付セシメ其相違ナキヲ認メ之ヲ受領シ爲換方若クハ其出張所印ヲ押捺シタル領收證ヲ交付スルモノトス

第四條　爲換方ニ於テ領收シタル諸税其他ノ收入金ハ其領收ノ翌日(休日ニ當ルトキハ其翌日トス以下同シ)納税告知書又ハ賦課令狀其他ノ納額告知書(本店ニ於テハ納付書通知書)ヲ添ヘ出張所ハ之ヲ本店ニ本店ハ之ヲ收入役ニ各其合計金額人員幷ニ領收年月日等ヲ報告スルモノトス

第五條　郵便爲換及送金手形等ヲ爲換方ニ宛テ納付シタルモノアルトキハ現金ニ引換若クハ現金ト看做シ

納附書

第何號　住所　何　某納

明治何年度　市(町村)税　何期分

一金　地價割

一金　何々割

右納附候也

何市(町村)收入役　何　某殿

ロ　收入役印

領收證書

第何號　住所　何　某納

明治何年度　市(町村)税　何期分

一金　地價割

一金　何々割

右領收候也

明治何年何月日　何市(町村)收入役　氏　名印

備考

一　納税人現金納附ノトキ(ロ)印ニ割印切離シ領收證書ノミ納税人ニ交附スヘシ

二　賦課令狀ト納附書トハ收入役手許ニ留メ置キ(イ)印ニ割印切離シ賦課令狀ハ之ヲ一括シ便宜ノ箇所ニ其合計金ヲ書キ入レ當日ノ總收入金ト照合ノ上市(町村)長ニ回附シ納附書ハ猶ホ留メ置キテ後日ノ照合ニ供スヘシ

(第十四號樣式乙)

賦課令狀

第何號　住所　何　某納

明治何年度　町村税　何期

一金　地價割

前各條ニ依リ取扱モノトス

第六條　手切手ヲ以テ諸税其他收入金ニ充テ納付セントスルモノアルトキハ神戸手形交換所組合銀行ノ保證アルモノ及同銀行宛ノ特定線引ニ限リ左ノ各項ニ依リ之ヲ領收スルモノトス

神戸手形交換所組合銀行ノ保證アル小切手ヲ以テ納付セントスルモノアルトキハ爲換方ノ本店又ハ出張所ニ於テハ其責任ヲ以テ之ヲ現金ト看做シ領收スルモノトス

同上銀行宛ノ線引小切手ヲ以テ納付セントスルモノアルトキハ納税告知書又ハ賦課令狀其他納額告知書裏面ニ別紙書式ノ如ク記載捺印セシメ其領收ノ上ハ領收證金額左傍ニ是等書式ノ如ク記入ノ上納付者ニ交付スルモノトス

爲換方本店又ハ出張所ニ於テ領收シタル小切手ハ同盟銀行ノ保證アルモノヲ除クノ外各其領收ノ翌日之ヲ現金ニ引換ヘ必ス本領收ノ手續ヲ爲スモノトス

前項領收シタル小切手ニシテ不渡等ノ塲合ハ該小切手ニ納税告知書又ハ賦課令狀其他納額告知書ヲ添ヘ當日又ハ晩クモ翌日迄ニ總テ爲換方本店ヨリ之ヲ收入役ニ報告スルモノトス

不渡等ノ小切手ニシテ其領收ノ日ヨリ三日ヲ過キ前項ノ手續ヲ爲サヽルトキハ理由ノ何タルヲ問ハス該小切手ニ對スル金額ハ爲換方ノ負擔トス

第七條　爲換方ニ於テ前各項ニ違背シタル取扱ヲ爲シ又ハ故意怠慢其他錯誤等ヨリ生シタル損失ハ總テ爲換方ノ負擔トス

第八條　市參事會市長ハ必要ニ應シ爲換方ニ保管スル納税告知書賦課令狀又ハ納額告知書ニヨリ右ニ關スル諸帳簿現金並ニ取扱等ノ當否ヲ調査スルコトアルヘシ

○告示案

一　當市及水道部爲換方ハ左記ノ個所ニ出張所ヲ設ケ本年月日ヨリ諸税其他ノ收入金取扱ヲ開始ス

市内、、、、　同　同　同　（出張所々在地ヲ掲ク）

一　爲換方及其出張所ノ取扱ニ係ル諸税其他ノ收入金ニ對スル領收證書ハ納税告知書賦課令狀又ハ納額告知書ニ接續スル領收證書用紙ニ其取扱所名義ノ印ヲ押捺スルモノトス

一　爲換方及其出張所ニ於テ發シタル領收證書ハ該證書記載ノ日付ヨリ十日以内ニ市長ヨリ其納付ニ關スル通告ヲ爲サヽルトキハ有効トシ收入役ヨリ更ニ領收證書ヲ交付セス

一　納付者住所不明等ノ爲メ前項ノ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ通知ノ趣旨ヲ公示シ送達アリタルモノト看做ス

一　神戸手形交換所組合銀行宛ノ線引小切手及爲換方ヘ宛テ振出シタル郵便爲換送金手形ヲ以テ本市ノ取扱ニ係ル諸税其他ノ收入金ニ充テ納付スルコトヲ得

一　郵便爲換送金手形小切手ヲ以テ納付シタルモノニ對シテ爲換方若クハ其出張所ニ於テ發付シタル領收證書ハ不渡等ノ塲合ハ無効トス

郵便爲替送金手形既定ノ小切手ヲ以テ納付セントスルモノハ本書ノ裏ニ式ノ如ク記載シ署名捺印スルモノトス

（納額告知書）
（賦課令狀）

第　號	住所	何　某　納
年度	市税	直接國税附加税	何年何期分

一金
右明治何年何月何日限リ當市收入役ヘ納付
明治　年　月　日
兵庫縣神戸市參事會
神戸市長

割印……「爲替方出張所ニ於テ取扱タルトキハ領收證書ノ捺印ヲ以テス」

納付濟通知書

第　號	住所	何　某　納
年度	市税	直接國税附加税	何年何期分

一金
明治　年　月　日領收
兵庫縣神戸市收入役宛
神戸市爲替方何々出張所
地租割

……割印……「前同斷」……

領收證書

第　號	住所	何　某　納
年度	市税	直接國税附加税	何年何期分

一金
明治　年　月　日領收
地租割
但現金ニ代用納付シタル（小切手、送金手形、郵便爲替）不渡ノトキハ本領收證書ハ無效トス
兵庫縣神戸市收入役
（爲替方出張所ニ於テ領收シタルトキノ例）神戸市爲替方
（何年何月何日何々出張所取扱ナルヲ表示スル印ヲ押捺ス）

（納税告知書）
（賦課令狀）
（納額告知書）

第　號	住所	何　某　納
明治何年度	租税（市税）	地租（直接國税附加税）	何期分

一金
右明治何年何月何日限リ當市收入税ヘ納付セラルヘシ
明治　年　月　日
兵庫縣神戸市參事會
神戸市長
田租（地租割）

……爲替方出張所ノ取扱ニ係ル分……
爲替方印

納付濟通知書

第　號	住所	何　某　納
明治何年度	租税（市税）	地租（直接國税附加税）	何期

一金
右之通候也
田租（地租割）

知書

明治　年　月　日

「神戸市爲替方本店又ハ出張所」
兵庫縣神戸市收入役宛

……爲替方印……

領收證書

第　號	住所　何　某納		
明治何年度	租税（市税）	地租（直接國税）（附加税）	何期分
一金　右領收候也　但現金ニ代用納付シタル（小切手）（送金手形）（郵便爲替）不渡ノトキハ本領收證書ハ無效トス　明治　年　月　日領收　兵庫縣神戸市收入役		田租（地租割）	

書式中「」ノ内（）ヲ除ク外ハ不動文字トス

賦課令狀納税（額）告知書ノ裏面

種類	金額	番號又ハ記號	受取人ノ氏名若ハ商號又ハ所持人ノ氏名	振出人ノ氏名若ハ商號	振出ノ年月日	支拂地

内務部長通牒（同三十七年十月二十六日　兵庫縣總外治第二七〇號ノ三）

去ル三十五年五月二十二日會發第二一五六號ヲ以テ貴市ニ於ケル租税公課其他諸收入徵收ニ關シ爲換方出張所ヲ設ケ小切手其ノ他ノ證劵ヲ以テ納付セシムル件稟申相成候處右市ノ收入ニ對シテハ別段支障無之候條左樣御承知相成度依命此段及通牒候也

追而爲換方出張所設置ノ件ハ市限リ便宜御取計相成可然國税ノ納付方ニ關シテハ當該税務官廳ヘ御交渉相成度此段申添候也

前記（小切手、送金手形、郵便爲替）ヲ以テ表書金額ニ對シ納入候ニ付萬一不渡等ノトキハ更ニ現金ニ換ヘ納付可仕候也

年　月　日

納人住所
氏　名

第五輯　水利組合費

水利組合法（明治四十一年四月十三日　法律第五十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル水利組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合法

第一章　總則

第一條　水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條　水利組合ハ法人トス

第三條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

組合規約ハ之ヲ告示スヘシ其ノ改正アリタルトキ亦同シ

第四條　水利組合ハ分チテ左ノ二種トス

一　普通水利組合

二　水害豫防組合

第五條　普通水利組合ハ灌漑排水ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第六條　普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第七條　水害豫防組合ハ水害防禦ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第八條　水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地、家屋及組合規約ニ指定スル工作物ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第九條　水害豫防組合ニ於テ其ノ區域全部ニ渉リ灌漑排水ニ關スル事業ノ必要アルトキハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ灌漑排水ノ事業ニ關スル部分ニ付テハ普通水利組合ノ規定ヲ準用ス

第二章　組合ノ設置及廢止

第十條　水利組合ヲ設置セムトスルトキハ府縣知事ニ於テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ郡長市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ但シ普通水利組合ノ設置ニ付テハ組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ組合事業ニ關係アル郡長又ハ市町村長ノ具申アル場合ニ限ル

第三十三條第三項ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

第十一條　創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ便宜總代人ヲ選ハシメ其ノ集會ヲ以テ總會議ニ充ツルコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議長ハ創立委員ヲ以テ之ニ充ツ創立委員數人アルトキハ府縣知事其ノ中一人ヲ指定ス

總會議又ハ總代人會ハ關係者又ハ總代人ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ創立委員ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ關係者又ハ總代人ノ代人ヲ許スコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

總會議費又ハ總代人會費其ノ他創立ニ關スル費用ハ

組合設置ノ後組合費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　創立委員ハ組合規約ノ議決ヲ經タルトキ府縣知事ニ其ノ許可ヲ請フヘシ

第十三條　普通水利組合關係者ノ總會議又ハ總代人會ニ於テ議決シタル組合規約又ハ其ノ議決ノ方法法令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

水害豫防組合關係者ノ總會議若ハ總代人會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ議決スルモ其ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第十四條　水利組合ハ組合規約ノ許可又ハ前條第二項ニ依ル組合規約ノ設定ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ組合設置ノ旨ヲ告示スヘシ

第十五條　水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ハ普通水利組合ニ在リテハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ行ヒ水害豫防組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ組合規約ノ設定若ハ改正又ハ財産處分ヲ要スルトキハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ水害豫防組合ニ於テ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ定ム

水利組合ハ民法上ノ義務ヲ完了スルニ非サレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

普通水利組合ノ區域ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合區域ニ編入セラルル土地アルトキハ管理者ハ其ノ土地ノ關係者ノ同意又ハ關係者ノ總會議若ハ總代人會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

前項總會議又ハ總代人會ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ創立委員ノ職務ハ管理者之ヲ行フ

第十六條　水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三章　組合ノ會議

第十七條　水利組合ニ組合會ヲ置ク

第十八條　組合會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

組合會議員選擧人被選擧人ノ資格議員ノ定數任期及選擧ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

組合會議員ノ選擧ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

當選者定リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

組合會議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第十九條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第二十條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管理者ハ十四日以内ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願スルコトヲ得

第一次監督官廳ニ於テ選擧又ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選擧又ハ當選ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及組合會ノ決定ハ無效トス

本條第一次監督官廳ノ處分又ハ裁決ニ不服アルモノハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ處分又ハ裁決ニ不服アルモノハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十一條　組合會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサルモノハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ組合會之ヲ決定ス

管理者ニ於テ組合會議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ

本條組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十條第六項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　前二條ニ規定スル異議ノ決定訴願ノ裁決及第二十條第三項ノ處分ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十三條　組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　組合費ヲ以テ支辨スヘキ事業

三　歳入出豫算ヲ定ムル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手數料加入金組合費及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六　不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

八　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　組合吏員ノ身元保證ニ關スル事
十一　組合ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第二十四條　組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ管理者又ハ其ノ指定シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十五條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ渉ルモノニ在リテハ組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選擧スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ例ニ依ル

前項選擧ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

議員中ヨリ議長ヲ選擧スル組合ニ在リテハ議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ

第二十六條　管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　組合會ハ毎年一回通常會ヲ開キ其ノ他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク

臨時會ニ付スヘキ事件ハ招集ノ告知ト共ニ之ヲ告知スヘシ但シ其ノ開會中急務ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ管理者之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ管理者ハ之ヲ招集スヘシ

管理者ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ組合會ヲ招集スルコトヲ得

組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　管理者ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
二　議長ニ於テ傍聽禁止ノ必要アリト認メタルトキ
三　議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項第三號ニ依ル發議ハ討論ヲ用ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第二十八條　組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條　組合規約ノ設定改正及普通水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條　組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本章中規定スルモノノ外市制町村制ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　特別ノ事情アル組合ニ於テハ府縣知事ハ組合會ヲ設ケス組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ總會ニ出席スヘキ組合員ニ關シテハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合總會ニ關シテハ組合會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　組合ノ管理

第三十三條　府縣知事ハ水利組合關係地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人ヲ指定シ其ノ組合ノ事務ヲ管理セシムヘシ

府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

管理者タル郡長又ハ市町村長故障アルトキハ其ノ代理者之ヲ代理ス

組合ノ區域數市町村ニ渉ル場合ニ於テ選擧區又ハ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各市町村長又ハ其ノ代理者ハ管理者ノ求ニ依リ議員選擧ニ關スル事務ヲ管理スヘシ組合員及組合費賦課物件ノ異動ニ關スル事務ニ付テモ亦同シ

第三十四條　組合ノ出納其ノ他會計事務ハ郡長管理者タル場合ハ郡長ノ指定シタル郡書記ヲシテ之ヲ掌ラシメ市町村長管理者タル場合ハ其ノ市町村收入役ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ管理者ニ於テ第三十六條ノ吏員中ニ就キ會計事務ヲ掌ル者ヲ定ムルコトヲ得

前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　組合ハ組合規約ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十六條　組合ハ書記技術員其ノ他ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

吏員ハ管理者之ヲ任免ス

第三十七條　管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

管理者ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　組合會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
二　財產及營造物ヲ管理スル事
三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
四　證書及公文書類ヲ保管スル事
五　法令又ハ組合會ノ議決ニ依リ使用料手數料加入金組合費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

第三十八條　管理者ハ組合吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命

ニ係ル組合吏員ニ對シテハ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三十九條　組合會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ組合規約ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ塲合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選擧ヲ取消スコトヲ得但シ指揮ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項郡長ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ前二項府縣知事ノ處分ニ不服アル組合會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會ノ議決公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ塲合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

前項第一次監督官廳ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル塲合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十條　組合會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ第二十八條但書ノ塲合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ管理者ハ第一次監督官廳ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

組合會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

組合會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ塲合ニ於ケル管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條　組合會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル塲合ニ於テ組合會成立セス又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

前項管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條　委員ハ管理者ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他組合事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第四十三條　吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條　組合會議員及委員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得郡長又ハ市町村長ニ於テ管理者タル職務ヲ行フ爲要スル費用第三十三條第四項ノ事務ヲ行フ爲要スル費用及郡書記又ハ市町村收入役ニ於テ組合ノ會計事務ヲ行フ爲要スル費用ニ付亦同シ

吏員ニハ退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條　費用辨償額給料額旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第四十六條　費用辨償給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ハ組合ノ負擔トス

第五章　組合ノ財務

第四十七條　組合ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第四十八條　普通水利組合費ハ土地及家屋其ノ他第八條ニ依ル工作物ニ對シテ之ヲ賦課スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノハ土地ニ對シテノミ之ヲ賦課スルコトヲ得

普通水利組合ニ於テハ新ニ區域內ニ編入スル土地ニ付組合費ノ外一時ノ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

第四十九條　組合ハ其ノ事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得

水害豫防組合ニ在リテハ夫役ニ限リ其ノ區域內ノ總居住者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

夫役現品及其ノ代納ニ關スル規定ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十條　非常災害ノ爲必要アルトキハ組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スルコトヲ要ス

水害豫防組合ニ於テハ前項ノ外出水ノ爲メ危險アルトキニ限リ管理者警察官又ハ監督官廳ニ於テ組合區域內ノ總居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一項土地ノ一時使用ニ關スル組合ノ處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル塲合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五十一條　組合內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ

關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シ特ニ賦課スルコトヲ得

舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　組合費ノ賦課ヲ免除スヘキモノニ關シテハ市町村税ノ例ニ依ル

第五十三條　組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル範圍内ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

前項ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十四條　組合ノ區域數市町村ニ渉ルトキハ各市町村ハ管理者ノ求ニ依リ其ノ市町村内ニ於ケル組合費其ノ他組合ノ收入ノ賦課徵收ヲ爲スヘシ

前項組合費其ノ他組合ノ收入ノ徵收ニ關シテハ組合規約ノ規定ニ依リ徵收金百分ノ四以内ヲ其ノ市町村ニ交付スルコトヲ得

第五十五條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ組合費其ノ他組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義務ノ免除ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

組合ニ於テ前項ノ請求ニ應セサルトキハ市町村ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ組合ノ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ

第五十六條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促及滯納處分ニ關シテハ市町村税ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ關シテハ第五十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第五十七條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促ニ付テハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ督促手數料ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

組合ノ徵收金ハ市町村ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

第五十八條　管理者ハ組合費ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ其ノ納付ノ延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

管理者ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合會ノ議決ヲ經テ組合費ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條　組合費及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ賦課令狀ノ交付後三月以内ニ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

加入金使用料及手數料ノ徵收ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

本條ノ異議ハ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルモノハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第六十條　組合ハ特定ノ目的ノ爲積立基金ヲ設クルコトヲ得

第六十一條　組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第六十三條　管理者ハ毎會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第六十四條　組合費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第六十五條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十六條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十七條　組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ヨリ其ノ謄本ヲ組合ノ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ニ交付スヘシ

會計事務ヲ掌ル官吏吏員ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流

用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第六十八條　組合ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第六十九條　組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ヨリ之ヲ管理者ニ提出スヘシ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常會迄ニ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ハ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者及其ノ代理者共ニ議長タルコトヲ得ス

第七十條　豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第六章　組合ノ聯合

第七十一條　水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ水利組合ノ聯合ヲ設クルコトヲ得

水利組合聯合ハ之ヲ法人トス

水利組合聯合ニシテ其ノ聯合組合ノ數ヲ增減シ又ハ共同事業ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ組合ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ聯合ヲ解カムトスルトキ亦同シ

水利組合聯合ニ關シテハ水利組合ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第七章　組合ノ監督

第七十二條　組合ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス但シ組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市內ニ止ル場合及郡內ニ止ルモ郡長管組者タル場合ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ組合事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ組合事務ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條　本法ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以內ニ之ヲ提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十四條　監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ組合會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ三月以內ニ議員ヲ選擧スヘシ

第七十六條　組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ第一次監督官廳ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ第一次監督官廳ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ處分又ハ裁決ニ不服アルトキハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十七條　組合ニ於テ負債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　不動產ノ管理及處分ニ關スル事

三　不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合內ノ一部ニ對シ特ニ賦課ヲ爲ス事

四　加入金使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

五　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

六　寄附及補助ヲ爲ス事

七　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第七十九條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第八十一條　監督官廳タル府縣知事郡長ハ第三十五條ノ委員及第三十六條ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

郡長ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル

者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間水利組合ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　組合吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章　雜則

第八十三條　本法ノ規定ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其ノ成立ニ至ル迄管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十四條　本法ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ渉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事ヲ指定スヘシ

第八十五條　本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定ム

附則

第八十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十七條　本法施行ノ際現ニ存スル水利組合ハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第八十八條　水利組合條例ニ依リ爲シタル諸般ノ行爲ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第八十九條　水利組合條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議訴願又ハ訴訟ニ關シテハ水利組合條例ニ依ル

第九十條　本法施行ノ際現ニ存スル舊町村會又ハ水利土功會ニシテ其ノ目的トスル事業カ本法ノ規定ニ牴觸セサルトキハ之ヲ本法ノ規定ニ依リ設置シタル水利組合ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從來ノ吏員及議員ハ總テ其ノ職ヲ失フモノトス

第一項ノ水利組合及其ノ管理者ハ府縣知事ニ於テ直ニ之ヲ告示スヘシ

前項ノ告示アリタルトキハ管理者ハ遲滯ナク組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

◉水利組合法施行期日（明治四十一年八月三日勅令第百九十號）

朕水利組合法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉水利組合ノ豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定（明治四十一年八月三日内務省令第十三號）

水利組合法第七十條ニ依リ豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　組合費其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條　各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額現金前渡前金拂概算拂繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第四條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條　歳出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ其ノ各部及歳入豫算ハ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ必要アルトキハ歳入豫算ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スルコトヲ得

第八條　歳入歳出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第九條　繼續費ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第十二條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十三條　會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生シ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十四條　組合ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ管理者之ヲ爲シ臨時檢査ニハ組合會ニ於テ選擧シタル議員二人以上立會ハシムヘシ

第十五條　組合ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲組合會ノ議決ヲ經テ組合金庫ヲ置クコトヲ得

第十六條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付責任ヲ有ス

第十八條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ組合ニ提出スヘシ其ノ擔保ニ關シテハ府縣知事ノ許可ヲ經テ管理者之ヲ定ム

第十九條　管理者ハ組合金庫ヲ監督シ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ檢査シ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條　本令ニ規定スルモノノ外組合ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

（第一號）（抜抄）

明治何年度某府（縣）某市郡某町村某普通水利組合水害豫防組合歳入歳出豫算書

歳入

第一款　組合費　金

第一項　段別割　金

但田段別何程一段歩ニ付金何程畑段別何程一段歩ニ付金何程其ノ他準之

第二項　地價割　金

但地租額ノ貳割百分何程地租一圓ニ付金何程

第三項　家屋割　金

但家屋坪數（又ハ棟數）何程一坪（一棟）ニ付金何程

第四項　何々　金

但

第二款　夫役　金

第一項　夫役　金

但夫役何人一人ニ付金何程

第三款　現品　金

第一項　現品　金

但何品何程一箇（一件）ニ付金何程

（第二號略）

◉水利組合歳入歳出豫算ニ付スヘキ豫算説明ノ式（抜抄）（明治四十一年九月三十日兵庫縣訓令甲第三十二號）

内務部　郡役所　水利組合

本年八月内務省令第十三條第八條ニ依リ水利組合歳入歳出豫算ニ付スヘキ豫算説明ノ式左ノ通定ム

（甲號）

第一目　家屋割							
第四項　何々							
第一目　何々							
第二款　夫役							
第一項　夫役							
第一目　夫役							
第三款　現品							
第一項　現品							
第一目　現品							

凡例

一　歳入豫算ヲ經常、臨時ノ二部ニ大別スルトキハ説明書ハ乙號ニ豫算表ハ括弧ノ例ニ依リテ記載シ（以下略）

二　各科目ハ更ニ之ヲ節ニ細分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ目ノ備考欄内ニ其ノ科目ヲ列記スヘシ

三　各科目計算ノ基ク處ヲ目ノ備考欄内ニ示スヘシ節ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ腹書トシテ示スヘシ（但書略）

四　（略）

五　説明書ハ豫算表ノ各款毎ニ之ヲ付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ總括説明書ハ第一款説明書ノ前ニ付スヘシ

六　水利組合法第十九條ニ依リ夫役、現品ヲ賦課スル場合ハ其ノ金額賦課ノ方法、代納ノ員數算出方法及事業等ヲ（中略）詳記シ豫算外別議案ヲ用ユヘシ

明治何年度兵庫縣某市郡某町村某普通水利組合水害豫防組合歳入豫算説明

歳入ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ（増）（減）ス其ノ理由ハ概子何々ノ爲何費、何料ヲ（増）（減）スルモ何收入又ハ何々ヲ（増）（減）スルニ由ル

第一款　組合費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ（増）（減）ス其ノ理由ハ何々ニ由ル

（乙號）

明治何年度兵庫縣某市郡某町村某普通水利組合水害豫防組合歳入豫算説明

歳入經常ニ關スル部

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ（増）（減）ス其ノ理由ハ概子何々ノ爲何費、何料ヲ（増）（減）スルモ何收入又ハ何々ヲ（増）（減）スルニ由ル

第一款　組合費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ（増）（減）ス其ノ理由ハ何々ニ由ル

歳入（歳入經常部）					備考
科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較 増	比較 減	
第一款　組合費					
第一項　段別割					
第一目　段別割					
第二項　地價割					
第一目　地價割					
第三項　家屋割					

附錄

訴願及行政訴訟

◉訴願法（明治二十三年十月十日法律第百五號）

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

訴願法

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租税及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租税滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件

六　地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其

省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ辱侮誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限內ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以內ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以內ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條　明治十五年十二月第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ル限ニ在ラス

◉行政裁判法（明治二十三年六月三十日法律第四十八號）

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歲以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ內閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルルモノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三　兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官